

琵琶湖博物館業績目録

9号

2004年度



LAKE BIWA MUSEUM
琵琶湖博物館

Performance Records of the Lake Biwa Museum, No. 9

From April 2004 to March 2005

Edited by the Lake Biwa Museum (Chief editor: SATOGUCHI, Yasufumi)

Published by the Lake Biwa Museum

Oroshimo-cho 1091, Kusatsu, Shiga 525-0001, Japan

© Lake Biwa Museum, November 2005

All rights reserved

琵琶湖博物館業績目録

第 9 号

2004 年度

滋賀県立琵琶湖博物館 編

滋賀県立琵琶湖博物館

2005 年 12 月

目 次

館長

川那部 浩哉	KAWANABE, Hiroya	5
--------	------------------	---

研究顧問

嘉田 由紀子	KADA, Yukiko	9
--------	--------------	---

上席総括学芸員

布谷 知夫	NUNOTANI, Tomoo	13
-------	-----------------	----

環境史研究領域

中島 経夫	NAKAJIMA, Tsuneo	20
高橋 啓一	TAKAHASHI, Keiichi	24
用田 政晴	YODA, Masaharu	27
牧野 久実	MAKINO, Kumi	31
山川千代美	YAMAKAWA, Chiyomi	33
橋本 道範	HASHIMOTO, Michinori	35
里口 保文	SATOGUCHI, Yasufumi	37
宮本 真二	MIYAMOTO, Shinji	40
榊永 一宏	MASUNAGA, Kazuhiro	43

生態系研究領域

前畑 政善	MAEHATA, Masayoshi	46
杉谷 博隆	SUGITANI, Hiroataka	51
武部 強	TAKEBE, Tsuyoshi	53
金子 修一	KANEKO, Shuichi	55
孝橋 賢一	KOUHASHI, Kenichi	57
草加 伸吾	KUSAKA, Shingo	62
楠岡 泰	KUSUOKA, Yasushi	66
中井 克樹	NAKAI, Katsuki	70
松田 征也	MATSUDA, Masanari	79
桑原 雅之	KUWAHARA, Masayuki	83
牧野 厚史	MAKINO, Atsushi	86
芳賀 裕樹	HAGA, Hiroki	88
矢野 晋吾	YANO, Shingo	90
亀田佳代子	KAMEDA, Kayoko	93
大塚 泰介	OTSUKA, Taisuke	98
スミス, ロビン J.	SMITH, Robin James	102

博物館学研究領域

グライガー, マーク J.	GRYGIER, Mark J.	104
秋山 廣光	AKIYAMA, Hiromitsu	109
戸田 孝	TODA, Takashi	113

八尋 克郎	YAHIRO, Katsuro	116
谷口 雅之	TANIGUCHI, Masashi	120
西垣 亨	NISHIGAKI, Toru	125
芦谷美奈子	ASHIYA, Minako	129
中藤 容子	NAKATO, Yoko	130
嘱託職員等		
青木 伸子	AOKI, Nobuko	134
磯野なつ子	ISONO, Natsuko	136
大川 聡	OKAWA, Satoshi	137
太田 佳恵	OOTA, Yoshie	138
堀田 桃子	HOTTA, Momoko	139
特別研究員		
大原 健一	OHARA, Kenichi	140
高橋 鉄美	TAKAHASHI, Tetsumi	141
野嶋 宏二	NOJIMA, Koji	143
藤田 裕子	FUJITA, Yuko	144
総合研究・共同研究成果と関連した印刷物		146
2004 年度の研究活動をふりかえって		147

収録内容

1. この業績目録には、滋賀県立琵琶湖博物館の学芸職員および嘱託員、特別研究員等の2004年4月から2005年3月までの内容が収録されています。
2. この業績目録には、次の項目に該当する業績を収録しました。

一年間の研究

印刷物

- 【学術論文】
- 【専門分野の著作】
- 【一般向けの著作】
- 【これまでの業績集に掲載されていない著作】

研究活動に関する業績

- 【学会・研究会での発表】
- 【インターネットページでの公表】
- 【研究プロジェクト等への参加】
- 【学会等の役職・運営、論文の査読など】
- 【大学の講義・実習、学生の指導など】
- 【受賞など】

博物館事業に関する事業

- 【交流・サービス事業】
 - 琵琶湖博物館の主催行事
 - 他の博物館・機関等主催行事
 - 視察対応
 - メディアへの協力
- 【情報整備活動】
 - 琵琶湖博物館の活動
 - 他博物館・機関の活動
- 【資料整備活動】
 - 琵琶湖博物館の活動
 - 他博物館・機関の活動

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

他博物館・機関の活動

【企画調整活動】

【研究部関連事業】

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

【海外渡航】

【館外の活動】

印刷物

【一般向けの著作】

- 川那部浩哉（2004）序；琵琶湖集水域における中世村落確立過程の研究．滋賀県立琵琶湖博物館（橋本道範）（編），
琵琶湖博物館研究調査報告，21：1.
- 川那部浩哉（2004）はじめに；伯母川博物館ものがたり．滋賀県立琵琶湖博物館（西垣 亨）（編），伯母川探検隊
－地域の人とつくる伯母川博物館－報告書：7.
- 川那部浩哉（2004）明日への視座；環境の世紀を押し進めるために．京都新聞：2004年4月17日.
- 川那部浩哉（2004）地域における研究活動の一例－「まえがき」にかえて－；アジア基層文化の探求－アジアから
日本列島と琵琶湖を見る－．アジア考古学研究機構（用田政晴）（編），琵琶湖博物館研究調査報告，22：i.
- 川那部浩哉（2004）川はすべて、ずっと泳いで下りたい．ECOSOPHIA，13：i.
- 川那部浩哉（2004）縄文の自然環境 III；湖と人間－歴史的探求のこころみ－．梅原 猛（編），縄文人の世界－
日本人の原像を求めて，角川書店，東京：318-335.
- 川那部浩哉・梅原 猛・西田正規（2004）縄文の自然環境 III 対談：湖と人間の関係．梅原 猛（編），縄文人の世
界－日本人の原像を求めて，角川書店，東京：336-353.
- 川那部浩哉（2004）明日への視座；風土はどこへ消えた？．京都新聞：2004年6月19日.
- 川那部浩哉（2004）今日は、松下さんについてではなく、『草の根通信』について書きたい．草の根通信，380：21.
- 川那部浩哉（2004）はじめに；のびる・ひらく・ひろがる－植物がうごくとき－．布谷知夫・北村 彰・永井希恵（編），
琵琶湖博物館企画展示解説書：1-2.
- 川那部浩哉（2004）明日への視座；生きものに良い密度．京都新聞：2004年8月28日.
- 小笠原 亮・川那部浩哉（2004）植物を楽しむ－園芸文化の過去と現在－．うみんど，32：4-5.
- 川那部浩哉（2004）明日への視座；琵琶湖はどこへいく．京都新聞：2004年10月30日.
- 粕谷志郎・尾田栄章・Johnson, J. F.・小野有五・Wegner, D. L.・在間正史・村上哲生・川那部浩哉・近藤昭一（2004）
河川再生への道；行政、研究者、NGO が果たすべき役割．リバーポリシーネットワーク，2：1-14.
- 川那部浩哉（2004）明日への視座；鳳来寺山の水と人、対処工夫し自然と共存へ．京都新聞：2004年12月25日.
- 川那部浩哉（2005）水質が変わった、自然のリズムを基に発想転換を．京都新聞：2005年1月1日.
- 川那部浩哉（2005）フェアブル『昆虫記』百年．潮，2005（1）：68-70.
- 川那部浩哉（2005）ブランドス『十九世紀文藝主潮史』．ミネルヴァ通信，2005（1）：9.
- 川那部浩哉（2005）2004年読書アンケート．みすず，524：64-65.
- 川那部浩哉（2005）推薦します；やさしい日本の淡水プランクトン図解ハンドブック．一瀬 論・若林徹哉（監修），
滋賀の理科教材研究委員会（編），合同出版，東京，帯.
- 川那部浩哉（2005）はじめに；植物標本4－村瀬忠義植物標本目録合弁花類．琵琶湖博物館資料目録，11：1.
- 川那部浩哉（2005）はじめに；植物標本5－村瀬忠義植物標本目録離弁花類．琵琶湖博物館資料目録，12：1.
- 中島省三・川那部浩哉（2005）琵琶湖の今昔－空からの映像をもとに－．うみんど，34：4-5.

【これまでの業績集に掲載されていない著作】

- 松本忠夫・大島康行・川那部浩哉（2003）日本生態学会発足時に関する3つの座談会について．日本生態学会誌，
53：137.

宝月欣二・佐藤大七郎・大島康行・川那部浩哉・松本忠夫・渡辺泰徳（2003）日本生態学会発足時に関する第1回座談会. *日本生態学会誌*, 53 : 137-141.

森 主一・梅棹忠夫・吉良竜夫・大島康行・川那部浩哉・松本忠夫・三原喜久子（2003）日本生態学会発足時に関する第2回座談会. *日本生態学会誌*, 53 : 141-146.

飯泉 茂・栗原 康・大島康行・川那部浩哉・西平守孝・松本忠夫（2003）日本生態学会発足時に関する第3回座談会. *日本生態学会誌*, 53 : 146-154.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

川那部浩哉（2004年5月15日）身近な環境をみつめて. 生き物文化誌学会第2回学術大会, 生き物文化誌学会, 琵琶湖博物館（滋賀県草津市）, [講演].

川那部浩哉（2004年6月1日）自然を観る眼と社会も観る眼. 帝京科学大学理工学部アニマルサイエンス学科講演, 帝京科学大学理工学部アニマルサイエンス学科（山梨県上野原町）, [講演].

川那部浩哉（2004年10月28日）川の生物環境と私. 第6回新たな川づくり研究会, 新たな川づくり研究会, 国土交通省近畿整備局（大阪市）, [講演].

川那部浩哉（2004年10月31日）- 水・草・鳥・魚・虫たちが織りなすユニークな自然- 「柿田川のおもしろさ」. 柿田川シンポジウム, 柿田川生態系研究会, ホテル エルムリージェンシー（静岡県沼津市）, [講演].

川那部浩哉（2004年11月22日）琉球列島の生物多様性と私. 琉球大学21世紀COEプログラム特別講演会, 琉球大学21世紀COE事務局, 琉球大学理学部（沖縄県中頭郡西原町）, [講演].

川那部浩哉（2004年12月5日）子ども流域協議会準備会立ち上げ会「川の生態系」. 子どもと川と水のフォーラム, 清水寺円通殿（京都市東山区）, [講演].

川那部浩哉（2004年12月18日）はじめに；博物館は学びの場となりうるのか. 平成16年度琵琶湖博物館研究発表会, 琵琶湖博物館, [挨拶].

川那部浩哉（2005年3月14日）水環境とくらしの調和部会（座談会）. 地球環境関西フォーラム, 京都センチュリーホテル（京都市下京区）, [座長].

【研究プロジェクト等への参加】

文部科学省科学研究費・特定領域研究「種形成の分子機構の総括」（研究代表者：東京工業大学大学院生命理工学部、岡田典弘）, 評価委員.

平成16年度島根大学重点研究プロジェクト「汽水域の自然・環境再生研究拠点形成プロジェクト」（研究代表者：島根大学汽水域研究センター、國井秀伸）, 評価委員.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

国際理論応用陸水学会（SIL）, 生物多様性委員会, 委員長.

日本魚類学会, 評議員.

生き物文化誌学会, 評議員.

African Journal of Tropical Hydrobiology and Fisheries, 編集委員.

Environmental Biology of Fishes, 編集委員.

International Journal of Ecology and Environmental Biology, 編集委員.

Brasilian Journal of Ecology, 編集委員.

Hydrobiologia, 編集委員.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2004 年度後期、滋賀県立大学、非常勤講師「生物多様性論」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー、琵琶湖博物館、10 件.

他の博物館・機関等主催行事

2004 年 4 月 16 日、琵琶湖と私- 過去、現在、未来、滋賀化粧品工業界、滋賀化粧品工業界二十周年記念式典記念講演、ホテルニューオウミ（滋賀県近江八幡市）、講演.

2004 年 12 月 15 日、川や湖の魚、京都市生涯学習センター山科、学びのフォーラム、京都市生涯学習センター山科（京都市山科区）、講演.

2004 年 12 月 16 日、水を語り継ぐ豊川フォーラム、水を語り継ぐ豊川フォーラム実行委員会・全国水問題協議会、愛知県民の森（愛知県鳳来町）、座長・コメンテーター.

2005 年 3 月 23 日、生態学研究からみた地球環境の未来、京都大学、京都大学未来フォーラム、京都大学時計台記念館百周年記念ホール（京都市左京区）、講演.

メディアへの協力

2004 年 9 月 21 日、WWF-J 琵琶湖保全資金援助、記者会見・本プロジェクトの意義、(2004 年 9 月 21 日取材).

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー、講演、3 回.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2004 年 7 月 18 日～8 月 16 日、フランス、ドイツ、フィンランド、国際合同企画展「フェアブル昆虫記とその後 100 年間の昆虫学の発展」打合せ、生物多様性国際フォーラムの打合せ、博物館等における生物と文化の多様性に関する研究・展示・普及に関する国際打合せ、生物多様性科学国際共同研究打合せ、国際陸水学会.

2005 年 1 月 19 日～1 月 30 日、フランス、国際合同企画展「フェアブル昆虫記とその後 100 年間の昆虫学の発展」打合せ、生物多様性国際フォーラム、博物館等における生物と文化の多様性に関する研究・展示・普及に関する国際打合せ.

【館外の活動】

国土交通省近畿地方整備局淀川水系流域委員会、委員、同琵琶湖部会部会長.

滋賀県総合保全学術委員会、副委員長.

日本水大賞顕彰制度委員会、副委員長.

世界自然保護基金ジャパン（WWF）常任理事.

日本自然保護助成基金、理事.

国際生態学日本センター、理事.

野生生物保全論研究会、理事.

日本自然保護協会，評議員.
世界湖沼環境委員会，評議員.
日本学術振興会 21 世紀 COE、プログラム委員会，委員.
日本ユネスコ国内委員会人と生物圏小委員会，委員.
京都府文化財保護審議会，委員.
生態学琵琶湖賞運営委員会，委員.
滋賀県科学技術政策推進会議，委員.
国際生物学賞委員会，委員.
毎日出版文化賞委員会，委員.
地球環境大賞顕彰制度委員会，委員.
河川環境管理財団予備選考委員会，委員.
北海道大学総合博物館運営委員会，委員.
島根大学汽水域研究センター研究推進協議会，委員.
科学技術振興会議部会，委員.
科学技術振興機構戦略的基礎研究「地球変動のメカニズム」，アドバイザー.
国土交通省琵琶湖とその周辺の河川環境に関する専門家会議，アドバイザー.
日本 BICER 協議会，名誉会長.
京都市青少年科学センター，学術顧問.
応用生態工学会，名誉会員.
地球環境関西フォーラム，企画委員会，委員.
地球環境関西フォーラム，地球環境 100 人委員会，委員.
京都生涯教育研究所，評議員.
環境経済人委員会，審議委員.

印刷物

【学術論文】

嘉田由紀子（2004）文化型としての所有制度と環境保全- 自然所有の内発的過程にみる法秩序構築の可能性. 法社会学, 58, 日本法社会学会 : 185-203.

【一般向けの著作】

嘉田由紀子（2004）京都の水文化とまちづくり- 水をめぐらす歴史から. *Consultant*, 223, 建設コンサルタンツ会誌編集委員会 : 24-27.

嘉田由紀子（2004）アフリカにエコトイレを. *同朋*, 5 (56), 真宗大谷派宗務所 : 8-9.

嘉田由紀子（2004）鳥たちの叫びを聞く心をもっているのか?. *機*, 148, 藤原書店 : 18.

嘉田由紀子（2004）トンボの楽園は守られた- コメント. NHK「新環境」プロジェクト（編）, *NHK 地球大好き環境新時代*, NHK 出版 : 29, 33, 47, 263.

嘉田由紀子（2004）湖辺（みずべ）に住む人びとの今とむかし. *熱風*, 8 (2), 徳間書店スタジオジブリ : 10-15.

嘉田由紀子（2004）巻頭言「今、あらためて水害経験を次の世代に伝えたい」. *明日の淡海*, 11, 淡海環境保全財団 : 1.

嘉田由紀子（2004）巻頭インタビュー「水の再循環も考えた民家再生を」. *民家*, 39, 日本民家再生リサイクル協会 : 1.

嘉田由紀子（2004）上遠恵子著「レイチェル・カーソンの世界へ」. *学鑑*, 4 (101), 丸善 : 44-47.

嘉田由紀子（2004）「洪水折り込み型」治水計画で都市空間の水辺再生を図る. *CELL*, 71, 大阪ガスエネルギー文化研究所 : 22-27.

嘉田由紀子（2004）やさしい川、こわい川とまるごとのかかわりを- 子どもと川、水の「距離」を縮めるには. *河川文化*, 28, (社) 日本河川協会 : 4-7.

嘉田由紀子（2004）地域再生における相思社の役割. (財) 水俣病センター相思社（編）, *今水俣がよびかける*, (財) 水俣病センター相思社 : 154-244.

嘉田由紀子（2004）新旭町、いまを見つめ明日を考える. *新旭町 50 年の歩み*, 新旭町企画広報課 : 1.

嘉田由紀子（2004）生命はぐくむ水辺「菜の花と里山の水辺」トーク&コンサート. *記録*, 新旭町菜のまつり実行委員会 : 4-33.

嘉田由紀子（2005）科学者の目と詩人の心. *こどもの図書館*, 3 (52), 児童図書館研究会 : 1.

嘉田由紀子（2005）河川の災害文化からみる京都再生. (財) 大学コンソーシアム京都, *都市研究・京都*, 18, 京都市総合企画局政策推進室政策企画課 : 67-84.

嘉田由紀子（2005）「遠い水」「近い水」- 住民による水環境の自治を琵琶湖の事例から考える- . 名古屋大学大学院環境学研究科（編）, *人間・社会環境学の構築ワークショップ報告書 2*, 名古屋大学大学院環境学研究科 : 60-75.

嘉田由紀子（2004）「市民の日」制定記念 古都の山紫水明文化はぐくむ. *京都新聞* : 2004年4月5日.

嘉田由紀子（2004）環境メモランダム「水っ子」発信力あり. *朝日新聞* : 2004年4月20日.

嘉田由紀子（2004）書評：「新しいコミュニズム」を提唱する. *図書新聞* : 2004年9月25日.

嘉田由紀子（2004）棚田再生に新しい力- 実り求めて都市との交流. *滋賀新聞* : 2004年8月24日.

- 嘉田由紀子 (2004) 食のこぼれ話「フナズシとの出会い」. 滋賀新聞: 2004年9月25日.
- 嘉田由紀子 (2004) 食のこぼれ話「マス飯の季節」. 滋賀新聞: 2004年10月30日.
- 嘉田由紀子 (2004) 京都滋賀マンスリー— 水の恵み見つめ直す時. 日本経済新聞: 2004年10月29日.
- 嘉田由紀子 (2004) 被災者から聞き取り調査— 過去の被害、僕らが伝える. 毎日新聞: 2004年11月6日.
- 嘉田由紀子 (2004) 洪水履歴の伝承必要— 薄れる自主管理に危機感. 建設工業新聞: 2004年11月30日.
- 嘉田由紀子 (2004) 食のこぼれ話「イサザのじゅんじゅん」. 滋賀新聞: 2004年12月4日.
- 嘉田由紀子 (2004) 子どもが被害を学習「自助と共助」復活を. 岐阜新聞: 2004年12月19日.
- 嘉田由紀子 (2004) 自助と共助の精神子どもたちにも. 東奥日報: 2004年12月19日.
- 嘉田由紀子 (2004) 被害を学ぶ— 子ども自身が怖さを知る. 山形新聞: 2004年12月20日.
- 嘉田由紀子 (2004) 被害を学ぶ— 子ども自身が被災経験聞く. 下野新聞: 2004年12月20日.
- 嘉田由紀子 (2004) 被害を学ぶ— 自助と共助の知恵を. 千葉日報: 2004年12月22日.
- 嘉田由紀子 (2004) 被害の記憶伝えよう. 中国新聞: 2004年12月23日.
- 嘉田由紀子 (2004) 子どもに「怖さ」を学ぶ場を. 信濃毎日新聞: 2004年12月24日.
- 嘉田由紀子 (2004) 被害の体験伝えたい. 新潟日報: 2004年12月27日.
- 嘉田由紀子 (2004) 自助と共助の知恵を— 世代を超えて被害を学ぶ”. 山陰中央新報: 2004年12月29日.
- 嘉田由紀子 (2005) 琵琶湖、問われる水の管理— 60年目の肖像— ダム建設、利水から治水へ. 京都新聞: 2005年1月9日.
- 嘉田由紀子 (2005) 食のこぼれ話「鴨鍋と流しもち飴」. 滋賀新聞: 2005年1月15日.
- 嘉田由紀子 (2005) ズバリ直言— 田んぼは魚のゆりかご. 農業共済新聞: 2005年1月26日.
- 嘉田由紀子 (2005) 川と暮らしの再発見. 産経新聞: 2005年1月31日.
- 嘉田由紀子 (2005) 信頼増した本誌の災害・防災報道. 毎日新聞: 2005年2月1日.
- 嘉田由紀子 (2005) 食のこぼれ話「ホンモロコと菜の花」. 滋賀新聞: 2005年3月5日.
- 嘉田由紀子 (2005) ズバリ直言— し尿の価値を知ってほしい. 農業共済新聞: 2005年3月23日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 嘉田由紀子 (2004年5月24日) 防災の歴史と住民の防災. 平成16年度淀川水防連絡会, (京都府域) 淀川河川事務所, 八幡市文化センター (京都府八幡市), [講演].
- 嘉田由紀子 (2004年5月30日) パネルディスカッション「森は海の恋人」. 社叢学会2004年度総会, 社叢学会, 熱田神宮文化殿 (名古屋市), [パネリスト].
- 嘉田由紀子 (2004年5月31日) 世代交流でつなぐ水害史. 平成16年度淀川水防連絡会, (大阪府域) 淀川河川事務所, 守口文化センター (守口市), [講演].
- 嘉田由紀子 (2004年6月26日) 琵琶湖をめぐる政策・環境史. 環境社会学会第29回セミナー, 環境社会学会, BRC 琵琶湖リゾートクラブ (守山市), [特別インタビュー].
- 嘉田由紀子 (2004年6月28日) Twelve Years' History of Japanese Association for the Environmental Sociology: Its Philosophy, Theory, Practice and Social Challenge. 2004 IRA RC24 Conference in Seoul, International Sociological Association/Rc24, Hoam Faculty House Seoul National University, (Seoul, Korea), [Presentations].
- 嘉田由紀子 (2004年7月18日) 保津川いま・むかし. 第51回丹波学トーク, (財)生涯学習かめおか財団, ガレリアかめおか (京都府亀岡市), [講演].
- 嘉田由紀子 (2004年7月20日) 京都、景観資源の保全と想像. 第五回日本景観学会大会講演会, 日本景観学会, 京大会館 (京都市), [コーディネーター].
- 嘉田由紀子 (2004年7月24日) 湖西地元学への誘い. 湖西・森と里と湖のミュージアム地元学講演会, 滋賀県湖

- 西地域振興局，地場産業振興センター（高島市），[講演].
- 嘉田由紀子（2004年7月27日）水環境教育をすすめるために．森と亀岡市，亀岡（亀岡市），[講演].
- 嘉田由紀子（2004年10月2日）びわ湖水系から見る水問題．第XII期地球環境大学後期講座，地球環境と大気汚染を考える全国市民会議，大阪府社会福祉会館（大阪市），[講演].
- 嘉田由紀子（2004年10月21日）Future Water Issues in Asian Contest．水資源管理機構総合的水資源管理研修，独立行政法人水資源機構，水資源機構琵琶湖開発総合管理所（草津市），[講演].
- 嘉田由紀子（2004年11月4日）琵琶湖から太湖へのメッセージ よりよい水環境回復のための流域管理の考え方を水文化論からさぐる－．JICA太湖水環境修復プロジェクト05年地域セミナー，独立行政法人国際協力機構，榴園賓館（南京市），[講演].
- 嘉田由紀子（2004年11月20日）これからの水俣を語る．水俣病センター相思社30周年記念イベント，水俣病センター相思社，もやい館もやいホール（水俣市），[コーディネーター].
- 嘉田由紀子（2004年12月14日）河川行政の転換と地域社会－今、改めて公共性を問い直す－．第28回環境社会学会セミナー，京都環境社会学会，京都精華大学（京都市），[パネラー].
- 嘉田由紀子（2004年12月18日）コメント－第3セッション地域と学校．平成16年度琵琶湖博物館研究発表会，琵琶湖博物館，[講演].
- 嘉田由紀子（2004年12月26日）最終公開選考．第二回全国大学生環境活動コンテスト，全国大学生環境活動コンテスト実行委員会，国立オリンピック記念青少年総合センター（東京），[公開選考].
- 嘉田由紀子（2005年1月30日）地域を知る－市民調査の可能性．トヨタ財団助成対象者報告フォーラム，フォーラム企画委員会，沖縄大学（沖縄市），[講演].
- 嘉田由紀子（2005年2月7日）水とわたしたちの暮らし．京都市立養正小学校第5学年総合的な学習，京都市立養正小学校，京都市立養正小学校（京都），[講演].
- 嘉田由紀子（2005年2月8日）人と水のかかわり－里川を考えよう．ふるさとの川再生県民の集い，埼玉県，ソニックシティ（埼玉），[講演].
- 嘉田由紀子（2005年2月9日）昭和30年代から学ぶ－自然、環境という言葉がなかった時代－．第5回婦人学級環境講座，暮らしのなかから環境を考える（本庄市），本庄市早稲田リサーチパーク（埼玉），[講演].
- 嘉田由紀子（2005年2月13日）第3回私の水辺．府域合同大発表会．大発表会実行委員会，ドーンセンター（大阪），[選賞委員].
- 嘉田由紀子（2005年2月18日）遠い水、近い水－住民による水環境の自治を琵琶湖の事例から考える－．環境問題と公共性－アジアから考える－，環境問題と公共性－アジアから考える－実行委員会，名古屋大学（名古屋），[講演].
- 嘉田由紀子（2005年3月2日）円卓意見交換会．観光コミュニティビジネスきっかけづくりセミナー，新旭町，地場産しんあさひ（新旭町），[コーディネーター].
- 嘉田由紀子（2005年3月6日）子どもと大人の車座会議－地域9流域再生．子どもがつくる未来の川車座会議，子どもと川とまちのフォーラム，コミュニティ嵯峨野（京都），[コーディネーター].
- 嘉田由紀子（2005年3月7日）水害に強い町づくり目指して－今私たちが次世代に伝えるべきこと－．京都中部広域防災講演会，京都中部広域消防連絡協議会・京都中部幼年婦人防火委員会，ガレリアかめおか（京都府亀岡市），[講演].
- 嘉田由紀子（2005年3月12日）水をめぐる環境と文化．シンポジウム丹波学トーク，（財）生涯学習かめおか財団，ガレリアかめおか（京都府亀岡市），[講演].
- 嘉田由紀子（2005年3月17日）総括討論幸福のフィールドワークの可能性．関西学院大学CEOワークショップ2004，関西学院大学，関西学院大学（西宮市），[討論者].
- 嘉田由紀子（2005年3月19日）川と暮らし．まちなかの川フォーラム，大津中央ロータリークラブ，大津プリンスホテル（大津市），[講演].

【大学の講義・実習、学生の指導など】

- 2004 年度前期, 淑徳大学大学院生, 「現代社会学特殊講義」.
- 2004 年度前期, 京都精華大学文学部環境社会学部 1 回生
- 2004 年度前期, 京都精華大学文学部環境社会学部 2 回生, 「地域計画演習 II A」.
- 2004 年度後期, 京都精華大学文学部環境社会学部 2 回生, 「地域計画演習 I A」.
- 2004 年度前期, 京都精華大学文学部環境社会学部 3 回生, 「環境社会基礎 I」.
- 2004 年度後期, 京都精華大学文学部環境社会学部 3 回生, 「環境社会基礎 II」.
- 2004 年度後期, 京都精華大学文学部環境社会学部 4 回生, 「総合環境論 I」.
- 2004 年度後期, 京都精華大学文学部環境社会学部 4 回生, 「卒業論文指導」.
- 2004 年度後期, 滋賀県立大学集中講義:.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

メディアへの協力

- 2004 年 4 月 10 日, NHK 総合テレビ, 地球大好き環境新時代・新たな農業北の国から伝えたい, 出演.
- 2004 年 6 月 11 日, NHK 総合テレビ, 地球大好き環境新時代・大地にはばたくトキ・佐渡のトキを話す, 出演.
- 2004 年 12 月 20 日, NHK 総合テレビ, 地球大好き環境新時代・砺波平野のカイニョ, 出演.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

- 2004 年 8 月 17 日～9 月 12 日, マラウイ共和国, 京都精華大学海外調査演習.
- 2004 年 10 月 30 日～11 月 4 日, 中国 (太湖), JICA 講演.
- 2005 年 3 月 21 日～3 月 26 日, 中国 (太湖), 景観変遷調査.

【館外の活動】

- 2000 年 4 月～, 京都精華大学, 教授.
- 2003 年 4 月～2005 年 3 月, 滋賀県科学技術振興会, 滋賀県科学技術振興会議, 委員.
- 2003 年 4 月～2005 年 3 月, 滋賀県大学等学術文化振興財団, 理事.
- 2004 年 6 月～2006 年 5 月, 滋賀県環境審議会, 委員.
- 2001 年 4 月～2005 年 3 月, 滋賀県淡海の川づくり委員会, 委員.
- 2004 年 12 月～2006 年 12 月, 滋賀県琵琶湖レジャー利用適正化審議会, 委員.
- 2001 年 4 月～2005 年 3 月, 滋賀県小児診療センター治検委員会, 委員.
- 2001 年 4 月～2005 年 3 月, 彦根市史編纂民俗専門部会, 委員.
- 2001 年 4 月～, 環境省自然環境保全審議会, 委員.
- 2004 年 4 月～2005 年 3 月, 国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所, 琵琶湖及び周辺河川環境に関する専門家グループ制度委員会, 委員.
- 2005 年 4 月～2007 年 3 月, 環境省中央環境審議会, 臨時委員.
- 2005 年 2 月～2007 年 2 月, 京都府環境審議会, 委員.
- 2005 年 1 月～2005 年 12 月, 科学研究費委員会, 独立行政法人日本学術振興会, 専門委員.

2004年度は、博物館の研究分野の中でも、特に学習機能についての研究を進めた。それは前年度に外部のシンポジウムで博物館の学習機能についての議論を行うに当たって、いくつかの新しい問題があることに気がついたために、そのテーマでの研究をそれ以後も進めてみたいと考えたためである。そして科学研究費に対しても「博物館が提供する学びの体系化と社会的役割の解明」のテーマで申請し、採択された。

もともとの関心は、生涯学習の時代となり、学校や生涯学習機関などの様々な学習の機会がある中で、博物館が提供する学びとはどのような内容なのかを考えると、現在の博物館であるからこそ行うことができる学習の形態とはどのようなものなのかということであり、それを明らかにするためには、博物館以外の機関が行う学習形態との比較や、そもそも日本の博物館は何を目的にして作られたのか、そしてそれは海外の博物館の場合とはどのように異なるのか、というようなことも整理する必要がある。また同時に博物館の機能を利用してきた人とは、何を目的にした、どのような人たちであったのかということも、学習の機能の実際の姿として分析を行うことが必要である。

これまでにそのような整理と大筋の議論をまとめた。そしてこの年度は、琵琶湖博物館研究発表会と連続講座が、博物館領域の担当であったため、その企画作製を行い、研究発表会のテーマを「博物館は学習の場となりうるのか」として、関連した発表を行った。次年度には論文として公表する予定である。

資料総合研究はこの年度で最終年であり、過去に発表した一次資料、二次資料に関する論文および資料の地域博物館での意味にかかわる論文に続いて、総合研究報告書に資料の利用に関する報告をまとめた。

またこの年度には企画展示「のびる・ひらく・ひろがる 植物がうごくとき」が行われ、この展示作製とオープン後の実際の運営の中心となった。この企画展示は単に研究成果の発表の場というだけではなく、企画展示をハンズオン展示の実験の場と位置づけた展示づくりと運営がされ、その実験的展示づくりの中心となった学芸員およびハンズオン研究グループと協力して、この展示会を博物館学の研究の一部として行った。あわせてこの企画展示のまとめの意味で「琵琶湖博物館フォーラム 展示室におけるコミュニケーション 展示と人・人と人」を開催した。

9月には、総合研究大学院大学から「利用者の視点に立った博物館の理念と活動様式の研究」に対して学位（文学）を授与された。この論文は琵琶湖博物館の基本的な理念である地域の利用者を主体とした博物館のあり方について考えようとしたものである。利用者が主体とすると、単に展示だけではなく、研究も、資料の整備も、交流事業も、全ての事業がこれまでとは異なる形で行われるはずであり、そういう博物館のあり方についてまとめようとしたものである。利用者の立場に立った博物館であろうとしている琵琶湖博物館の活動の理論的な裏づけになるものと考えている。

印刷物

【学術論文】

西垣 亨・布谷知夫（2005）学校が行う地域での『博物館』づくり．*博物館学雑誌*，31（2），全日本博物館学会。
布谷知夫（2004）利用者の視点に立った博物館の理念と活動様式の研究．学位論文，総合研究大学院大学。

【専門分野の著作】

布谷知夫・木村 進（2004）タンポポ調査の意義と雑種問題．*関西自然保護機構会誌*，26（1），関西自然保護機構：41-42。
布谷知夫（編・著）（2004）のびる・ひらく・ひろがる-植物がうごくとき-．*琵琶湖博物館企画展示解説書*：62p。

竹内 誠・江竜喜之・布谷知夫 (2005) 鼎談「市民と共に創る博物館」(1), *博物館研究*, 40 (2), 日本博物館協会 : 10-18.

竹内 誠・江竜喜之・布谷知夫 (2005) 鼎談「市民と共に創る博物館」(1), *博物館研究*, 40 (2), 日本博物館協会 : 2-8.

【一般向けの著作】

布谷知夫 (2004) 「葛」ってすごいんだよ, うみっこ, 15, 琵琶湖博物館 : 1-3.

布谷知夫 (2004) 博物館の役割を生かした学校連携のあり方, シンポジウム「学校から期待される博物館」報告書, 滋賀県に自然史博物館を作る会.

布谷知夫 (2004) 植物は動く. うみんど, 31, 琵琶湖博物館 : 1-3.

布谷知夫 (2005) 縄文時代の埋没林. 守山市教育委員会, *守山市史考古編*, 守山市 : 22-23.

布谷知夫 (2005) 村と自然環境. 守山市教育委員会, *守山市史考古編*, 守山市 : 89-90.

布谷知夫 (2005) 村と周りの植物. 守山市教育委員会, *守山市史考古編*, 守山市, 91-92.

布谷知夫 (2005) 博物館との連携. 守山市教育委員会, *守山市史考古編*, 守山市, 316-317.

布谷知夫 (2004) タケの地下茎 (自然観察のテーマ・59). *NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会会誌*, 59, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会 : 2-3.

布谷知夫 (2004) タケとササ (自然観察のテーマ・58). *NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会会誌*, 60, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会 : 2-3.

布谷知夫 (2004) なじみの環境に対する博物館の役割. *痴呆対応型共同生活介護外部評価に関する評価調査員の均質化のための人材育成支援・教材開発に関わる研究報告書*.

布谷知夫 (2004) マメ科の趣旨散布 (自然観察のテーマ・60). *NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会会誌*, 62, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会 : 2-3.

布谷知夫 (2004) 滋賀県での 2004 年予備調査の結果. *タンポポ調査近畿 2004 年予備調査報告書*, タンポポ調査 2005 近畿実行委員会 : 36p.

布谷知夫 (2004) 植物に関する質問から (自然観察のテーマ・61). *NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会会誌*, 63, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会 : 2-3

布谷知夫 (2004) タンポポ調査 2004 年予備調査報告. *タンポポ調査 2004 年度予備調査報告書*, タンポポ調査 2005 滋賀県実行委員会 : 4p.

布谷知夫 (2004) 生き物総合調査植物部会中間報告. *生き物総合調査中間報告書*, 滋賀県自然保護課.

布谷知夫 (2004) タンポポ調査の中間報告 (自然観察のテーマ・62). *NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会会誌*, 64, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会 : 2-3.

布谷知夫・佐藤公昭・山西良平 (2005) 中高生の博物館利用アンケートのまとめ. *中学生・高校生の博物館の効果的利用プログラム開発報告書*, 日本博物館協会 : 1-32.

布谷知夫 (2005) 高校生の博物館学習に 1 単位を. *中学生・高校生の博物館の効果的利用プログラム開発報告書*, 日本博物館協会 : 70-71.

布谷知夫 (2005) 再び動く植物の話題から. *NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会会誌*, 65, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会 : 2-4.

布谷知夫 (2005) 琵琶湖博物館フォーラム「展示室におけるコミュニケーション・展示と人・人と人」. *月刊ミュゼ*, 69 : 6.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

布谷知夫 (2005 年 5 月 11 日) 地域博物館論(博物館概論). 平成 16 年度博物館職員研修, 文部科学省, 国立教育政

策研究所社会教育実践研究センター（東京都）。

西垣亨・布谷知夫（2004年6月19日）学校が行う地域での博物館づくり。全日本博物館学会研究大会，全日本博物館学会，福井県立恐竜博物館（福井県）。

布谷知夫（2004年6月26日）琵琶湖博物館の運営とその背景。環境社会学会，環境社会学会，琵琶湖博物館（滋賀県）。

布谷知夫（2004年6月27日）生物に関する資格の意義とその役割について。関西自然保護機構シンポジウム，関西自然保護機構，彦根市勤労福祉センター（滋賀県），[コーディネーター]。

布谷知夫（2004年7月28日）企画展示「のびる・ひらく・ひろがる」計画の経過と考え方。関西博物館研究会例会，関西博物館研究会，琵琶湖博物館（滋賀県）。

布谷知夫（2004年11月6日）閉会の挨拶 フォーラム「世界の博物館2004」。JICA 博物館学集中コース，国立民族学博物館・琵琶湖博物館，大阪大学中ノ島センター（大阪府）。

布谷知夫（2004年11月14日）ハンズオンとは。研究会，京都橘女子大学博物館学研究グループ，琵琶湖博物館（滋賀県）。

布谷知夫（2004年12月14日）博物館は利用者をどれだけ広げることができるか。関西博物館研究会例会，関西博物館研究会，大阪市生涯学習センター（大阪府）。

布谷知夫（2004年12月17日）琵琶湖博物館における市民参画活動。日本博物館協会指導者研究協議会，日本博物館協会，茨城県立県民文化センター（茨城県）。

布谷知夫（2004年12月17日）市民盧共に作る博物館。日本博物館協会指導者研究協議会シンポジウム，日本博物館協会，茨城県立県民文化センター（茨城県），[コーディネーター]。

布谷知夫（2004年12月18日）博物館が提供できる学びとは。平成16年度琵琶湖博物館研究発表会，琵琶湖博物館，[プログラム企画]。

布谷知夫（2005年2月14日）現在における博物館展示の意味。琵琶湖博物館フォーラム「展示室におけるコミュニケーション・展示と人・人と人」，琵琶湖博物館，[プログラム企画]。

布谷知夫（2005年3月5日）基調講演「多様化する博物館」。シンポジウム「博物館の可能性」，南山大学，南山大学，（名古屋市）。

布谷知夫（2005年3月5日）博物館の可能性。シンポジウム「博物館の可能性」，南山大学，南山大学（名古屋市），[コーディネーター]。

布谷知夫（2005年3月12日）基調講演「博物館の役割をどこに求めるのか」，ミニシンポジウム「地域と博物館とのかかわりを考える」，滋賀県博物館協議会，能登川町立博物館（能登川町）。

布谷知夫（2005年3月12日）博物館の役割をどこに求めるのか。ミニシンポジウム「地域と博物館とのかかわりを考える」，滋賀県博物館協議会，能登川町立博物館（能登川町），[コーディネーター]。

布谷知夫（2005年3月19日）環境教育について。神の山保全活用シンポジウム，岸和田市，岸和田市立波きりホール（岸和田市）。

布谷知夫（2005年3月19日）子どもたちをいかに自然に親しませるか。神の山保全活用シンポジウム，岸和田市，岸和田市立波きりホール（岸和田市），[コーディネーター]。

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館総合研究「博物館資料の収集・整理・保管と利用に関する研究」（代表者：八尋克郎），研究副代表（2001～2004年度）。

国立民族学博物館共同研究（代表者：吉田憲司），共同研究者（2004年度）。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

エコミュージアム研究会，エコミュージアム研究，論文査読，1件。

全日本博物館学会，博物館学雑誌，論文査読，2件。

千葉県立中央博物館，千葉県立中央博物館研究報告，論文査読，2件。
全日本博物館学会，全日本博物館学会役員，2004～2006年度。
全日本博物館学会，全日本博物館学会常任編集委員，2004～2006年度。
関西自然保護機構，関西自然保護機構理事，2003～2005年度。
エコミュージアム研究会，エコミュージアム研究会理事，2003～2005年度。

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2004年12月24日，滋賀県立大学非常勤講師，集中講義，博物館学概論。

【受賞など】

学位（文学）利用者の視点に立った博物館の理念と活動様式の研究，2004年9月30日。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー，琵琶湖博物館，10件。

はしかけ：植物観察の会，野外観察会等，5件。

2004年5月2日，春の棚田の植物観察，野外観察会，伊吹町小泉，主担当者。

2004年6月6日，田の草取りと水田の生き物，第2回田んぼ体験教室，琵琶湖博物館，補助。

2004年7月10日，企画展示の説明とワークショップ，体験学習はしかけ講座，琵琶湖博物館，主担当者。

2004年7月20日～8月24日，企画展示関連講座『植物の不思議なんでやろう』草津市町づくりセンター，主担当者，全5回。

2004年7月25日，夏休み自由研究講座，植物コース，琵琶湖博物館，担当者。

2004年8月2日，現在の博物館が目指す姿，博物館実習，講師。

2004年8月3日，企画展示の考え方と評価，博物館実習，講師。

2004年8月8日，夏のスキー場の観察会，野外観察会・はしかけ研修会，函館山スキー場，主担当者。

2004年8月14日～8月28日，企画展示「のびる・ひらく・ひろがるー植物がうごくときー」関連連続講座，琵琶湖博物館，主担当者，全3回。

2004年9月27日～11月16日，地域博物館における資料整備，JICA博物館集中コース，琵琶湖博物館，主担当者，5件。

2004年11月3日，琵琶湖のヨシを観察しよう，野外観察会，近江八幡市，副担当者。

2004年11月13日，秋の里山の観察会，野外観察会，大津市，副担当者。

2004年11月29日，彦根市本庄村を訪ねよう，展示交流員展示のふるさとグループ事業，彦根市，補助。

2005年1月16日，冬の里山の観察会，野外観察会，安土町，主担当者。

2005年2月27日，展示の創り方と楽しみ方。平成16年度連続講座「琵琶湖博物館の自己紹介」，琵琶湖博物館，主担当。

2005年3月30日，春の植物遊び，体験学習はしかけ研修会，琵琶湖博物館，補助。

他の博物館・機関等主催行事

2004年4月11日，タンポポ調査の意味と雑種問題，滋賀県自然環境保全課，滋賀県生き物調査協力員研修会，琵琶湖博物館，講演。

2004年5月12日，琵琶湖博物館の環境展示，泉南高等学校，泉南高等学校PTA研修会，琵琶湖博物館，講演。

2004年5月19日，琵琶湖博物館の概要と環境の考え方，韓国忠清南道環境管理課，水管理業務担当者研修，琵琶湖博物館，講演。

湖博物館，講演。

- 2004年5月30日，博物館が目指す方向，京都橘女子大学博物館学現地見学研修，琵琶湖博物館。
- 2004年6月30日，琵琶湖博物館の概要紹介，JICA 青年招請事業（フィリピン）琵琶湖博物館。
- 2004年7月12日，ミュージアム・エデュケーションに関する話題提供，ミュージアム・エデュケーション・センター準備会，ミュージアム・エデュケーター車座会議，大妻大学（東京都），講演。
- 2004年7月15日，ヨシ群落の役割，彦根東高等学校，琵琶湖博物館実習，琵琶湖博物館，講演。
- 2004年7月19日，のびる・ひらく・ひろがるの意味，シニア自然大学，シニア自然大学夏の合宿研修会，琵琶湖博物館，講演。
- 2004年7月21日，博物館の仕事と企画展示，石部高校，夏季集中講座「琵琶湖探求」，琵琶湖博物館，講演とワークショップ。
- 2004年8月3日，草木染をしてみよう，中学校理科教育研究会，自然調査ゼミナール，琵琶湖博物館，実習。
- 2004年8月7日，タネの広がり方，三洋電機株式会社ブランド戦略ユニット，三洋電機夏休み教室，琵琶湖博物館，講演。
- 2004年8月22日，自然保護につながる自然観察会，大阪自然環境保全協会，インストラクター養成講座，千里中央公園（大阪府），野外実習と講演。
- 2004年8月26日，ヨシ群落と水質浄化，甲賀郡理科教育研究会，甲賀郡理科教育研究会研修会，オプテックス株式会社（大津市）講演。
- 2004年8月31日，琵琶湖博物館の理念について，東北学院大学博物館見学実習，琵琶湖博物館。
- 2004年9月2日，琵琶湖と森との関係，NPO 法人自然と緑，研修会，琵琶湖博物館，講演。
- 2004年9月3日，琵琶湖博物館の運営，関西大学博物館見学実習，琵琶湖博物館。
- 2004年9月10日，企画展示紹介，JICA 水質問題に関する環境教育研修コース，琵琶湖博物館。
- 2004年9月12日，琵琶湖における環境問題の歴史と各種取り組み，JICA 沿岸漁業資源管理コース，琵琶湖博物館。
- 2004年9月16日，琵琶湖と滋賀県の環境，横浜国立大学経済学部4回生フィールド調査，琵琶湖博物館。
- 2004年9月23日，琵琶湖博物館の概要，桃山学院大学博物館見学実習，琵琶湖博物館。
- 2004年10月3日，植物の繁殖戦略，大阪自然環境保全協会，そよごの会研修会，琵琶湖博物館，講演とワークショップ。
- 2004年10月6日，草木染をしてみよう，信楽中学校，総合的な学習，琵琶湖博物館，実習。
- 2004年10月10日，琵琶湖博物館の概要と環境の考え方，立命館大学国際教育研究推進機構，重慶市大学管理運営幹部特別研修，琵琶湖博物館，講演。
- 2004年10月11日，企画展示の意味と運営，新堂中学校，職場体験，琵琶湖博物館，講演と実習。
- 2004年10月22日，琵琶湖博物館と環境，JICA 環境保全コース，琵琶湖博物館。
- 2004年10月23日，ヒシについて，貴志川町平池財産区管理会，研修会，琵琶湖博物館，講演。
- 2004年11月30日，利用者が使いやすい博物館とは，大阪府文化財保護協会，大阪府立博物館三館合同研修会，大阪府立弥生博物館（和泉市），講演。
- 2004年12月6日，市民と共に創る博物館，日本博物館協会商工会館（東京都），鼎談。
- 2004年12月8日，足元の環境を見つめる，甲南中学，甲南中学校内教員研修会，甲南中学校（甲賀市）講演。
- 2004年12月11日，タンポポ調査近畿2005中間調査の結果，日野グリーンファンド，日野グリーンファンド成果発表会，日野自動車21世紀センター（東京都），講演。
- 2005年1月15日，タンポポ調査の経過と意味，タンポポ調査2005近畿実行委員会，タンポポ調査2005説明会，奈良県教育会館（奈良県），講演。
- 2005年3月15日，琵琶湖博物館の活動、特に地域との関係，JICA シリア博物館導入コース，琵琶湖博物館。
- 2005年3月20日，タンポポ調査とは何であったのか，タンポポ調査2005滋賀県・京都府実行委員会，タンポポ調査滋賀県京都府合同説明会，琵琶湖博物館，講演。
- 2005年3月27日，タンポポ調査の意味と方法，タンポポ調査2005滋賀県実行委員会，タンポポ調査説明会，琵琶

湖博物館，講演.

視察対応

琵琶湖博物館の概要紹介，全国博物館、自治体など 24 件.

メディアへの協力

2004 年 5 月 24 日，NHK 天津放送局，ネットワーク近江，インタビュー「身近なタンポポを使った調査」.

2004 年 8 月 1 日，琵琶湖放送，県政テレビタ刊滋賀プラスワン，企画展示の紹介，(2004 年 8 月 1 日取材).

2004 年 9 月 3 日，NHK 天津放送局，ニュース，企画展示の紹介.

2004 年 9 月 15 日，NHK 天津放送局，ぐるっと関西，企画展示の紹介.

2004 年 10 月 26 日，KBS 京都，ヨシはどうして大切か，琵琶湖の生命キャンペーン.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

資料目録「村瀬忠義植物コレクション・合弁花編・離弁花編」の発行，編集協力.

植物収蔵庫の管理，副主任.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

第 12 回企画展示「のびる・ひらく・ひろがる 植物がうごくとき」の実施，副主任.

ギャラリー展示「滋賀の植物標本・写真展示」の実施，副主任.

ギャラリー展示「ため池」の準備，副主任.

企画展示「フェアブルさんの 100 年」の準備，副主任.

企画展示室におけるワークショップの実施，主任，25 回.

モーニングレクチャー，講演，3 回.

【企画調整活動】

特別研究員（黄貞燕氏）の受け入れ，受け入れ担当者，2004 年 9 月 1 日～2005 年 3 月 25 日.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2004 年度，JICA 博物館学集中コース運営委員会，委員.

2005 年 1 月～3 月，広報経営戦略検討チーム，責任者.

【館外の活動】

2004 年度，日本博物館協会，中学生・高校生の博物館の効果的利用プログラム開発委員会，委員.

2004 年度，田園空間博物館整備地方委員会，委員.

2004 年度，天然記念物と泉葛城山ブナ林保護増殖検討委員会，会長代行.

2004 年度，滋賀県棚田地域等保全検討委員会，委員.

2004 年度，滋賀県生き物総合調査委員会，植物部会長.

2004 年度，滋賀県移入種問題検討委員会，委員.

2004 年度，静岡県自然学習資料評価委員会，委員.

2004 年度，京都府国定公園選定委員会，委員.

2004 年度, 守山市下之郷遺跡を考える会, 委員.

2004 年度, タンポポ調査 2005 近畿実行委員会, 代表.

2004 年度, 日本自然保護協会自然観察指導員講師団, 講師.

コイ科魚類の咽頭歯の研究を通じて、湖と人間のかかわりがどのように築かれてきたかを考えている。2004年度の研究活動は、琵琶湖博物館の研究プロジェクトとして、総合研究「東アジアの中の琵琶湖- コイ科魚類の展開を軸とした- 環境史に関する研究」(以下総研「東アジア」、共同研究「滋賀県内の魚類分布調査および琵琶湖博物館収蔵魚類標本の充実」(以下共研「魚分布」)を行ってきた。

はしかけさんによる琵琶湖博物館うおの会の活動を主体に実施している共研「魚分布」は、滋賀県全域の調査を2002年度に終了したことをうけ、法竜川定点調査を2003年度から2004年度にかけて1年間実施した。これらの調査結果を琵琶湖博物館うおの会の会員によってまとめる作業を行ってもらった。うおの会の会員が何を考えて調査に参加したのか、法竜川定点調査その成果、全県調査の成果をあわせて、琵琶湖博物館研究調査報告23号「みんなで楽しんだうおの会- 身近な環境の魚たち」にまとめた。その編集作業を行った。

琵琶湖博物館うおの会の活動は、1つの活動を終え、次の段階に移行した。それは、「どこでも・だれでも博物館」を実践するもので、うおの会の会員が、魚類調査の指導員として、滋賀県中に出かけて行き、新たな人たちを巻き込んだうおの会活動をするようになっていく。この活動は、琵琶湖お魚ネットワーク事業として、あらゆる環境保全に取り組む個人、機関、団体をネットワーク化する活動でもある。活動の対象地域は、滋賀県内にとどまることなく琵琶湖流域とした。その調査マニュアルとして、「魚つかみの楽しみかた 調査のしかた、魚のみわけかた」(初級編)と(上級編)を、うおの会から出版した。この活動は文部科学省子どもの居場所事業およびWWF- ブリヂストンびわ湖生命の水プロジェクトの支援を受けて行っている。

共研「魚分布」で明らかにした魚の分布の状況をどのように解釈するかを総研「東アジア」の中で考えてきた。それは2000年度から2004年度にかけて一連の成果を発表してきたが、そのまとめである「フナ・コイの縄文文化- 咽頭歯分析から見た新しい縄文観」(新潮双書)を執筆中である。

総研「東アジア」および専門研究で行ってきた咽頭歯の研究のまとめとして、「多様な形がどのようにできあがるか- コイ科魚類の咽頭歯-」(東海大出版会)を執筆した。

印刷物

【学術論文】

中島経夫 (2004) 琵琶湖の魚のおいたち- 人間の営みと魚の関係. *化石研究会誌*, 37 (2) : 61-67.

Tan, Q. Y., Liu, H. Z. Yang, X. P. and Nakajima, T. (2005) Molecular and Morphological data suggest that *Spinibarbutu caudwelli* (Teleostei: Cyprinidae) is a valid species. *Ichthyol. Res.*, 52 : 77-82.

【専門分野の著作】

中島経夫 (2004) 東アジアの淡水魚や西日本の基層文化を育んだ日本海. 金 関 恕 (編), *日本海- 東アジアの地中海*, 桂書房, 富山 : 181-200.

中島経夫 (2004) 自然環境と文化のかかわり- 縄文から現代へ-. 梅原 猛 (編), *縄文人の世界*, 角川学書店, 東京 : 354-377.

中島経夫 (2004) 魚類化石. 上野市史編纂委員会 (編), *上野市史自然編*, 上野市市史編纂室, 上野 : 45-59.

大原健一・中島経夫 (2005) 琵琶湖集水域における魚類分布の特徴. うおの会 (編), *みんなで楽しんだうおの会- 身近な環境の魚たち 琵琶湖博物館研究調査報告書*, 23, 琵琶湖博物館, 草津 : 224-233.

【一般向けの著作】

- 中島経夫 (2005) どこでも博物館 うおの会の活動. うみんど, 34, 琵琶湖博物館, 草津 : 7.
- 水戸基博・村上靖昭・高田昌彦・武田 繁・小西春次・辻 美穂・甲斐朋子・北村明子・中村和代・水野敏明・中島経夫 (2005) 魚つかみの楽しみかた- 調査のしかた・魚のみわけかた- (初級編). 琵琶湖博物館うおの会, 草津 : 24p.
- 辻 美穂・水戸基博・村上靖昭・高田昌彦・武田 繁・小西春次・甲斐朋子・北村明子・中村和代・水野敏明・中島経夫 (2005) 魚つかみの楽しみかた- 調査のしかた・魚のみわけかた- (上級編). 琵琶湖博物館うおの会, 草津 : 24p.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 中島経夫・うおの会 (2004年5月15日) 魚捕りを楽しむうおの会の紹介. 生き物文化誌学会第2回学術大会公開シンポジウム「身近な環境を見つめて」, 生き物文化誌学会, 琵琶湖博物館 (草津市), [口頭発表].
- 中島経夫 (2004年5月15日) 魚捕りを楽しむうおの会のつぶやき. 生き物文化誌学会第2回学術大会公開シンポジウム「身近な環境を見つめて」, 生き物文化誌学会, 琵琶湖博物館 (草津市), [進行].
- 中島経夫・うおの会 (2004年5月15・16日) みんなで調べた魚の分布. 生き物文化誌学会第2回学術大会, 生き物文化誌学会, 琵琶湖博物館 (草津市), [ポスター発表].
- 中島経夫 (2004年5月16日) ワタカは琵琶湖の固有種?. ワタカをめぐる生き物文化誌, 生き物文化誌学会第2回学術大会, 琵琶湖博物館 (草津市), [口頭発表].
- 中島経夫 (2004年6月18日) 咽頭歯研究の考古学への貢献- フナの縄文文化. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館.
- 甲斐朋子・水野敏明・中島経夫 (2004年7月24日) うおの会のとりくみ. 地理情報システム学会ワークショップ「市民のための環境GIS」, 地理情報システム学会, 名古屋大学 (名古屋市).
- 中島経夫 (2004年11月18日) 水路の魚たち- 魚を媒介とした湖と人間のかかわり, 平成16年度琵琶湖博物館研究発表会, 湖西地域振興局・琵琶湖博物館, もりっ子 (今津町), [講演].
- 中島経夫 (2004年12月4日) 自然と人間の営みの重層的歴史からみた琵琶湖の魚たちのおいたち. 自然史学会連合第10回シンポジウム「日本の自然史- 多様な生き物たちのエピソード」, 自然史学会連合会, 独立行政法人国立科学博物館 (東京都新宿区).
- 中島経夫 (2005年1月28日) 時間軸の異なる歴史から見た日本海. 日本海総合研究プロジェクト平成16年度第3回公開研究会「日本海沿岸の自然と環境認識の構図- 歴史・文化・言語」, 富山大学人文学部, 富山大学 (富山市).

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館総合研究「東アジアの中の琵琶湖- コイ科魚類の展開を軸とした- 環境史に関する研究」(研究代表者: 中島経夫), 研究代表者 (1996年度~2006年度).
- 琵琶湖博物館共同研究「滋賀県内の魚類分布調査および琵琶湖博物館収蔵魚類標本の充実」(研究代表者: 長田智生), 研究副代表, (2000年度~2006年度).
- WWF ジャパン委託「魚類分布のGIS化」(研究代表者: 中島経夫), 研究代表者 (2005年度~2007年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 生き物文化誌学会第2回学術大会, 運営委員, 2004年5月15・16日.
- 化石研究会, 監査, 2004年4月~2005年3月.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2004年10月1日～2005年3月31日，滋賀県立大学大学院非常勤講師。

2004年11月22日・11月29日，滋賀県立大学大学院，生物多様性論。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2004年10月21日，総合的水資源管理研修，JICA 集団研修，琵琶湖博物館，概要説明。

2005年2月26日，コイ科魚類の咽頭歯，琵琶湖博物館淡水魚専門講座，琵琶湖博物館，講演。

2005年3月12日，咽頭歯から何がわかるか，琵琶湖博物館淡水魚専門講座，琵琶湖博物館，講演。

他の博物館・機関等主催行事

2004年4月10日，概要説明，京都橘短期大学文学部，琵琶湖博物館。

2004年6月30日，研究者にできない研究をどう進めるか，滋賀県高等学校理科教育研究会生物部会，滋賀県高等学校理科教育研究会生物部会研修会，琵琶湖博物館，講演。

2004年7月22日，有害金属汚染対策コース，JICA 集団研修，琵琶湖博物館，概要説明。

2004年9月10日，琵琶湖の生態系と人々の暮らし，TKC 近畿京滋会，第12回TKC 近畿京滋会秋季大学，琵琶湖博物館，講演。

2004年9月15日，概要説明，JICA インドネシア研修員，琵琶湖博物館。

2004年10月11日，在来種保全の取り組み，滋賀県理容生活衛生同業組合，第4回チョコキちゃん環境フェスティバル，ドラゴンハット（竜王町），講演。

2005年3月4日，概要説明，財団法人国際湖沼環境委員会，第13回西日本国際環境協力連絡会，琵琶湖博物館。

2005年3月6日，魚ののぼる川，三田川水辺の楽校推進協議会，三田川水辺の楽校推進協議会研修会，晴嵐自治会館（大津市），講演。

視察対応

2004年4月2日，概要説明と展示案内，台湾亜東関係視察団，琵琶湖博物館。

2004年6月5日，概要説明と展示案内，中国科学技術協会訪日団，琵琶湖博物館。

2004年6月11日，概要説明，滋賀労働局総務部企画室員，琵琶湖博物館。

2004年6月18日，概要説明，JICA 人材育成プロジェクト中国水利部水資源司水資源保護処副所長，琵琶湖博物館。

2004年6月29日，概要説明，茨城県生活環境部霞ヶ浦対策室員，琵琶湖博物館。

2004年7月14日，概要説明，台湾高等学校教育旅行担当者，琵琶湖博物館。

2004年7月29日，概要説明，茨城県議会環境商工委員，琵琶湖博物館。

2004年8月5日，概要説明，政策研究大学院大学学生，琵琶湖博物館。

2004年8月20日，概要説明，茨城県企画部長ら視察団，琵琶湖博物館。

2004年9月25日，展示案内，清子内親王，琵琶湖博物館。

2004年11月23日，概要説明，KIPPO 関西国際広報センタープレスツアー参加海外記者，琵琶湖博物館。

2004年12月11日，概要説明，甘肅省大学管理運営部特別研修研修員，琵琶湖博物館。

2005年2月11日，概要説明，鹿児島県上野原縄文の森職員，琵琶湖博物館。

2005年3月2日，概要説明，びわこビジターズビューロー国内ランドオペレーター，琵琶湖博物館。

2005年3月19日，概要説明および展示案内，近畿日本ツーリスト首都圏営業本部教育旅行担当者，琵琶湖博物館。

メディアへの協力

2004年10月5日, KBS 京都, Live5「スクランブル!びわ湖ナウ」第1回「母なる湖・びわ湖」, 出演.

200年1月25日, 中国のタナゴ類の展示について, 資料提供.

2005年2月8日, お魚ネットワーク交流会の開催, 資料提供.

2005年2月15日, 「昔, 日本にいた魚」の展示について, 資料提供.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

中島経夫のページ (<http://www.lbm.go.jp/nakajima/>) の管理.

琵琶湖博物館魚類標本データベースの管理.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館魚類標本 44,031 点の管理.

琵琶湖博物館魚類標本 2,551 点の登録.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー, 講義, 3回.

【企画調整活動】

新任職員研修, 概要説明, 2004年4月13日.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2004年11月9日～18日, 中華人民共和国湖北省武漢市中国科学院水生生物研究所, 洞庭湖・長江流域の魚類採集ならびに水族展示用資料の持ち帰り.

2005年1月19日～23日, フランス共和国パリ市国立自然史博物館, (仮称) ファーブル展の打合わせ.

【館外の活動】

2004年12月2日, 岐阜県世界淡水魚園水族館の博物館相当施設指定のための調査会, 委員.

2004年4月1日～2005年3月31日, みなくち子どもの森自然園運営協議会, 委員.

2004年4月1日～2005年3月31日, NPO 法人西日本自然史系博物館ネットワーク, 理事.

2004年4月1日～2005年2月12日, 琵琶湖博物館うおの会, 事務局長.

2005年2月12日～2005年3月31日, 琵琶湖博物館うおの会, 会長.

2004年10月1日～2005年3月31日, 琵琶湖博物館子ども体験教室, 実行委員長.

2004年9月19日～2005年3月31日, 琵琶湖お魚ネットワーク, 運営委員長.

本年度は、研究部長および環境史研究領域のグループリーダーとしての活動を中心に行った。そのため、職員の研究環境整備や予算執行に時間を割いた。

研究においては、古琵琶湖層の時代でもある約500万年以降の脊椎動物化石の変遷を東アジア全体の環境史の中で捉えようとしている。この研究のために、総合研究、共同研究、専門研究を組み合わせて行っている。今年度は、昨年度後半に総合研究および共同研究の成果をもとにまとめた博士論文「A formative history of the terrestrial mammalian fauna of the Japanese Islands in the Plio-Pleistocene」によって、6月に2つ目の学位（理学）が日本大学から授与された。また、古琵琶湖時代の動物たちの資料を調査する一環として北海道から産出したマンモスゾウの研究や大分県安心院町におけるミエゾウの発掘調査を精力的に行った。その結果、安心院町での発掘では、日本初のミエゾウの多くの部分が残った頭骨化石を発掘することができ、全国的に話題となった。北海道のゾウの研究ではNHKのニュース10に取り上げられ、研究成果を普及することができた。

海外調査は、3月3日～3月15日の間、中国山西省、河北省、山東省などにおいて総合研究に関する中国産脊椎動物化石の調査を行った。また、10月には韓国済州島で開催された国際足跡シンポジウムに招待され講演を行なった。

企画調整事業に関連しては、中長期検討チームの一員として作業を行った。交流事業に関しては、観察会の担当として運営を行った。

印刷物

【学術論文】

- Takahashi, K., Soeda, Y., Izuho, M., Aoki, K., Yamada, G. and Akamatsu, M. (2004) A new specimen of *Palaeoloxodon naumanni* from Hokkaido and its significance. *The Quaternary Research*, 43, 日本第四紀学会: 169-180.
- Xiao, J., Inouchi, Y., Kumai, H., Yoshikawa, S., Kondo, Y. and Takahashi, K. (2004) Precipitation history of the Lake Biwa area in central Japan over the last 145 ka. *Boreas*, 33: 74-81.
- 関本勝久, 高橋啓一, 星見清晴, 赤木三郎 (2004) 大和海嶺産長鼻類臼歯の咬板間の泥より産出した有孔虫化石について. *鳥取地学会誌*, 8, 鳥取地学会: 45-50.
- Inuzuka, N. and Takahashi, K. (2004) Discrimination between the genera *Palaeoloxodon* and *Elephas* (Mammalia: Proboscidea). *Zona Aqueologica Miscelanea en homenaje a Emiliano Aguirre*, 2: 235-244.
- 岡村喜明・高橋啓一・山本英喜・松浦信臣・大桑町足跡化石調査団 (2004) 金沢市大桑町の犀川河床から産出したシフゾウの足跡化石. *化石研究会会誌*, 37, 化石研究会: 68-75.

【専門分野の著作】

- 高橋啓一 (2004) 日本列島の鮮新-更新世における陸上哺乳動物相の形成史 (抄録). *形態科学*, (8) 1, 人類形態科学研究会: 41-43.
- 岡村喜明・高橋啓一 (2004) III 足跡化石. 香住町教育委員会 (編), *香住町足跡化石報告書*: 21-61.

【一般向けの著作】

- 高橋啓一 (2004) 研究最前線「東アジアから古琵琶湖層群の動物化石を研究する」. *うみんど*, 31, 琵琶湖博物館: 5-6.

高橋啓一 (2004) おしえて！ナウマンゾウ in ぼくらの町のナウマンゾウに会いたいな. 湧別町図書館：巻末.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

高橋啓一・添田雄二・出穂雅美・山田悟郎・赤松守雄 (2004年6月27日) 日本産マンモスゾウの生息年代について. 日本古生物学会2004年年会, 日本古生物学会, 北九州市立自然史・歴史博物館(北九州市), [口頭発表].

高橋啓一 (2004年8月24日) 日本列島の鮮新-更新世における陸上哺乳動物相の形成史. 人類形態科学研究会第16回学術集会, 人類形態科学研究会, 京都国際会館(京都市), [口頭発表].

Takahashi, K. and Okamura, Y. (2004年10月9日) Neogene and Pleistocene footprint fossils of the Japanese Islands. International Symposium on the Quaternary Footprints of Hominids and Other Vertebrates, Korea National University of Education, Poonglimresort Hotel (Jeju Island, Korea) [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館総合研究「東アジアの中の琵琶湖- コイ科魚類を展開の軸とした- 環境史に関する研究」(研究代表者: 中島経夫), 研究分担者 (1996-2006年度).

琵琶湖博物館共同研究「古琵琶湖誕生期の古地理・古生物復元」(研究代表者: 高橋啓一), 研究代表者 (2004-2006年度).

琵琶湖博物館専門研究「鮮新- 前期更新世のシカ類の研究」, 研究代表者 (2004年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本第四紀学会, 編集委員, 2001年9月-2005年8月.

化石研究会, 事務局長, 2003年6月-.

東海大学博物館研究報告, 「海・人・自然」, 査読, 1件.

日本第四紀学会, 査読, 1件.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2004年2月19-21日, 島根大学総合理工学部2年生・3年生, 博物館学各論I.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー, 琵琶湖博物館, 12件.

2004年8月2日, 4日, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 説明, 2件.

2004年9月28日, 博物館の研究, JICA博物館集中コース, 琵琶湖博物館, 説明.

2004年10月3日, 化石の観察会, 観察会, 三重県阿山郡大山田村, 案内.

他の博物館・機関等主催行事

2004年9月14日, 施設・研究・交流活動の説明と展示案内, JICA中国水利人材養成プログラム, 琵琶湖博物館.

2004年10月31日, ナウマンゾウのルーツをさぐる, 野尻湖ナウマンゾウ博物館, 20周年記念講演会, 野尻湖博物館(長野県上水内郡信濃町), 講演者.

視察対応

2004年7月15日, 展示案内, 近畿府県監査委員, 琵琶湖博物館.
2004年7月28日, コンセプト, 運営, 集客方法, 各種事業について, 三重県教育長ほか, 琵琶湖博物館.
2004年11月24日, 研究活動説明, 展示案内, 滋賀県新聞通信放送十社会, 琵琶湖博物館.
2004年11月30日, 展示案内, 「フォーラム仙台」会派議員, 琵琶湖博物館.
2004年12月8日, 展示交流サービス, 参加型博物館, 資料整備, 共同研究者制度説明, ひめゆり平和祈念資料館,
琵琶湖博物館.
2005年1月18日, 展示案内, 中国杭州西湖風景名勝区管理委員会, 琵琶湖博物館.
2005年2月1日, 展示案内, 新潟市議会無所属連合, 琵琶湖博物館.

メディアへの協力

2004年10月1日, NHK, ニュース10, 出演, (2004年9月14日取材).
2004年10月17日, 大分合同新聞, 太古の化石探すゾウ!, インタビュー, (2004年9月30日取材).
2004年11月18日, 京都新聞, 原日本人の姿を求めて, 電話インタビュー, (2004年10月17日取材).
2004年11月17日~18日, 京都新聞ほかテレビなど各社, 400万年前のゾウ完全な頭骨化石, 記者発表, (2004年
10月取材).
2004年12月24日, 大分合同新聞, 追跡2004 ミエゾウの頭骨発見, 電話インタビュー, (2004年12月取材).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

岩石鉱物資料, 受入, 7件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー, 講演, 3回.

【企画調整活動】

中長期検討チーム, 2004年度.
新任職員研修, 説明, 2004年4月13日.

【研究部関連事業】

研究計画の策定と調整.
研究予算の編成と執行管理.
環境史研究領域の研究推進.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2004年10月9日~11日, 韓国濟州島, 国際足跡シンポジウム招待講演.
2005年3月3日~15日, 中国山西省, 河北省, 山東省, 総合研究に係る脊椎動物調査.

【館外の活動】

2004年度, 香住町足跡化石調査委員会, 委員.

数年前から能登川町神郷亀塚古墳の発掘調査指導を行いながら、琵琶湖を取り囲むように出現する前期前方後円墳の調査を進めている。その作業の一貫として、昨年度末にまとめられた亀塚古墳調査報告書の書評という形で、亀塚古墳を通じて見た列島の前方後円墳出現前後の様相を考察し、琵琶湖博物館研究セミナーで発表すると同時に、日本考古学協会の研究誌『日本考古学』に投稿、掲載された。

この調査では、湖東平野の中央部における河川とクリークを巧みに利用できる地域に、港湾施設と倉庫群を備えた大集落に育ち、湖上交通を掌握し得た首長こそが、後の古墳時代の近江における社会構成の中心を担いつつあったことが明らかになった。一方、それが前方後円墳という形式と木槨という内部主体施設を採用したことによって、近江の古墳時代の評価においては、湖上交通を通じての東国と大陸との関係をも視野に入れる必要が生じていることも判明してきた。

また、一昨年から取り組んでいる中世を中心とした山岳寺院研究は、その調査対象を伊吹山、霊山から範囲を広げ、旧坂田郡全域や湖北の伊香郡・東浅井郡、湖東の神崎郡においても調査を行った。それらを踏まえた成果は、11月の伊吹町における講演会で発表したところである。いずれは琵琶湖をも含めた密教を中心とした山岳寺院の集成と考察を行い、湖上や湖辺の伊崎寺や堅田浮御堂の評価にもつなげていく予定である。

これら近江の歴史を評価していくために比較研究の素材としているアジア地域の調査は、今年度もアジア考古学研究機構の活動として実施した。

ここではこれまでの活動を一旦総括し、今後の方向性をも探るために6月から7月にかけて4回にわたり講座を開催した。この結果を踏まえ、アジア考古学研究機構の活動を「アジアの遺跡と民俗-琵琶湖研究のために-」と総称し、今年度はバリ島とジャワ島の遺跡と民俗をフィールドに調査を行い、その成果はインターネットページにおいて公表した。

その他関連する活動として、近藤義郎『発掘五十年』企画、滋賀県立大学大学院での「日本考古学」の講義、京都造形芸大での博物館資料の保存に関する講義、楽修院大学での近代琵琶湖の湖上交通に関する講義、雑誌『FRONT』連載コーナーの取材と執筆など、琵琶湖と近江の考古学や歴史に関するいくつかの事業を行った。

次年度以降も、琵琶湖をとりまく前方後円墳の出現に関する研究、中世を中心とする近江山岳寺院研究、琵琶湖研究のためのアジアの遺跡と民俗調査の3つの方向を進めていくが、特に来年度は、琵琶湖博物館所蔵の民具資料目録を編集し、刊行するための作業を中心に行っていく予定である。

印刷物

【専門分野の著作】

用田政晴 (2004) 神郷亀塚発掘調査事業とその意義. *日本考古学*, 18, 日本考古学協会: 205-207.

【一般向けの著作】

用田政晴 (2004) 紹介; 映画『La Ville LOUVRE (パリ・ルーブル美術館の秘密)』. *うみんど*, 31, 琵琶湖博物館: 7.

用田政晴 (2004) 映像作家中島省三さん 琵琶湖を見つめる飛行少年. *FRONT*, 194, リバーフロント整備センター: 42-43.

用田政晴 (2004) 元小樽運河を守る会会長峯山富美さん 小樽運河の保存運動に賭けた第二の人生. *FRONT*, 198,

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 用田政晴（2004年10月15日）出現期前方後方墳の調査とその意義。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館。
用田政晴（2004年11月23日）伊吹・霊山と近江の山岳寺院。西と東のせめぎあうところ- 新市米原の城・まち・山の寺-，滋賀県教育委員会，米原町・伊吹町・山東町教育委員会，伊吹薬草の里文化センター（滋賀県伊吹町）。
用田政晴（2005年2月3日）近代琵琶湖の湖上交通。楽修院大学社会学部地域文化学科，楽修院大学，楽修院大学（滋賀県守山市）。

【インターネットページでの公表】

- 用田政晴（2005年1月13日）ジャワ島の遺跡とバリの民俗。http://www.lbm.go.jp/mappie/AARI-yoda1.html，アジア考古学研究機構。

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「近江の普遍性と固有性に関する考古学的研究」，研究代表者（2004年度）。
アジア考古学研究機構調査研究「アジアの遺跡と民俗- 琵琶湖研究のために-」（研究代表者：用田政晴），研究代表者（2004年度）。
近藤義郎『発掘五十年』企画委員会「近藤義郎『発掘五十年』企画」（研究代表者：近藤義郎），（2004年度）。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- アジア考古学研究機構，代表，2004年度。

【大学の講義・実習、学生の指導など】

- 2004年度前期，滋賀県立大学大学院人間文化研究科，日本考古学。
2004年12月2日，京都造形芸術大学，保存修復実習3。
2005年2月12日，京都造形芸術大学，琵琶湖博物館の資料調査と保存方法1。
2005年2月19日，京都造形芸術大学，琵琶湖博物館の資料調査と保存方法2。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- フロアトーク・質問コーナー，琵琶湖博物館B展示室，9件。
2004年6月5日～7月17日，アジア基層文化の探求1～4，アジア考古学研究機構連続講座，琵琶湖博物館（植田文雄氏・中井均氏・山本一博氏と共同），全4回。
2004年11月15日，JICA博物館学集中コース，琵琶湖博物館。

視察対応

- 2004年5月2日，徳島県立博物館，琵琶湖博物館。
2004年5月13日，ヘブライ大学、エルサレム博物館，琵琶湖博物館。
2004年5月25日，大津市歴史博物館，琵琶湖博物館。

2004年6月15日, 文化庁伝統文化課, 琵琶湖博物館.
2004年6月17日, 二上山博物館, 琵琶湖博物館.
2004年9月14日, 中国水利部長江水利委員会, 琵琶湖博物館.
2004年9月23日, 写真家中野晴生, 琵琶湖博物館.
2004年10月14日, 韓国ソウル小学校校長会, 琵琶湖博物館.
2005年3月2日, 韓国インセンティブツアー, 琵琶湖博物館.
2005年3月4日, 中国広東省修学旅行視察, 琵琶湖博物館.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

個人ページ「マッピーの考古学への道」, 管理運営.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

考古資料整理, 配架.

民具資料整理, 写真撮影その他, 約1000点.

他博物館・機関の活動

大分市歴史資料館, 松原内湖遺跡出土篋状木製品, 貸し出し.

二上山博物館, 唐橋遺跡出土資料, 貸し出し, 29件.

徳島県立博物館, 松原内湖遺跡出土篋状木製品, 貸し出し.

京都新聞, 写真資料の貸し出し, 約100件.

県外博物館等, 写真資料の貸し出し, 約10件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー, 講演, 3回.

展示交流員と話そう(縄文コースターをつくろう), 内容指導.

2004年5月31日, 展示交流員研修「中山道」, 指導.

2004年7月5日, 展示交流員研修「柏原宿」, 指導.

2004年10月18日, 展示交流員研修「湖東三山」, 指導.

他博物館・機関の活動

安土城考古博物館, 2004年10月28日, 展示企画検討.

安土城考古博物館, 2005年2月17日, 展示企画検討.

【企画調整活動】

琵琶湖博物館中長期基本計画検討チーム, チーム員, 会議検討24回, 2004年度, 琵琶湖博物館.

月曜開館行事, 月曜コンサート運営, 4回, 2004年度, 琵琶湖博物館.

滋賀県博物館協議会事務局, 事務局員, 随時, 2004年度, 琵琶湖博物館ほか.

滋賀県博物館協議会企画委員会, 委員, 2回, 2004年度, 琵琶湖博物館ほか.

館長対談企画, 企画立案, 2回, 2004年度, 琵琶湖博物館.

琵琶湖博物館運営協議会, 運営, 2回, 2004年度, 琵琶湖博物館.

琵琶湖博物館マネジメント会議, 運営, 6回, 2004年度, 琵琶湖博物館.

琵琶湖博物館事業調整会議，運営，50回，2004年度，琵琶湖博物館。
琵琶湖博物館企画調整課会議，運営，50回，2004年度，琵琶湖博物館。
琵琶湖博物館来館者アンケート，運営，3回，2004年度，琵琶湖博物館。
琵琶湖博物館企画展示開催初日行事，運営，2004年7月17日，琵琶湖博物館。

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2004年7月22日～28日，ベトナム、カンボジア，遺跡、博物館調査。
2004年9月26日～10月1日，インドネシア，遺跡、博物館、民俗調査。

【館外の活動】

2004年度，米原町歴史資料館建設準備委員会，委員長。
2004年度，秦荘町歴史文化資料館運営委員会，委員。
2004年度，能登川町神郷亀塚古墳発掘調査指導委員会，委員。
2004年度，安土城考古博物館企画展展示企画検討会，委員。

琵琶湖の船については、特に丸子船の構造について、日本のいくつかの準構造船と呼ばれる船を視察しながら、その特徴についてあらためて検証を行なった。特に舳先に主点を置いて分析を行なったものは、論文として公表された。また、丸子船の原型要素に着目した論文も受理された。こうした成果も含めた琵琶湖の伝統的木造船全体に関する論文をまとめた。さらに、館が所蔵する船大工道具の情報公開に向けて資料整理を始めた。

キンネレット湖の調査については、発掘作業が終了し、これまでの結果を踏まえて論文1本を刊行した。また、2つの報告を作成し、査読中である。

印刷物

【学術論文】

牧野久実（2004）イスラエル国エン・ゲヴ遺跡から出土したペルシヤ時代からヘレニズム時代の土器へ遺物データベースにもとづいて。慶応義塾大学文学部民族学考古学研究室（編）、慶応義塾大学民族学考古学専攻設立25周年記念論集，六一書房，東京：201-206。

牧野久実（2005）丸子船の舳先の形状の変化について。史学，2・3（73），三田史学会，東京：34-49。

【専門分野の著作】

牧野久実（2005）執筆項目：エリコ，エン・ゲヴ，ガリラヤ，キプロス土器，ヌジ，テルベイトミルシム，ミケーネ土器，養子縁組。日本オリエント学会，古代オリエント事典，岩波書店，東京。

【一般向けの著作】

牧野久実（2004）暮らしに生きていた丸子船 特集 琵琶湖の水辺-人と生き物の交わる場所。熱風，8（2），徳間書店，東京：22-31。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

牧野久実（2004年7月3日）エン・ゲヴ遺跡の最近の調査結果より。ヘレニズムイスラム研究会，ヘレニズムイスラム研究会，金沢大学（石川県金沢市），[口頭発表]。

牧野久実（2004年5月21日）丸子船の断面が語ること。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

文部科学省科学研究費補助金「イスラエル国ガリラヤ湖周辺地域の宗教文化についての総合研究」（研究代表者：月本昭男），研究分担者（2004年度）。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー，琵琶湖博物館，12件。

はしかけ：丸子船探検隊，琵琶湖博物館，運営，5件。

視察対応

2004年5月13日，イスラエル国立博物館，琵琶湖博物館。

メディアへの協力

2004年4月12日，朝日新聞，丸子船，(2004年4月10日取材)。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖の伝統船模型，収集。

船大工道具，データベース作成。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2004年度，展示活動の運営管理，グループリーダー。

2004年9月26日，交流員新人研修，B展説明。

展示交流員と話そう（琴湖について），内容指導。

モーニングレクチャー，講演，3回。

【企画調整活動】

新任職員研修，展示活動の説明，2004年4月14日。

新任職員研修，丸子船および比較展示説明，2004年4月15日。

研究テーマは、「新生代の大型植物化石の研究」とし、植物化石の分類学および系統学的研究、並びに化石植物群の組成解析による古植生の復元、古植物相の変遷、古環境などを明らかにすることを目的としている。

今年度は、昨年度から引き続き、総合研究「博物館資料の収集・整理・保管と利用に関する研究」と共同研究「琵琶湖堆積盆地の後期鮮新世約250万年前前後の古環境変化と古植生変化」を軸に、古琵琶湖層群や滋賀県の地質に関連した新生代の植物化石を対象に行った。特に、下記の課題に取り組み、次のような結果が得られた。

1. 伊吹山南麓の堆積物からみた古環境復元

総合研究の失われゆく地層情報の保存に関連して、実際に現在露頭が消滅している伊吹山麓の堆積層に焦点をあて、2001年から地質、大型植物化石、花粉化石、昆虫化石の調査を行ってきた。その結果、伊吹山麓の堆積物は、広域火山灰の阿蘇1火山灰直上にあたる火山灰層2枚を含む約27万年前の地層であることが明らかになり、その地層に含まれる化石から、当時の環境はコメツガ、チョウセンゴヨウ、ダケカンバなど亜高山に生育する常緑針葉樹・落葉広葉樹が優占する植生で、サハリンや沿海州に生息するミズクサハムシが生息する亜寒帯気候であったと考えられる。これらの化石群集は、酸素同位体比曲線のステージ8.2に相当する寒冷期の環境を示すもので、日本では中期更新世後半の寒冷な環境を示す記録として重要である。

2. 下部古琵琶湖層群の大型植物化石

共同研究の約250万年前以前の古環境に関連して、甲賀累層下部から阿山累層にかけての植物化石相を明らかにするため、新たな植物化石の調査を行った。その結果、砂坂火山灰層層準では、イチイガシなど常緑カシ類やブナ科で構成される植物化石群が得られ、従来のメタセコイア植物群の構成要素が少ない傾向が見られた。約250万年前以降の寒冷化に向けた気候変化の中で、この植物化石群は温暖期にあたるものであり、植物相の変化が予想される。

3. 古琵琶湖層群から産出したシダ植物化石

水口町北内貴の野洲川河床に分布する古琵琶湖層群迫火山灰層層準からシダ植物の葉化石が産出した。*Onoclea* cf. *O. sensibilis* var. *interrupta* など4種のシダ化石を同定し、堆積状況の記載を行っている。

研究活動に関する業績

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館総合研究「博物館資料の収集・整理・保管と利用に関する研究」（代表者：八尋克郎），研究分担者（1997～2004年度）。

琵琶湖博物館共同研究「琵琶湖堆積盆地の後期鮮新世約250万年前前後の古環境変化と古植生変化」（代表者：百原新），研究副代表（2000～2004年度）。

琵琶湖博物館専門研究「新生代における植物化石の研究」，研究代表者（2004年度）。

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2004年5月～2005年2月，滋賀大学4年生，卒業論文（古琵琶湖層群・甲賀累層の大型植物化石）。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー，琵琶湖博物館 A 展示室，11 件。

2004 年 9 月 10 日・2005 年 2 月 13 日，地学研究発表会，研究交流，琵琶湖博物館・滋賀大学サテライトプラザ，担当，2 件（滋賀大学中野聡志氏と共同）。

2004 年 10 月 29 日，化石観察会，観察会，三重県伊賀市，主担当。

2005 年 3 月 12 日，化石レプリカをつくろう，体験学習，琵琶湖博物館，講義。

メディアへの協力

2004 年 9 月 17 日，中日新聞，企画展示「のびる・ひらく・ひろがる- 植物がうごくとき-」子孫残す工夫に焦点、展示目的・内容説明，（2004 年 9 月 16 日取材）。

2005 年 2 月 22 日，京都新聞，ドスン 100 万年前ゾウ足跡だぞー 高島安曇川河床で発見，コメント，（2005 年 2 月 21 日取材）。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

寄贈図書資料，受入担当。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2004 年，企画展示「のびる・ひらく・ひろがる- 植物がうごくとき」，担当。

2004 年 3 月，A 展示室キャプション再製作，担当及び指導。

2004 年 3 月，A 展示室植物化石の研究紹介コンピュータープログラム修正，担当及び指導。

展示交流員と話そう（メタセコイアについて），内容指導。

2004 年 10 月，展示交流員研修，野外化石調査。

モーニングレクチャー，講演，3 回。

日本社会において裁判はどのような社会的位置付けにあったのだろうか。こうした問題意識にもとづいて大学院時代から取り組んできた鎌倉時代の裁許状の研究に一応の区切りをつけるべく、論文の作成に努力した。その結果、高度な発達を遂げた鎌倉幕府裁判における幕府裁許状の系譜を探り、その様式が、東寺をはじめとする他の権門（都市領主）にも影響を与えていたことなどを明らかにできたと考えているが、今年度内の完成は果たせなかった。

次に、今年度の研究の中心に据える予定であった湖辺エコトーンの研究については、王家領（天皇家領）備前国豊原庄を対象として成立や実態についての基礎的な研究を行った。この豊原庄では、鎌倉時代初期、東大寺の大勧進（再建の責任者）、重源によって海辺が開発され、後に東大寺領となる南北条などが成立したが、その開発の具体的様相は全く明らかにされていない。今年度は、そこまで明らかにすることはできなかったが、来年度以降も引き続き検討を行っていきたいと考えている。

次に、「歴史資料情報のネットワーク化に関する研究」を分担している総合研究「博物館資料の収集・整理・保管と利用に関する研究」については、特に所在情報を議論の中心に据えて、あるべきネットワーク化の姿について報告書を作成した。次年度刊行の予定であるので、引き続き検討を加えていきたい。

次に、総合研究「東アジアのなかの琵琶湖—コイ科魚類の展開を軸とした—環境史に関する研究」については、中世のコイ科魚類の消費実態解明のため、『山科家礼記』『康正三年記』及び『言国卿記』の魚介類データベース化が完了した。十五世紀のデータが一応出揃ったため、季節による消費動向の実態解明など、分析に着手している。

なお、岡山県邑久郡邑久町史の資料編の中世部分（備前国豊原庄関係資料）の編さんにも携わった。

印刷物

【一般向けの著作】

橋本道範（2004）楽しむ・発見する・発信する。島根県教育庁古代文化センター，*検証・荒神谷遺跡—これまでの20年・これからの20年—*，島根県教育庁古代文化センター：10-14。

橋本道範（2005）楽しむ・発見する・発信する。島根県教育庁古代文化センター，*古代文化記録集 しまねの古代文化*，12，島根県教育庁古代文化センター：58-68 横 14-18。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

橋本道範（2004年7月5日）鎌倉幕府裁許状の歴史的位置—対問・勘判を引用する裁許状の広がり—に注目して—。裁許状研究会，裁許状研究会，京大会館（京都府京都市），[口頭発表]。

橋本道範（2004年11月25日）鎌倉幕府裁許状の歴史的位置—対問・勘判を引用する裁許状の広がり—に注目して—。中世史研究会，中世史研究会（名古屋），愛知県中小企業センター（愛知県名古屋市），[口頭発表]。

橋本道範（2005年1月9日）裁判の研究史—鎌倉幕府裁判—。裁許状研究会，裁許状研究会，京大会館（京都府京都市），[口頭発表]。

橋本道範（2005年2月19日）荘園の中に存在した庄と郷と保—王家領備前国豊原庄の基礎的研究—。就実大学吉備地方文化研究所中世史研究会，就実大学吉備地方文化研究所中世史研究会，就実大学（岡山県岡山市），[口頭発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館総合研究「東アジアのなかの琵琶湖- コイ科魚類を軸とした- 環境史に関する研究」(研究代表者: 中島経夫), 共同研究者 (2004 年度).

琵琶湖博物館総合研究「博物館資料の収集・整理・保管と利用に関する研究」(研究代表者: 八尋克郎), 共同研究者 (2004 年度).

琵琶湖博物館専門研究「中世における湖辺の環境復元と人間による自然環境対応の研究」, 研究代表者 (2004 年度).

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2005 年 1 月 24 日・31 日, 滋賀県立大学大学院, 生物多様性論.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等主催行事

2004 年 10 月 17 日, 楽しむ・発見する・発信する, 島根県教育庁古代文化センター, 第 4 回神在月古代文化シンポジウム 検証・荒神谷遺跡- これまでの 20 年・これからの 20 年-, くまびきメッセ (島根県松江市), 講演と討論.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

収蔵庫担当者会議, 主任.

歴史資料購入, 実施, 3 件.

歴史資料提供受入, 実施, 2 件.

歴史資料修復保存処理業務委託, 指導監督等.

歴史資料撮影業務委託, 指導監督等.

特別観覧対応, 監督等, 2 件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

展示交流員と話そう (日吉大社 山王祭), 内容指導.

2004 年 3 月 23 日~4 月 17 日, トピック展示「日吉山王祭礼図- 湖国に春を告げる祭-」, 企画・実施.

モーニングレクチャー, 講演, 3 回.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

平成 16 年 11 月 1 日~, 瀬戸内市, 邑久町史編集委員会専門委員, 史料の収集と執筆.

主として、古琵琶湖層群とその同時代の地層 (鮮新-更新統) にある火山灰をもとに、広範囲で詳細な地層層序をあり、時空間的な地層形成環境の変化や、日本の大規模な鮮新-更新世爆発的火山噴火活動史を明らかにすることを目的としている。

2003 年度までの申請専門研究の成果を地質学雑誌に投稿し、査読後、掲載された。この研究によって古琵琶湖層群最下部の火山灰層が、房総半島の同時代の地層中にある火山灰層と広域対比が行われ、それによって年代が決定した。また、火山灰を構成する火山ガラスの屈折率と化学組成の関係について、共同研究者として行った。この研究は第四紀研究に掲載された。

他の出版物への執筆としては、日本の地質に関する専門書に、近江盆地の鮮新-更新統について解説を執筆し、投稿した。この書籍は現在編集中である。また、第四紀に関する研究法の専門書に、火山灰層序学について執筆し、投稿した。この書籍は現在編集中である。

2004 年度の申請専門研究では、古琵琶湖成立期の環境を周辺地域 (伊勢湾周辺) を含めて検討するための枠組み作りとして、伊勢湾周辺地域の地層との層序対比を検討したが、古琵琶湖層群下部の層序に問題があることがわかり、その問題解決を含めて古琵琶湖成立期の環境変化を検討する共同研究を 2005 年度から行う企画を行った。

また、地層情報を博物館としてどのように残すことが可能か? について、総合研究「博物館資料の収集・整理・保管と利用に関する研究」の中で議論した。本総合研究は、本年が最終年度であり、地層情報を残す議論を深めるとともに、分野によらない博物館学としての議論を行った。

以上のような研究成果とこれまでの研究、これから行おうとする研究や、研究を元にした交流活動をはじめとする博物館の活動を発信を、琵琶湖博物館インターネットページの個人管理ページで発信を行っている。また、このページをみて直接地学の質問をしてくる利用者に対して回答をしたり、地域の情報を寄せてもらうなど、同時に交流も行っている。

また、滋賀県に関する地学関係者による情報交換や交流、研究の活発化などを目的として、琵琶湖博物館地学関係学芸職員と共に事務局をもち、研究会を開いている。その第 14 回、第 15 回を行い、ニュースレターの発行も行った。この研究会の活動については、前述の個人管理ページにおいて研究会のページを作成して紹介している。

印刷物

【学術論文】

長橋良隆・吉川周作・宮川ちひろ・内山 高・里口保文 (2004) 火山ガラスの主要成分含有量と屈折率との関係。
第四紀研究, 43 (5) : 345-352.

里口保文・樋口裕也・黒川勝己 (2005) 東海層群に挟在する大田テフラ層と三浦層群のテフラ層との対比。*地質学雑誌*, 111 (1) : 74-86.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

長橋良隆・熊谷聡美・三浦郁恵・小林聡子・奥平敬元・里口保文・吉川周作 (2004 年 8 月 27 日) 大阪層群と上総層群における前・中期更新世テフラ層の対比。日本第四紀学会 2004 年大会, 日本第四紀学会, 山形大学 (山

形県山形市), [ポスター].

里口保文 (2004 年 9 月 20 日) 三浦層群安野層と東海層群常滑層の火山灰対比からみた鮮新統広域層序とその年代.

日本地質学会第 111 年学術大会, 日本地質学会, 千葉大学 (千葉県千葉市), [口頭].

長橋良隆・熊谷聡美・三浦郁恵・里口保文・吉田武義 (2004 年 9 月 20 日) 上総層群に挟在するテフラ層の爆発的火山噴火史と伊豆-小笠原弧のテクトニクス. 日本地質学会第 111 年学術大会, 日本地質学会, 千葉大学 (千葉県千葉市), [ポスター].

里口保文 (2005 年 3 月 13 日) 房総半島を基準とした鮮新統の広域層序. シンポジウム 関東平野の形成史-最近のテフラ・地下地質・テクトニクス研究に基づくその探求-, 日本第四紀学会 テフラ・火山研究委員会, 明治大学 (東京都), [口頭].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館申請専門研究「東海層群下部と古琵琶湖層群の火山灰対比による広域層序の確立」, 研究代表者 (2004 年 4 月~2005 年 3 月).

琵琶湖博物館総合研究「博物館資料の収集・整理・保管と利用に関する研究-琵琶湖地域にある資料の利活用の方法論-」 (研究代表者: 八尋克郎), 研究副代表者 (1997 年 4 月~2005 年 3 月).

琵琶湖博物館総合研究「東アジアの中の琵琶湖-コイ科魚類の展開を軸とした-環境史に関する研究」 (研究代表者: 中島経夫), 研究分担者 (1996 年 4 月~2007 年 3 月).

琵琶湖博物館共同研究「古琵琶湖誕生期の古地理・古生物復元」 (研究代表者: 高橋啓一), 共同研究者 (2004 年 4 月~2007 年 3 月).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本地質学会生涯学習委員会, 委員, 2004 年度.

日本地質学会, 地質学雑誌, 査読, 2 件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー, 琵琶湖博物館 A 展示室, 11 件.

2004 年 5 月 28 日, 体験学習, 琵琶湖博物館, 講義・説明.

2004 年 6 月 5 日, むかしの生き物, 琵琶湖博物館, 収蔵資料の説明.

視察対応

2004 年 6 月 5 日, 博物館見学, 京都教育大学 1 年生, 琵琶湖博物館.

2004 年 7 月 6 日, 地質講義, シニア自然大学地質クラブ, 琵琶湖博物館.

2004 年 7 月 28 日, 博物館実習, 大手前大学学生, 琵琶湖博物館.

メディアへの協力

2004 年 6 月 6 日, 日本テレビ, 所さんの目がテン, 内容事項検証, (2004 年 5 月 13 日取材).

2004 年 10 月 5 日, KBS 京都ラジオ, Heartful Lake, 出演・解説, (2004 年 10 月 5 日取材)

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館学芸職員個人管理ページ, 管理・運営, 多数更新.

【資料整備活動】*琵琶湖博物館の活動*

古琵琶湖層群火山灰層の寄贈，受入担当，100 件程度.

【展示活動】*琵琶湖博物館の活動*

ディスカバリーボックスの制作，内容検討助言など.

モーニングレクチャー，講演，3 回.

【企画調整活動】

研究部連絡調整，主担当，2004 年度.

新任職員等研修，主担当，2004 年 4 月 13 日～4 月 22 日，琵琶湖博物館ほか.

業績目録出版，主担当，2004 年度.

博物館実習，主担当，2004 年 8 月 2 日～8 月 9 日，琵琶湖博物館.

広報，副担当，2004 年度.

【研究部関連事業】

研究セミナー，主担当，12 件，2004 年度，琵琶湖博物館.

館内の人事・館外活動等に関すること**【館外の活動】**

2004 年 5 月 10 日～，大津市科学館，運営協議会，委員.

堆積物試料中の花粉化石群集の組成変化や、遺跡を対象とした環境考古学的手法をもちいて最終氷期以降の自然環境の変遷と人間活動との関係性を検討している。最近では環境考古学はもとより、フィールド科学の立場から環境研究について模索している。

琵琶湖博物館総合研究「東アジア」では、琵琶湖沿岸地域でのボーリング・コア採取等を継続して行った。この研究は2003年から研究分担者として参加している「完新世における琵琶湖の水位変動過程の復元」（研究代表者：小松原 琢）と同時進行で行っている。その成果は、守山市埋蔵文化財調査報告書等に投稿し、予報レベルでのまとめを行った。また、宮本真二（2004）：木津荘域の地形環境。水野章二（編著）『中世村落の景観と環境- 山門領近江国木津荘-』、思文閣出版、15-22では、地形分類作業から歴史時代の水辺エコトーン域の水位変化について若干の検討を行った。

専門研究では、近江盆地や山城盆地において継続してきた先史時代以降の地形環境変遷の成果を各種遺跡報告書で公表した。引き続き各地の遺跡立地にかかわる調査などを継続している。本年度は、昨年度からの守山市、古高・経田遺跡、赤野井浜遺跡、二之畦・横枕遺跡等の調査を中心に参加した。

2001度からは湖北・高月町史の編集にかかわることになり、湖岸平野部の遺跡立地と地形環境に着目し、先史時代以降の土地開発過程と自然環境の関係性に考察する目的があり、詳細等高線図などの作業を開始している。

その他、博士論文（論文博士）の申請のための各種作業を上記と並行しておこない、審査申請を行った。

「人間が関与した形成された自然の歴史的研究」は、単に地理学や環境史、さらには環境考古学の領域において重要なだけでなく、今後の人と自然との関係性を議論するうえでも新しい視点を提示できよう。

これらの研究はA領域（環境史研究領域）を対象とするものであるが、環境考古学さらには環境史といった領域群は、既存学問分野においては境界領域に位置していることから、今後も、自然科学的方法論を手段としながらも、人文・社会科学の諸分野との「つまがり」のなかから、「人と自然との関係性の歴史的検討」という主題の模索を行ってゆきたい。

印刷物

【専門分野の著作】

宮本真二（2004）木津荘域の地形環境。水野章二（編），*中世村落の景観と環境- 山門領近江国木津荘-*，思文閣出版，京都市：15-22.

宮本真二・小松原琢・河角龍典・森山宗保・原澤亮太・大塚夏子（2005）野洲川下流域平野、古高・経田遺跡における堆積物の層相と年代- 生産遺構の成立基盤としての地形環境変-。守山市教育委員会（編），*古高・経田遺跡発掘調査概要報告書*，守山市教育委員会，守山市：40-44.

宮本真二（2004）自然地理関係項目。人文地理学会文献目録編集委員会（編），*地理学文献目録第11集*，古今書院，東京：450p.

【一般向けの著作】

宮本真二（2004）第2回学術大会（琵琶湖大会）報告。生き物文化誌学会（編），*生き物文化誌学会 News letter*，4，生き物文化誌学会：1-2.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 宮本真二・中島経夫（2004年5月15日）縄文時代以降における日本列島の主要淡水魚の分布変化と人為。生き物文化誌学会第2回学術大会（琵琶湖大会），生き物文化誌学会・滋賀県立琵琶湖博物館，琵琶湖博物館（草津市），[口頭発表]。
- 宮本真二（2004年7月31日）愛知川中流域の地形環境と遺跡立地。平成16年度第1回愛知川町町史編纂内容報告会，愛知川町教育委員会，滋賀大学サテライトプラザ（滋賀県大津市），[口頭発表]。
- 宮本真二（2004年9月17日）中世庭園成立期の景観復原。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]。
- 宮本真二（2004年11月27日）琵琶湖の水辺移行帯の変遷と人間活動-過去と現在をつなぐ視点-。平成16年度琵琶湖博物館研究発表会，新旭里山体験交流館「もりっこ」，[講演者]，（滋賀県湖西地域振興局共催）。
- 宮本真二（2005年3月17日）Vegetational Changes since the Last Glacial from the Pollen Influx in Hokuriku District, Central Japan。東京都立大学大学院理学研究科地理科学専攻博士論文構想発表会，東京都立大学大学院理学研究科地理科学専攻，東京都立大学（東京都八王子市），[口頭発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館総合研究「東アジアの中の琵琶湖-コイ科魚類の展開を軸とした-環境史研究」（研究代表者：中島経夫），研究分担者（1996年～2006年度）。
- 琵琶湖博物館専門研究「野洲川流域平野における遺跡立地の環境考古学的研究」，研究代表者（2004年度）。
- 文部科学省科学研究費・基盤研究C「完新世における琵琶湖の水位変動過程の復原」（研究代表者：小松原 琢），研究分担者（2003年～2005年）。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本歴史地理学会，歴史地理学，査読，1件。
- 人分地理学会，文献目録編集委員会，編集委員，2000年12月18日～2004年7月21日。
- 生き物文化誌学会，琵琶湖大会運営委員，2003年12月～2004年5月。
- 環境史研究会，企画・運営，2003年～。

【大学の講義・実習、学生の指導など】

- 2004年9月2・3・6・7日，大阪明浄大学観光学部学生，地理学II（自然）。
- 2003年9月～，大阪明浄大学，非常勤講師。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- フロアトーク・質問コーナー，琵琶湖博物館，10件。

他の博物館・機関等主催行事

- 2004年7月27・28日，琵琶湖探求，石部高校，夏期集中講義，琵琶湖博物館，講演者。
- 2004年8月21日，環境の歴史と人間，草津市教育委員会，南草津図書館開館2周年記念講演会，南草津図書館（草津市），講演者。

視察対応

2005年2月22日，展示解説，三重大学人文学部，琵琶湖博物館。

2005年3月15日，展示交流員活動紹介，岐阜県博物館，琵琶湖博物館。

メディアへの協力

2004年10月18日，朝日新聞，安心院発掘について，展示室案内・解説，（2004年10月17日取材）。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

基幹機器の整備および維持管理，主任。

情報利用室の運営に関わること，主任。

来館者対応の情報機器に係わる将来計画に関わること，主任。

メディアラボの運営に関わること，副主任。

端末機器の整備維持管理および利用方法の指導に関わること，副主任。

データ・ベースソフトウェアの管理に関わること，主任。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

内閣府中央防災会議，災害資料所在確認依頼，担当。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講演，3回。

【研究部関連事業】

研究助成に関わること，主任，2004年度。

電子顕微鏡の維持管理，主任，2004年度。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2003年10月ー，愛知川町誌史編纂委員会（古代史部会），執筆委員。

2001年1月ー，高月町町誌史編纂委員会，編纂委員。

水生双翅類昆虫の水辺環境への適応がどのように進化し、地理的に広がっていったのかについて、時間軸が導入できる分子系統学的手法と伝統的な比較形態学的手法を用いて解析し、その系統進化過程を解明することを目標として研究を行っている。この系統発生像に生物地理学的観点をも含めて考察し、東アジアの中での琵琶湖の成立過程や固有性を明らかにしようと考えている。

海浜性のアシナガバエは島ごとに種分化している種がみられ、それらのDNA解析をして進化速度を計算し、島の成立年代と摺り合わせて、これらの分岐年代の推定を行う。そこで得られた分子時計を用いて、直接地史が推定できない場所に分布している淡水性のアシナガバエの分岐年代の推定することを考えている。

本年度の学術論文の発表は英文・共著で3本行い、中国と台湾の双翅目アシナガバエ科昆虫について未記載種を記載した。また、和文では「日本産水生昆虫 科・属・種への検索」(東海大学出版)のアシナガバエ科の項目について執筆した。

文部科学省の科学研究費補助金(科研費)の研究「大洋島における海洋性アシナガバエの種分化と起源」において研究代表者として、2004年6月15日から7月16日の間、スペイン領のカナリア諸島(フェルテベンツラ島、ランザローテ島、グランカナリア島、テネリフェ島、ラパルマ島、イエロ島、ゴメラ島の7島)、スペイン本土(サンタクルス、サグレス)と地中海のマヨルカ島、およびモロッコで調査を行った。カナリア諸島の島々はホットスポットにより形成された島なので、島の成立年代が分かっており、各島のハエのDNAを調べ、ハエの進化速度を計算しようと考えている。

琵琶湖博物館の共同研究「東アジアにおける第三紀起源昆虫の分子進化学的研究」において研究代表者として、2004年8月13日から9月2日の間、中国へ渡航し調査を行った。中国大陸固有種の数種が採集された。この他、多数の水生双翅類標本が収集され、現在、標本作製やDNAの解析を行っている。

印刷物

【学術論文】

- Zhang, L., Yang, D. & Masunaga, K. (2004) Two new species of *Hercostomus* from China (Diptera: Dolichopodidae). *Entomological News*, 115 (1) : 35-43.
- Zhang, L., Yang, D. & Masunaga, K. (2004) Two new species of the genus *Hercostomus* from Taiwan, China (Diptera: Dolichopodidae). *Zootaxa*, 811 : 1-8.
- Zhang, L., Yang, D. & Masunaga, K. (2004) New species of *Hercostomus* from Taiwan (Diptera: Dolichopodidae). *Entomological News*, 115 (4) : 219-225.

【専門分野の著作】

- 柘永一宏 (2005) アシナガバエ科 Dolichopodidae. 河合禎次・谷田一三, 日本産水生昆虫 科・属・種への検索, 東海大学出版, 東京 : 1221-1228.

【一般向けの著作】

- 柘永一宏 (2004) 研究最前線 ; 東アジアと北米に隔離分布する昆虫の進化を探る. うみんど, 33, 琵琶湖博物館 : 4-5.

【これまでの業績集に掲載されていない著作】

- Yang, D., Saigusa, T. & Masunaga, K. (2003) Notes on *Dolichopus*, *Allohercostomus*, and *Phalacrosona* from Nepal (Diptera: Dolichopodidae). *Entomological News*, 114 (5) : 271-274.
- Yang, D., Saigusa, T. & Masunaga, K. (2003) A new species of *Nepalomya* from Indonesia (Diptera: Dolichopodidae). *Entomological News*, 114 (5) : 275-277.
- Yang, D., Saigusa, T. & Masunaga, K. (2003) Notes on the genus *Chaetogonopteron* from Guangxi, China (Diptera: Dolichopodidae). *Entomological News*, 114 (5) : 279-283.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

榎永一宏 (2004年9月17日) アシナガバエ科昆虫の海外調査報告. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館.

【研究プロジェクト等への参加】

- 科学研究費補助金「大洋島における海洋性アシナガバエの種分化と起源」(研究代表者:榎永一宏), 研究代表者(2002-2004年度).
- 琵琶湖博物館共同研究「東アジアにおける第三紀起源昆虫の分子進化的研究」(研究代表者:榎永一宏), 研究代表者(2002-2006年度).
- 琵琶湖博物館専門研究「双翅目アシナガバエ科昆虫の系統分類と生物地理」, 研究代表者(2004年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー, 琵琶湖博物館, 12件.

2004年5月22日・9月18日・3月26日, ホタルの学校, 千丈川を歩いて発見等, 滋賀県大津市, 講師, 3件.

2004年6月12日, 水生昆虫観察会, さがしてみよう! 水の中のいきものたち, 滋賀県志賀町, 講師.

2004年7月24日, 虫から見た里山, 里山体験教室(夏編), 滋賀県日野町, 講師(八尋克郎と共同).

2004年7月25日, 夏休み自由研究講座, 昆虫コース, 琵琶湖博物館, 講師(八尋克郎と共同).

2004年8月3日, 生き物飼いか講座, 昆虫相談, 琵琶湖博物館, 講師.

2004年8月7日, ミドリセンチコガネを探しに行こう, 観察会, 琵琶湖博物館, 講師(八尋克郎と共同).

2004年10月20日, 秋の叔母川探検, 観察会, 滋賀県草津市, 講師.

2004年10月24日, 水生昆虫探検観察, 自然観察シリーズ第2弾川探検, 滋賀県大津市, 講師.

2005年3月27日, 川虫探検, 観察会, 滋賀県大津市, 講師(上原千春氏と共同).

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

昆虫液浸標本データベース登録, 5000.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

日本, 中国, スペイン, モロッコ産の昆虫の収集・整理(液浸, 乾燥とも).

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講演，9回.

2004年度，常設展示C展示室「川の生き物を調べる」ライトトラップの展示更新と維持管理.

【企画調整活動】

新任職員研修，ディスカバリールーム，2004年4月14日.

新任職員研修，C展示室「川の生き物を調べる」，2004年4月20日.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2004年6月15～7月16日，スペイン（カナリア諸島）、モロッコ，科研費の「大洋島における海洋性アシナガバエの種分化と起源」の調査.

2004年8月13日～9月2日，中国，琵琶湖博物館共同研究の「東アジアにおける第三紀起源昆虫の分子進化学的研究」の調査.

【館外の活動】

2003年4月～2005年3月，滋賀県生きもの総合調査昆虫類部会，専門委員.

専門研究では、「日本産ナマズ属魚類3種の繁殖生態に関する研究」で一定の成果を挙げることができ、現在「Reproductive “ecology of the Far Eastern catfish *Silurus asotus* (Siluridae) from Lake Biwa, Japan, with a comparison to its two congeners in the lake」を国際学術誌に掲載すべく校正中である。平成16年度からは、現在の琵琶湖で問題となっている北米産外来種2種の在来種への影響実態を明らかにするために、共同研究との整合性を考慮して、専門研究タイトルを「水田利用魚類の生態と外来種の関連」に移行させた。そして、過去に調査した日野町内のため池58箇所の魚類調査結果をとりまとめ、北米産外来種（1種、または2種）が生息するため池では、在来種の生息種数がいちじるしく少ないことを統計的に明らかにした（未発表）。

共同研究では昨年度起こした「水辺エコトーン再生のための在来魚復活、外来魚排除に関する研究」を新たに「内湖－水田間の水辺ネットワーク構築による在来魚復活に関する研究」にタイトルを改め、奥琵琶湖の湖辺の小内湖2箇所の魚類を徹底的に採集調査し、次年度の研究につなげる準備をおこなった。その結果、(1)これら2内湖ともに外来種2種が優先種（特にブルーギル）であること、(2)内湖では在来種数種が産卵し、若干の仔魚は生まれてはいるものの、その殆どが途中から姿をけしていること、の2点が実態として明らかにされた。また、琵琶湖魚類を今日の状況に追い込んだ外来種（国内、国外からの移入種）等の移殖、放流が野放し状態であることに絡み、日本魚類学会自然保護委員会に参画し同委員会委員他3名とともに「魚類の放流ガイドライン（案）」を完成させた。

専門研究、共同研究の成果の情報発信として、その一部を当館研究発表会（湖西地域）や関西地区の研究者の交流の場である魚類自然史研究会、日本生態学会等で発表するとともに、一般月刊誌にても公表した。さらに「早崎内湖再生シンポジウム」（主催：早崎内湖再生協議会）、「シンポジウム“魚ののぼれる川づくり2”」（主催：びわ湖自然環境ネットワーク）、「“水辺と生き物－琵琶湖の環境を考える”シンポジウム（主催：毎日新聞社）等においてもパネラーとして参画し、シンポジウム参加者等に水辺環境の由々しき実態と外来種（魚類）の生態系への悪影響等を解説した。

印刷物

【学術論文】

前畑政善（2004）琵琶湖の水辺移行帯－魚にとっての水田の役割－．月刊「水」，46，月刊「水」発行所，東京：26-36.

【専門分野の著述】

前畑政善（2004）魚が田んぼに入るわけ－ナマズの子孫繁殖戦略－．自然保護，479，（財）日本自然保護協会，東京：36-37.

前畑政善（2004）アユモドキ．平成15年度国内野生動植物種指定のための生息実態調査報告書，（財）自然環境研究センター，東京：95p+32pls.

前畑政善（2004）平成16年度滋賀の大切にすべき生き物調査．魚貝類部会報告書，滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課：19p.

【一般向けの著述】

前畑政善（2004）琵琶湖で学ぶ－琵琶湖博物館を訪ねて－．ABCガラスの地球を救え！倶楽部，ABC「ガラスの地球を救え」事務局，大阪：10.

- 前畑政善 (2004) 滋賀の魚「メダカ」. 京都新聞: 2004年4月6日.
- 前畑政善 (2004) 湖国の魚「ビワコオナマス」. あいあいAI 滋賀, 朝日新聞社: 2004年7月7日.
- 前畑政善 (2004) 湖国の魚「イワトコナマス」. あいあいAI 滋賀, 朝日新聞社: 2004年7月15日.
- 前畑政善 (2004) 湖国の魚「ハス」. あいあいAI 滋賀, 朝日新聞社: 2004年7月21日.
- 前畑政善 (2004) 湖国の魚「コイ」. あいあいAI 滋賀, 朝日新聞社: 2004年7月28日.
- 前畑政善 (2004) 滋賀の魚「ドンコ」. 京都新聞: 2004年8月24日.
- 前畑政善 (2004) 滋賀の魚「コアユ」. 京都新聞: 2004年9月7日.
- 前畑政善 (2004) 滋賀の魚「アジメドジョウ」. 京都新聞: 2004年11月9日.
- 前畑政善 (2004) 琵琶湖の魚と環境- 魚から環境を考える-. 合宿琵琶湖市民大学- 琵琶湖の20年後を考える- 報告書, 淀川水系の水質を調べる会・20年目の琵琶湖調査団, 京都: 22-25.
- 前畑政善 (2005) 魚類と水生無脊椎動物. 近江日野の歴史 (1) 自然・古代編, 日野町史編さん委員会 (編), 日野町教育委員会, 日野町: 239-267.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表など】

- 前畑政善 (2004年5月16日) 魚にとっての田んぼの役割. 第2回生き物文化誌学会学術大会, 生き物文化誌学会, 琵琶湖博物館 (草津市), [口頭発表].
- 阿部 司・小林一郎・近 雅弘・前畑政善 (2004年5月16日) 水田地帯を利用する魚「アユモドキ」. 第2回生き物文化誌学会学術大会, 生き物文化誌学会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 金尾滋史・前畑政善・澤田裕一 (2004年5月16日) 琵琶湖周辺の水田地帯における魚類の生態と保全. 第2回生き物文化誌学会学術大会, 生き物文化誌学会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 前畑政善 (2004年6月19日) 水族館・博物館における希少淡水魚の保存. 日本魚類学会2004年度公開シンポジウム「淡水魚の放流と保全-生物多様性の観点から」, 日本魚類学会, 東京海洋大学 (東京), [口頭発表].
- 前畑政善 (2004年7月3日) 魚はなぜ水田地帯にやってくるのか?. 国指定天然記念物 アユモドキシンポジウム, 瀬戸町教育委員会, 瀬戸町総合福祉センター (岡山県瀬戸町), [口頭発表].
- 金尾滋史・前畑政善・澤田裕一 (2004年8月28日) 琵琶湖周辺の水田地帯における水田利用魚類の現状. 第51回日本生態学会大会, 日本生態学会, 北海道大学 (札幌市), [ポスター発表].
- 前畑政善 (2004年10月30日) 魚貝類部会報告. 滋賀の生物多様性を考えるフォーラム, 滋賀県, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 前畑政善・中井克樹・金尾滋史・澤田裕一 (2004年11月13日) コイ科魚類繁殖期における琵琶湖内湖の魚類組成. 第39回魚類自然史研究会, 魚類自然史研究会, 苫田温泉乃利武 (岡山市), [口頭発表].
- 金尾滋史・前畑政善・澤田裕一 (2004年11月13日) 魚が侵入可能な水田の分布とその意義. 第39回魚類自然史研究会, 魚類自然史研究会, 苫田温泉乃利武 (岡山市), [口頭発表].
- 前畑政善 (2004年11月27日) 魚はなぜ田んぼに侵入するのか?. 平成16年度琵琶湖博物館研究発表会, 滋賀県湖西振興局・琵琶湖博物館, 新旭体験交流館もりっこ (新旭町), [口頭発表].
- 前畑政善 (2005年2月23日) 魚はなぜ田んぼをめざすのか?. 平成16年度滋賀県試験研究機関連絡会議, 滋賀県試験研究機関連絡会議, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「日本産ナマス類3種の繁殖生態」(研究代表者: 前畑政善), 総括・魚類生息調査 (~2004年度).
- 琵琶湖博物館共同研究「水辺エコトーン再生のための在来魚復活、外来魚排除に関する研究」(研究代表者: 前畑政善), 総括・魚類調査 (2004年度).

琵琶湖博物館共同研究「ヘラブナ」(研究代表者:大原健一), 標本採集・整理・文献収集 (2003-2004年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

生き物文化誌学会, 第2回生き物文化誌学会学術大会, 実行委員, 2004年5月15-16日.

日本魚類学会, 魚類学会誌(英文誌 Ichthyological Research), 投稿論文査読, 1件.

日本魚類学会, 2004年度日本魚類学会公開シンポジウム「魚類の放流」企画委員・パネラー, 2003年6月-2004年6月.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2004年10月25日-11月8日, 滋賀県立大学院生, 「生物多様性論」.

2004年4月1日-2005年3月31日, 滋賀県立大学大学院博士過程1回生(金尾滋史), 学位論文研究指導.

2003年4月1日-2005年3月31日, 滋賀県立大学大学院修士過程2回生(山中佐紀子), 修士論文研究指導.

【受賞など】

第51回日本生態学会ポスター賞「保全・管理」分野 最優秀賞, 2004年8月28日, ポスター発表「琵琶湖周辺の水田地帯における水田利用魚類の現状」(金尾滋史・沢田裕一氏共同受賞).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館主催の行事

2004年8月5日, 夏休み生き物飼いか方講座, 教員向け博物館講座, 琵琶湖博物館, 講師.

2005年3月6日, 水族展示の舞台裏, 琵琶湖博物館, 講師, (孝橋賢一・秋山廣光・松田征也・桑原雅之と共同)

他の博物館・機関等主催行事

2004年4月3日, 水生生物観察会, 豊穰の里赤野井湾流域協議会, 守山市役所および周辺河川(草津市), 講師.

2004年4月8日, 琵琶湖の歴史・環境と魚類の変化, イラン国「湿地環境管理」(イラン国アンザリ湿原生態系保全総合管理計画調査), 琵琶湖博物館, 講師.

2004年6月5日, 琵琶湖と水田のかかわり, 広島県立歴史民俗資料館, 第25期文化財講座, 広島県立歴史民俗資料館(三次市), 講師.

2004年6月9日, 琵琶湖の環境と魚, (社)滋賀県保育協議会, 平成16年度滋賀県保育協議会年会, アヤハレークサイドホテル(大津市), 講師.

2004年6月27日, 琵琶湖博物館の沿革、理念、展示、交流活動, 大阪芸術大学, 琵琶湖博物館, 講師.

2004年7月2日・2005年1月27日, 琵琶湖の魚と田んぼ, (財)滋賀県レイカディア大学, 滋賀県レイカディア大学, 滋賀県長寿社会福祉センター(草津市), 講師, 2件.

2004年7月19日, 琵琶湖の環境と魚, NPO法人シニア自然大学, シニア自然大学, 琵琶湖博物館, 講師.

2004年7月23日, 琵琶湖の環境と魚, 神戸市中学校理科研究会, 平成16年度神戸市中学校理科研究会, 琵琶湖博物館, 講師.

2004年7月27日, アユモドキってどんな魚?, 八木町教育委員会, アユモドキ学習会, 琵琶湖博物館, 講師.

2004年8月2日-8月12日, 淡水魚入門講座, NPO法人シニア自然大学, シニア自然大学, 大阪NPOプラザ(大阪市), 講師, 全3回.

2004年8月9日-8月26日, 淡水魚入門講座 野外実習, シニア自然大学, 大戸川(大津市), 講師, 全3回.

2004年8月17日, 琵琶湖の環境と魚-魚から環境を考える, 大阪府私立中学校高等学校理科研究会, 平成16年度理科研究会, 琵琶湖博物館, 講師.

- 2004年8月27日，琵琶湖の環境と魚，淀川水系の水質を調べる会・20年目の琵琶湖調査団，琵琶湖市民大学，朝日漁業会館（湖北町），講師。
- 2004年8月29日，水の使い方を考えるシンポジウム，国土交通省・近畿地方整備局，京都リサーチパーク（京都市），パネラー。
- 2004年11月9日，平成16年度 新堂中学校2年生職場体験実習，琵琶湖博物館および周辺湖岸（草津市），講師。
- 2004年11月9日，水の琵琶湖の環境・歴史と近年の魚類の変化，独立行政法人 水資源機構 琵琶湖開発総合管理所湖南管理所，勉強会，琵琶湖博物館，講師。
- 2005年1月23日，魚はなぜ田んぼにのぼるのか？，FLB びわ湖自然環境ネットワーク，シンポジウム「魚ののぼれる川づくり2」，ピアザ淡海（大津市），講師・パネラー。
- 2005年2月24日，琵琶湖魚類の減少と水田環境，毎日新聞社，「水辺と生き物ー琵琶湖の環境を考える」シンポジウム，朝日新聞社ホール（大阪市），講師。
- 2005年3月12日，琵琶湖の歴史・環境と魚類，神戸市立須磨海浜水族園，神戸市立須磨海浜水族園ボランティアスキルアップ研修，琵琶湖博物館，講師。
- 2005年3月13日，魚類，早崎内湖再生協議会，早崎内湖再生シンポジウム，びわ町文化学習センター（びわ町），パネラー。

視察対応

- 2004年6月26日，概要説明，滋賀県商工会連合会，琵琶湖博物館。
- 2004年10月26日，事業概要説明と館内ガイド，平成16年度マラウイ養殖開発マスタープラン（国別研修）「水産開発」に係る研修独立行政法人 国際協力機構（東京），琵琶湖博物館。
- 2004年11月2日，概要説明，日野町（町民大学講座 I・II），琵琶湖博物館，2件。
- 2004年3月4日，概要説明，（財）国際湖沼環境委員会，琵琶湖博物館。
- 2005年3月4日，概要説明，㈱びわこビジターズビューロー（日本国内ランドオペレーターの団体），琵琶湖博物館。
- 2005年3月12日，概要説明，神戸市立須磨海浜水族園ボランティア研修会，琵琶湖博物館。

メディアへ協力

- 2004年4月10日，日本テレビ（東京），琵琶湖（大津市内）で発見されたカミツキガメについて，インタビュー出演，（2004年4月10日取材）。
- 2004年10月13日，KBS 京都放送（京都），「村上祐子のラジオかまい隊」～Heartful Lake～琵琶湖の生命キャンペーン，インタビュー出演，（2004年10月12日取材）。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

- 魚類標本収集，笹ヶ瀬川産（岡山県岡山市），5種33点。
- 魚類標本収集，百枝月産（吉井川の横の水路：岡山県岡山市），9種15点。
- 魚類標本収集，西内沼・奥田沼産（高島市マキノ町海津），約1000点。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

- モーニングレクチャー，講義，3回。
- 展示交流員と話そう，内容指導。

館内人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2000年5月～2004年3月，滋賀県博物館協議会，研修委員会，委員。

【館外の活動】

2003年11月5日～，大津市立逢坂小学校，逢坂小学校エコスクール委員会，委員。

2002年9月～，滋賀県農政水産部，みずすまし構想推進委員会，生態系保全専門部会員。

2003年1月～，滋賀県土木交通部河港課，近江の川づくり検討委員会（琵琶湖統合部会），委員。

2003年5月～，滋賀県農政水産部，早崎内湖周辺ビオトープネットワーク検討調査事業に関わる調査検討委員会，委員。

2003年5月～2006年3月，滋賀県琵琶湖環境部，滋賀県生きもの総合調査委員会，委員（魚貝類部会長）。

2003年5月～2005年3月，滋賀県琵琶湖環境部，移入種問題検討委員会，委員（水生生態系部会部会長）。2004年10月～，淡水魚保全研究会，常任理事。

2001年6月～，日本魚類学会，自然保護委員会，委員。

2003年5月～，（社）日本動物園水族館協会，種保存委員会（技術部会 人工繁殖技術検討委員会），委員。

1991年4月～，（社）日本動物園水族館協会，種保存委員会（日本産希少淡水魚繁殖検討委員会），委員。

2003年8月～，国土交通省近畿地方整備局・大戸川ダム工事事務所，大戸川ダムの付替県道・工事用道路に係わる生態系保全検討会，委員。

2004年4月～2005年3月，国土交通省近畿地方整備局・琵琶湖河川工事事務所，琵琶湖および周辺河川環境に関する専門家グループ制度，委員。

2004年7月～2005年7月，環境省自然環境局，希少野生動植物種保存推進委員。

2004年6月～2005年3月，環境省自然環境局，平成16年度 自然環境基礎調査検討会，検討員。

2004年8月～2005年3月，環境省自然環境局，平成16年度 絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会，検討員（淡水魚類作業部会）。

本年度の専門研究は、「滋賀県における農業環境政策の試みー環境支払いを中心としてー」というテーマで、文献及び事例調査を中心に実施した。

欧米においては、農業は環境に対してプラスの面（環境便益）、マイナスの面（環境損失）があるという認識のもと、1980年代から「農業環境政策」が積極的に展開されている。これに対し、日本において「環境調和型農業」という概念が広まり始めたのは、ここ10年ほどの間である。

WTO農業交渉というグローバルな枠組みの中、日本の農業が持続的に発展し、農業による環境便益を増加させていくような施策が今求められている。このような日本の農業をとりまく状況を背景に、滋賀県では「滋賀県環境こだわり農業推進条例」を制定し、平成16年度から「環境直接支払い制度」をスタートさせた。また、農村における「水循環」「農村景観」にたいする直接支払制度の試行もおこなわれつつある。

今後は、農村地域における生物多様性保全をターゲットにした直接支払制度のあり方についての研究成果が待たれるところである。

本年度後半からは、関係行政機関と連携し「生物多様性直接支払い政策研究会」を立ち上げ、農村地域における生物多様性保全のあり方についての調査研究を進めている。

印刷物

【一般向けの著作】

杉谷博隆・秋山廣光・牧野厚史・中藤容子・武部 強・考橋賢一（編）（2004）琵琶湖博物館広報誌うみんど. 31, 琵琶湖博物館, 草津市：8p.

杉谷博隆・秋山廣光・牧野厚史・中藤容子・武部 強・考橋賢一（編）（2004）琵琶湖博物館広報誌うみんど. 32, 琵琶湖博物館, 草津市：8p.

杉谷博隆・秋山廣光・牧野厚史・中藤容子・武部 強・考橋賢一（編）（2005）琵琶湖博物館広報誌うみんど. 33, 琵琶湖博物館, 草津市：8p.

杉谷博隆・秋山廣光・牧野厚史・中藤容子・武部 強・考橋賢一（編）（2005）琵琶湖博物館広報誌うみんど. 34, 琵琶湖博物館, 草津市：8p.

杉谷博隆（2004）田んぼのある博物館. 農村振興, 655, 全国農村振興技術連盟, 東京：40.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

杉谷博隆（2004年12月17日）滋賀県における農業環境政策の試みー環境支払いを中心としてー. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「滋賀県における農業環境政策」, 研究代表者（2004年度）.

琵琶湖博物館共同研究「内湖ー水田間の水辺ネットワーク構築による在来魚復活に関する研究」（研究代表者：前畑政善）, 共同研究者（2003年度ー2008年度）.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー，琵琶湖博物館，10件。

2004年5月2日，春の棚田の観察会，琵琶湖博物館観察会，伊吹町小泉，助手。

2004年5月9日～2005年2月13日，田んぼ体験教室，琵琶湖博物館，企画・実施，10回。

2004年12月11日，餅つきをしよう，琵琶湖博物館体験学習の日，琵琶湖博物館，実施。

他の博物館・機関等主催行事

2004年12月2日，私たちが作った奥田沼水田魚道，マキノ東小学校，マキノ東小学校（マキノ町），講師。

視察対応

2004年4月21日，展示案内，滋賀県農政水産部，琵琶湖博物館。

2004年10月19日，展示案内，環境保全型農業基盤整備技術・工法検討委員会，琵琶湖博物館。

2004年10月31日，展示案内，当日まちづくり委員会，琵琶湖博物館。

2004年11月26日，展示案内，関東農政局，琵琶湖博物館。

メディアへの協力

2004年5月12日，びわ湖放送，びびっとびわこ，田んぼ体験教室「田植え」，取材，（2004年5月9日取材）。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2004年度，実験工房・田畑の管理，主担当。

2004年9月10日～2004年9月16日，滋賀のため池パネル展示，実施。

モーニングレクチャー，講演，3回。

2005年度ため池ギャラリー展準備，企画主担当。

【企画調整活動】

琵琶湖博物館年報第8号，編集主担当，2004年7月。

琵琶湖博物館広報誌「うみんど」企画・編集，主担当。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2004年度，滋賀県農政水産部耕地課企画調整担当，主幹を兼務。

2004年度，滋賀県農政水産部農村整備課，魚のゆりかご水田検討委員会，検討会参加。

2004年9月16日，ため池シンポジウム2004 in しが，滋賀県農政水産部農村整備課，実施。

2004年度は、専門研究のテーマを「多自然型川づくりの評価手法」としていたが、これに加えて、2005年度に予定している琵琶湖博物館と滋賀県土木交通部河港課との共催で行うギャラリー展「淡海の川 ― 水害、そして川とともに生きる―」に関連する調査および資料整備を実施した。なお、専門研究にあたっては土木交通部河港課と兼務していることから、県の河川行政で活用することに主眼をおいて取り組んでいる。

1. 多自然型川づくりの評価手法

平成9年の河川法改正において「河川環境の整備と保全」が法の目的として追加され、河川改修は基本的に「多自然型川づくり」として実施されるようになった。しかし、実際の現場では、親水護岸や植生護岸など工法に偏重したものや人工的に作りすぎたものなど、必ずしも適切とは言えない事例もある。「多自然型川づくり」の評価をしっかりと行い、今後の川づくりへその評価を反映していくことが滋賀県の河川行政の課題でもあるため、河港課と連携して「多自然型川づくりの評価手法」の開発を2002年度より進めている。

今年度は、現在策定済みの評価指標の以下の課題に向けて検討を進めた。

- ・現況評価に加え、将来の状況の評価できるものとする→予測手法の検討
- ・総合的評価のための評価指標の検討（治水等の評価項目の追加）

今後はモデル河川においてその適用性を検証する予定である。

2. 「淡海の川 ― 水害、そして川とともに生きる―」ギャラリー展準備

2004年の日本は、全国各地で大きな水害が発生し、新聞やテレビ等で大きく取りあげられた。そして、新たな問題も出てきたと思われる。特に、高齢者等の災害弱者と言われる災害時要援護者の避難の問題、地域コミュニティの共助体制の問題、災害経験者の減少による危機意識の低下や災害時に的確な認識や行動が行われない等の社会状況の変化による問題が上げられる。これらの問題は、水害を身近な地域の問題と感じることが出来ていないことが原因の一つと考えられる。

ギャラリー展示では、水害を身近に自分の生活の問題として来館者に考えて頂くための工夫を考えた。水害体験者には、今回の展示で当時の記憶を呼び覚まして頂くと共に、若い世代や新住民の方々に地域の水害について語り継いで頂きたいと思っている。そして、水害を体験されたことのない方々には、自分の生活の場でも起こりうる水害について、より身近に感じて頂くことで、今一度自分の地域の防災について考えて頂く機会を提供し、洪水が起きたときの減災に少しでもつながるようにしたい。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

武部 強 (2004年11月19日) 滋賀県下の河川の治水安全度について. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー，琵琶湖博物館，9件.

視察対応

2004年6月4日，展示解説，国土交通省国土技術政策総合研究所，琵琶湖博物館.

2004年6月11日，展示解説，国土交通省，琵琶湖博物館.

2004年6月18日，展示解説，中国水利部，琵琶湖博物館.

2004年8月26日，展示解説，ふるさとの川整備事業認定自治体協議会，琵琶湖博物館.

2004年12月17日，展示解説，国土交通省，琵琶湖博物館.

メディアへの協力

2004年4月16日，京都新聞，湖浄化の変遷紹介，赤野井湾浚渫展示解説（2004年4月10日取材）.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2004年度，常設展示維持管理，主担当.

2004年度，「川」のギャラリー展準備，主担当.

モーニングレクチャー，講演，3回.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2004年度，うみんど編集委員.

【館外の活動】

2004年度，淡海の川づくり検討委員会（多自然型川づくり総合評価手法検討ワーキング），運営補助・ワーキングメンバー.

2004年度，滋賀県土木交通部河港課河川環境担当・副主幹を兼務.

近年、「適地適木」を無視した拡大造林における反省から、スギ・ヒノキの成績不良地において、他の樹種へ誘導する方法がとられている。これは、山の持つ公益的機能の発現という意味から非常に大切なことである。この公益的機能の発現を、より確実に進めてゆくためには、土地所有者が自ら進んで植林及び森林整備を行う気になる方法を考える必要がある。

そこで、他の樹種へ誘導する時、どのような樹種でどのような方法をとれば、より経済的・効果的であるかを調査することとした。

調査樹種は、径 80cm 以上になれば銘木として扱われ、家具・建築材・装飾材と利用価値が高く有益な樹種であり、木起こしの必要性が少ないケヤキを選んだ。木起こしが少ないという点は、滋賀県北部でのスギ・ヒノキの成績不良の原因が、木起こしの失敗が多いということと考えると有効である。また、積雪地区である滋賀県北部では、現在、カシノナガキクイムシの被害が拡大しつつあるので、この被害に遭わない樹種を普及するという観点からも有効と考えられる。

さて、調査方法であるが、ケヤキの苗木生産は、2年生の実生苗を山出し苗とするのが一般的であるが、滋賀県北部の方で山取り稚樹を、1年間苗畑で育成し、山引き床苗での、造林をされている方がおられるので、それぞれの方法（実生生産と山引き床苗生産）の比較対照を行い、得失を調べることにした。

そして、これらの調査結果より、それぞれの地域におけるケヤキへの誘導方法の普及を図ることとした。

調査項目としては、上記からもわかるとおり、「実生苗生産関係」と「山引き床苗生産関係」とし、今年度の調査としては、「植栽時期の検討および種子採種時期の検討」と「山出し前の苗木状況」を行った。

調査結果については、今年度から調査を始めたこともあり、それぞれの得失を比べられる十分な調査を行うことができなかったため、それぞれの地域におけるケヤキへの誘導方法の普及が図れるよう、次年度も調査を進めてゆく。

印刷物

【専門分野の著作】

杉本 茂・平田 明・金子修一（2004）低コスト育林システムの開発に関する調査. 滋賀県森林センター業務報告書, 37, 滋賀県森林センター：11-18.

金子修一（2004）低コスト育林システムの開発に関する調査. 滋賀県森林センター業務報告書, 37, 滋賀県森林センター：34.

金子修一（2004）林木品種改良事業. 滋賀県森林センター業務報告書, 37, 滋賀県森林センター：47.

金子修一（2004）精英樹等次代検定事業. 滋賀県森林センター業務報告書, 37, 滋賀県森林センター：48-53.

金子修一（2004）地域特性品種育成事業. 滋賀県森林センター業務報告書, 37, 滋賀県森林センター：54.

【一般向けの著作】

金子修一（2004）林木育種情報（平成 15 年度次代検定林調査結果）. 滋賀県森林センター便り, 10, 滋賀県森林センター：1-3.

金子修一（2004）林木育種情報（「西滋耐雪 1 号」調査結果）. 滋賀県森林センター便り, 11, 滋賀県森林センター：2.

金子修一（2004）林木育種情報（花粉症対策としての花粉の少ないスギ品種の開発・普及）. 滋賀県森林センター便

り, 13, 滋賀県森林センター: 2.

金子修一 (2004) 琵琶湖博物館での林業普及活動. 滋賀県森林センター便り, 13, 滋賀県森林センター: 4.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

金子修一 (2005 年 3 月 18 日) 低コスト育林システムの開発に関する調査. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー, 琵琶湖博物館, 2 件.

2004 年 4 月 25 日～12 月 4 日, 里山体験教室, 蒲生郡日野町, 企画・実施, 主担当, 4 件, (楠岡 泰・青木伸子・里山の会と共同).

はしかけ: 里山の会, 蒲生郡日野町など, 企画・実施, 15 件 (体験教室下見 4 回含む) (楠岡 泰・青木伸子共同).

視察対応

2004 年 9 月 3 日, 視察研修, 全国林業試験研究機関協議会関西 I ブロック会員, 琵琶湖博物館.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー, 講演, 2 回.

展示交流員と話そう (森林が私たちにもたらしてくれるもの), 内容指導.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2004 年 4 月 1 日～, 林業専門技術員, 滋賀県森林センター主査を兼務.

昨年度まで在職した滋賀県水産試験場では琵琶湖漁業の主要漁業であるエリ漁の網に平成6～7年ごろより付着物が増加し、操業に支障を来している問題について現状把握のため各種調査を行ってきた。その結果、エリ網の付着物による汚損は南湖よりも、北湖で特に顕著であり、また付着物は南湖のものが主に緑藻が主体で構成されていたのに対し、北湖ではカビ臭を伴い、糸状性藍藻がエリ網にからみつき構成されたマットに土壌粒子やケイ藻などがトラップされたり、これらを栄養塩とし、糸状性藍藻等がマット上で増殖している現象であることが判明してきた。

そこで今年度の専門研究「近年、琵琶湖で増加したエリ網を汚損する付着物について」では、昨年度までの知見や既知の文献などのデータを整理し、なぜ近年、急激にエリ網を汚損する付着物が増加してきたか、また南湖では少なく、北湖で多いのか等を検討する作業仮説を作成し、また一部、この作業仮説に基づき、底泥分布調査を行い、仮説の予備検証を行った。今後はさらにこの仮説の検証を進めるとともに、原因藻類の分離を行っていきたいと考えている。

印刷物

【専門分野の著作】

- 孝橋賢一・幡野真隆 (2004) 平成 15 年湖北町野田沼における水質の変動. 平成 15 年度滋賀県水産試験場事業報告, 滋賀県水産試験場: 54-55.
- 山本充孝・二宮浩司・酒井明久・遠藤 誠・孝橋賢一・太田滋規・岩崎治臣・高橋 誓 (2004) これまで水産試験場で実施した加温処置による冷水病治療試験の集計結果. 平成 15 年度滋賀県水産試験場事業報告, 滋賀県水産試験場: 170-171.
- 孝橋賢一・幡野真隆・太田豊三 (2004) 近年、琵琶湖で増加したエリ網の付着物について-3. 平成 15 年度滋賀県水産試験場事業報告. 滋賀県水産試験場: 206-207.
- 孝橋賢一・幡野真隆・太田豊三・遠藤 誠 (2004) 宇曾川地先における泥堆積状況調査結果概要. 平成 15 年度滋賀県水産試験場事業報告, 滋賀県水産試験場: 208-209.
- 孝橋賢一・幡野真隆 (2004) 産卵繁殖場の湖水を用いたホンモロコシのふ化率およびふ化後の生残について-2. 平成 15 年度滋賀県水産試験場事業報告, 滋賀県水産試験場: 212-213.
- 孝橋賢一・幡野真隆・須戸 幹 (2004) 代掻き濁水流入時の温水魚産卵場における農薬の分布. 平成 15 年度滋賀県水産試験場事業報告, 滋賀県水産試験場: 214-215.
- 孝橋賢一 (2004) 数種の農薬に暴露したホンモロコシふ化仔魚の生残. 平成 15 年度滋賀県水産試験場事業報告, 滋賀県水産試験場: 216-217.
- 孝橋賢一 (2004) ブルーギルおよびタナゴ・ワタカを収容した水槽における水質の違い. 平成 15 年度滋賀県水産試験場事業報告, 滋賀県水産試験場: 218-219.
- 孝橋賢一 (2004) カワニナ類およびヒメタニシを収容した水槽における水質の違い. 平成 15 年度滋賀県水産試験場事業報告, 滋賀県水産試験場: 220-221.
- 幡野真隆・孝橋賢一・菅原和宏・山本充孝・金辻宏明・二宮浩司・太田豊三 (2004) 平成 15 年度琵琶湖定点定期観測結果. 平成 15 年度滋賀県水産試験場事業報告, 滋賀県水産試験場: 222-223.
- 幡野真隆・孝橋賢一 (2004) 宇曾川濁水流出状況調査. 平成 15 年度滋賀県水産試験場事業報告, 滋賀県水産試験場:

224-225.

- 幡野真隆・孝橋賢一・太田豊三 (2004) 赤野井湾漁場の水・底質モニタリング調査. 平成 15 年度滋賀県水産試験場事業報告, 滋賀県水産試験場: 226-227.
- 幡野真隆・孝橋賢一 (2004) フナ・モロコを対象とした保護水面指定水域湖岸の水質. 平成 15 年度滋賀県水産試験場事業報告, 滋賀県水産試験場: 228-229.
- 幡野真隆・孝橋賢一 (2004) アユ産卵保護水面指定河川の水質. 平成 15 年度滋賀県水産試験場事業報告, 滋賀県水産試験場: 230-231.

【一般向けの著作】

- 孝橋賢一・谷口雅之・西垣 享・楠岡 泰・大塚泰介 (編) (2004) うみっこ. (17), 琵琶湖博物館, 草津市: 4p.
- 孝橋賢一・谷口雅之・西垣 享・八尋克郎・杉谷博隆 (編) (2005) うみっこ. (18), 琵琶湖博物館, 草津市: 4p.
- 孝橋賢一 (2004) 滋賀の魚「ニジマス」. 京都新聞: 2004 年 6 月 1 日.
- 孝橋賢一 (2004) 滋賀の魚「ハリヨ」. 京都新聞: 2004 年 8 月 10 日.
- 孝橋賢一 (2004) 湖国の魚「ニゴロブナ」. あいあい AI 滋賀, 朝日新聞社: 2004 年 8 月 11 日.
- 孝橋賢一 (2004) 湖国の魚「ゲンゴロウブナ」. あいあい AI 滋賀, 朝日新聞社: 2004 年 8 月 25 日.
- 孝橋賢一 (2004) 滋賀の魚「モツゴ」. 京都新聞: 2004 年 9 月 14 日.
- 孝橋賢一 (2004) 滋賀の魚「ニゴイ」. 京都新聞: 2004 年 10 月 12 日.
- 孝橋賢一 (2004) 湖国の魚「イサザ」. あいあい AI 滋賀, 朝日新聞社: 2004 年 11 月 17 日.
- 孝橋賢一 (2004) 滋賀の魚「ウナギ」. 京都新聞: 2004 年 11 月 30 日.
- 孝橋賢一 (2004) 滋賀の魚「ニゴロブナ」. 京都新聞: 2005 年 1 月 4 日.

【これまでの業績集に掲載されていない著作】

- 西森克浩・孝橋賢一 (2001) 西の湖における水草繁茂水域の底層の溶存酸素. 平成 12 年度滋賀県水産試験場事業報告, 滋賀県水産試験場: 24-25.
- 上野世司・孝橋賢一 (2001) 水田を模した実験池におけるニゴロブナの産卵行動. 平成 12 年度滋賀県水産試験場事業報告, 滋賀県水産試験場: 28-29.
- 孝橋賢一・井嶋重尾・津村祐司・二宮浩司・山本充孝・里井晋一 (2001) 平成 12 年度琵琶湖定点定期観測結果概要. 平成 12 年度滋賀県水産試験場事業報告, 滋賀県水産試験場: 148-149.
- 孝橋賢一・井嶋重尾 (2001) アユ産卵保護水面指定河川の水質. 平成 12 年度滋賀県水産試験場事業報告, 滋賀県水産試験場: 150-151.
- 孝橋賢一・井嶋重尾 (2001) フナ・モロコを対象とした保護水面指定水域湖岸の水質. 平成 12 年度滋賀県水産試験場事業報告, 滋賀県水産試験場: 152-153.
- 孝橋賢一・西森克浩 (2001) 県内の主要な真珠養殖漁場における水質調査結果について. 平成 12 年度滋賀県水産試験場事業報告, 滋賀県水産試験場: 154-155.
- 孝橋賢一・井嶋重尾 (2001) 広域増殖場などにおける植栽ヨシの生育状況. 平成 12 年度滋賀県水産試験場事業報告, 滋賀県水産試験場: 160-161.
- 孝橋賢一・井嶋重尾 (2001) 赤野井湾漁場の水質・底質モニタリング調査. 平成 12 年度滋賀県水産試験場事業報告, 滋賀県水産試験場: 162-163.
- 孝橋賢一・井嶋重尾・津村祐司・二宮浩司・山本充孝・里井晋一 (2001) 平成 12 年度秋季の渇水時に観察された現象と平成 6 年渇水時の相違. 平成 12 年度滋賀県水産試験場事業報告, 滋賀県水産試験場: 167-168.
- 遠藤 誠・太田滋規・金辻宏明・三枝 仁・孝橋賢一 (2001) 渇水がニゴロブナの成育に及ぼした影響. 平成 12 年度滋賀県水産試験場事業報告, 滋賀県水産試験場: 167-168.
- 上野世司・孝橋賢一・大谷博実・中川淳也・黒橋典夫・田附雅広・端 憲二 (2002) 水田の水質、餌料環境の特性. 平成 13 年度滋賀県水産試験場事業報告, 滋賀県水産試験場: 94-95.

- 孝橋賢一・山中 治 (2002) 近年、琵琶湖で増加したエリ付着物について. 平成 13 年度滋賀県水産試験場事業報告, 滋賀県水産試験場: 138-139.
- 孝橋賢一・山中 治 (2002) 湖中砂利採取事業に伴う濁水の拡散状況について. 平成 13 年度滋賀県水産試験場事業報告, 滋賀県水産試験場: 140-141.
- 孝橋賢一・山中 治・井嶋重尾・鈴木隆夫・太田滋規 (2002) 産卵繁殖場の湖水を用いたホンモロコいのふ化率およびふ化後の生残について. 平成 13 年度滋賀県水産試験場事業報告, 滋賀県水産試験場: 142-143.
- 孝橋賢一・山中 治 (2002) 水田の代掻き時期における宇曾川河口部での濁水状況. 平成 13 年度滋賀県水産試験場事業報告, 滋賀県水産試験場: 144-145.
- 孝橋賢一 (2002) アユの産卵保護水面指定河川の水質. 平成 13 年度滋賀県水産試験場事業報告, 滋賀県水産試験場: 145-146.
- 孝橋賢一・津村祐司 (2002) フナ・モロコを対象とした保護水面指定水域湖岸の水質. 平成 13 年度滋賀県水産試験場事業報告, 滋賀県水産試験場: 147-148.
- 孝橋賢一・津村祐司 (2002) 赤野井湾漁場の水質・底質モニタリング調査. 平成 13 年度滋賀県水産試験場事業報告, 滋賀県水産試験場: 150-151.
- 孝橋賢一・西森克浩 (2002) 県内の主要な真珠養殖漁場における水質調査結果について. 平成 13 年度滋賀県水産試験場事業報告, 滋賀県水産試験場: 152-153.
- 西森克浩・孝橋賢一・幡野真隆・氏家宗二・山中 治 (2003) 真珠母貝成貝の成長量とクロロフィル a 量. 平成 14 年度滋賀県水産試験場事業報告, 滋賀県水産試験場: 42-43.
- 西森克浩・孝橋賢一・幡野真隆 (2003) 西の湖の水草現存量の推移. 平成 14 年度滋賀県水産試験場事業報告, 滋賀県水産試験場: 48-49.
- 上野世司・孝橋賢一・幡野真隆・田中茂穂・田附雅広・河瀬 均・黒橋典夫・端 憲二 (2003) 「水田魚道排水柵」試作とその機能確認 (IV) -濁水軽減機能-. 平成 14 年度滋賀県水産試験場事業報告, 滋賀県水産試験場: 86-87.
- 上野世司・孝橋賢一 (2003) 実験池におけるニゴロブナの産卵場所選択抑制. 平成 14 年度滋賀県水産試験場事業報告, 滋賀県水産試験場: 88-89.
- 上野世司・孝橋賢一・幡野真隆・吉澤 清・中川淳也・田附雅広・田中茂穂・端 憲二 (2003) 水田の水質測定結果. 平成 14 年度滋賀県水産試験場事業報告, 滋賀県水産試験場: 98-99.
- 上野世司・孝橋賢一・幡野真隆・野田健志・中嶋貞徳 (2003) 近江八幡市「田んぼの学校」におけるニゴロブナ繁殖状況. 平成 14 年度滋賀県水産試験場事業報告, 滋賀県水産試験場: 108-109.
- 孝橋賢一・幡野真隆・太田豊三 (2003) 北湖のエリ網汚損に対する新規防汚網の検討. 平成 14 年度滋賀県水産試験場事業報告, 滋賀県水産試験場: 268-269.
- 孝橋賢一・幡野真隆・太田豊三 (2003) 近年、琵琶湖で増加したエリ網の付着物について-2. 平成 14 年度滋賀県水産試験場事業報告, 滋賀県水産試験場: 272-273.
- 孝橋賢一 (2003) 彦根沖に設置した模擬エリ網における付着生物優占種の遷移について. 平成 14 年度滋賀県水産試験場事業報告, 滋賀県水産試験場: 270-272.
- 孝橋賢一・幡野真隆 (2003) 平成 14 年 7 月に沖島南東部に設置した刺網の汚損状況について. 平成 14 年度滋賀県水産試験場事業報告, 滋賀県水産試験場: 274-275.
- 孝橋賢一・幡野真隆・太田豊三 (2003) 平成 14 年 6 月下旬に彦根市沖で観察されたペリニディウム属赤潮の急性毒性試験について. 平成 14 年度滋賀県水産試験場事業報告, 滋賀県水産試験場: 276-277.
- 孝橋賢一・幡野真隆・太田豊三 (2003) 7 月に各漁具で漁獲された魚貝類からのジェオスミン分析について. 平成 14 年度滋賀県水産試験場事業報告, 滋賀県水産試験場: 278-279.
- 幡野真隆・孝橋賢一 (2003) 代掻き濁水時期の湖岸水が植物プランクトンの増殖に及ぼす影響. 平成 14 年度滋賀県水産試験場事業報告, 滋賀県水産試験場: 280-281.
- 幡野真隆・孝橋賢一 (2003) エリ付着物から得られた糸状藍藻について. 平成 14 年度滋賀県水産試験場事業報告,

滋賀県水産試験場：282-283.

幡野真隆・孝橋賢一・山本充孝・金辻宏明・遠藤 誠・二宮浩司・太田豊三（2003）平成 14 年度琵琶湖定点定期観測結果概要. 平成 14 年度滋賀県水産試験場事業報告, 滋賀県水産試験場：282-283.

遠藤誠・孝橋賢一・高橋 誓・岩崎治臣（2001）アユ冷水病に対する加温処理の予防効果 I. 滋賀県水産試験場研究報告, 48, 滋賀県水産試験場：1-4.

田中秀具・片岡佳孝・澤田宣雄・酒井明久・井出充彦・孝橋賢一（2002）琵琶湖における仔稚魚の成長と発育. 滋賀県水産試験場研究報告, 49, 滋賀県水産試験場：17-29.

孝橋賢一・片岡佳孝・田中秀具・澤田宣雄・酒井明久（2002）コアユ資源予測調査（平成 11 年度）. 滋賀県水産試験場研究報告, 49, 滋賀県水産試験場：185-198.

孝橋賢一・井嶋重尾・津村祐司・二宮浩司・山本充孝・里井晋一（2003）琵琶湖定点定期観測（平成 12 年度）. 滋賀県水産試験場研究報告, 50, 滋賀県水産試験場：65-101.

上野世司・孝橋賢一（2003）水田を模した実験池におけるニゴロブナの産卵行動と産卵場所選択制魚類. 自然史研究会会報ボテジャコ, 7, 魚類自然史研究会：25-34

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

孝橋賢一（2004 年 12 月 17 日）漁場環境の視点からみた琵琶湖の異変現象～とくに北湖でみられるエリ網の汚損について～. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【インターネットページでの公表】

孝橋賢一（2002 年 10 月 30 日）農業濁水の漁場環境への影響. <http://www.ses.usp.ac.jp/dakuken/kiroku.htm>, 農業濁水問題研究会.

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館共同研究「内湖- 水田間の水辺ネットワーク構築による在来魚復活に関する研究」（研究代表者：前畑政善），研究分担者（2003～2008 年度）.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー, 琵琶湖博物館, 10 件.

2004 年 8 月 5 日, 琵琶湖を船で体験, 観察会, 琵琶湖上, 副担当（芳賀裕樹・楠岡 泰と共同）.

2004 年 11 月 3 日, ビワマスの採卵現場を見学してみませんか, 観察会, マキノ町知内, 副担当（桑原雅之と共同）.

2005 年 3 月 6 日, 水族展示の舞台裏, 見学会, 琵琶湖博物館, 主担当（前畑政善・秋山廣光・松田征也・桑原雅之と共同）.

他の博物館・機関等主催行事

2004 年 8 月 23 日, 滋賀県理容生活衛生協同組合, チョキちゃん環境フェスティバル, 草津市下物（草津市）, 講師.

2004 年 9 月 25 日, 外来魚と琵琶湖の生態系, 滋賀県湖南地域振興局, 水環境クリーンウォーク（魚釣りコース）, 烏丸半島湖岸緑地（草津市）, 講師.

2004 年 10 月 17 日, 博物館実習, 近畿大学農学部, 琵琶湖博物館, 講師.

メディアへの協力

2004年8月25日、読売テレビ、琵琶湖で漁獲されたスポットドインディアンナイフについて、取材協力、(2004年8月25日取材).

電通テック、関西広報センター 関西DVD、取材協力 (2004年12月9日取材).

2005年3月16日、あいあいAI 滋賀、水族展示の舞台裏、取材協力 (2005年3月6日取材).

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー、講演、3回.

【企画調整活動】

もよおしもの案内 (たいけんはっけん) チラシおよびカレンダー、編集、印刷委託業務主担当、2件.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2004年度、うみんど編集委員.

森林伐採の研究を通じて、人間の森林に対する管理、働きかけが、森林の物質循環や水質調節機能にどのような影響を及ぼすか、森林土壌や水、及び、下流域の琵琶湖に与える影響を明らかにすることを目的として研究を行っている。

これまで、対照流域法により、伐採前から伐採流域と、対照としての森林流域の水文観測を通じて、数年間にわたり普段の水と大雨の水の観測を続けてきた。月別、大雨時にサンプリングした降水、土壌浸透水、渓流水について、硝酸以外の他のイオン、主要成分についても分析を進め、その組成についての検討を行った。その結果、伐採前には伐採流域、森林流域共に組成が非常に類似しているのに対し、伐採後は、特に大雨時に組成が急変すること、伐採前には流出の少なかった富栄養化物質である硝酸イオンが、大雨時には伐採流域にのみ高濃度に流出することを明らかにした。森林伐採（皆伐）により表層土壌の吸着塩基が溶脱を起し、伐採1年後、斜面平均で約7割に減少すること。また、斜面の上部、中部、下部という斜面位置の異なる土壌浸透水の解析から、硝酸が斜面中、下部でより多く形成され、それが台風などの大雨流出の際、高濃度に流出すること（渓流水最高濃度 10.54mg/l）。量として、この台風一雨で約10kg/haの硝酸が伐採地に流出し、森林流域の流出量0.26kg/haの約40倍になることを明らかにし、斜面下部の保全の重要性を指摘したことなどである。

さらに、降水量、水位（流量）の水文データを入手し、水質と積算して得られる流出量についても検討を行っている。

専門研究では、混合による渓流水質の形成メカニズムを中心に、特に大雨流出時の水質の変化に焦点を当てて、研究を行った。それによると、大雨直接流出時の硝酸イオン濃度は、主に斜面中部及び下部の表層と下層の高濃度硝酸を含む土壌浸透水により、ピーク流出時に高い硝酸濃度が維持されていることを明らかにした。また、斜面上部は硝酸を発生しないことも明らかになった。このこととあわせ、斜面表層で硝酸が形成される環境条件について調べるために表層から下層の土壌水分量と温度について連続的なデータロガーによる観測を続けている。この要因究明は、応用的には、伐採しても硝酸化が起りにくい方法を見いだすために大変重要である。

人の森林管理の一形態としての伐採が森林の窒素循環を乱し、大量の富栄養化物質を流出する森林に変えてしまう結果となりつつあるが、どのような管理方法が下流や琵琶湖への負荷の少ない水環境保全的な森林につながるのか知見を得るために館外研究者との共同研究を進めている。具体的には、最も多く硝酸を発生する斜面下部を面的に切らずに残して、発生源とさせないと同時に、他所（より上部の斜面）からの流入分を吸収させる管理方法を提案した。その有効性の検討や、また、発生した硝酸を吸収できる草本の播種や、萌芽再生樹木を積極的に残して植生に吸収させる従来型の管理方法等の有効性を確かめることなどを目的として、10m×10mコドラートを単位とした小面積伐採実験を共同で計画、開始し、2002年7月から伐採前の土壌浸透水水質の測定、土壌水分、土壌温度などの環境条件データの収集を行っている。その影響の違いを評価するため、2003年度冬に伐採処理して継続測定している。

また、植物標本、資料の研究として、滋賀県で故橋本忠太郎氏が過去に採集された標本のデータベース再構築に2002年から着手し、現在までに公開業務の方々の協力で新たに維管束植物約2300点の素データ入力を行った。これには、主に大正時代から昭和初期にかけての人為的な影響が少ない時代の標本が含まれており、データ蓄積を進めている滋賀県の現在のフローラ（植物相）の解明に対応して、過去から現在への変化という視点で進めているものである。

また、2002年度から、モンゴル国フブスグル湖国立公園内において、近年多発している森林火災跡地の森林再生の緩慢さに驚き、長期コドラートを設置して定着実生の調査を継続している。その結果、ほぼ唯一の優占樹種シベリアカラマツの林が樹冠火災を受けた場合、十数年後でも、その実生による更新が非常に少ないことがわかってき

た。現地の気候的条件、森林構成種、更新の仕方、火災による環境変化、凍土の位置、放牧による影響等様々な要因を検討中である。2004年度は2003年度夏に設定した、実生初期定着についての実験のデータを取ることができた。その結果、実生定着に光の直射が最も影響していることが明らかとなった。

さらに、2004年4月～2005年3月まで、交流センター科のはしかけ主担当として、毎月のニューズレターの編集・発行を行い、研究的是しかけグループの活動支援を行った。

印刷物

【専門分野の著作】

草加伸吾（2005）第4章土壌浸透水の水質。籠谷泰行（編）、平成16年度琵琶湖研究所委託研究報告書、小面積実験区における森林管理の影響評価：8-14.

【一般向けの著作】

草加伸吾（2005）第23部会「琵琶湖博物館のはしかけを体験してみよう！！」。第13回全国ボランティアフェスティバルびわこ報告書、第13回全国ボランティアフェスティバル推進協議会・第13回全国ボランティアフェスティバルびわこ実行委員会、草津：71.

研究活動に関する業績

【学会・研究会で発表など】

草加伸吾（2004年6月18日）モンゴル北部（フブスグル湖集水域）における森林火災跡地の再生現況—なぜ再生が困難なのか？。琵琶湖博物館研究セミナー、琵琶湖博物館。

Kusaka, S., Hamabata, E., Nishioka, M., Kagotani, Y. and Kunimatsu, T. (2004年10月21～25日) Influence of forest clear-cutting on forest soil and soil water chemistry in the Lake Biwa watershed, Japan. The First EAFES International Congress, EAFES (East Asian Federation of Ecological Societies), Mokpo National University, (Mokpo, Korea), [口頭発表].

草加伸吾（2004年9月29日）伐採処理の変化がいつから土壌浸透水に現れるか。小面積実験区における森林管理の影響評価研究中間報告会、琵琶湖研究所（滋賀県大津市）。

草加伸吾（2005年2月10日）土壌浸透水の水質について。森林プロジェクト2004年度成果報告会（集水域研究会）、琵琶湖研究所（滋賀県大津市）。

草加伸吾（2005年2月19日）フブスグル湖集水域における山火事災害と森林再生条件の模索。滋賀県植物研究会総会、琵琶湖博物館（滋賀県草津市）。

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「植生と水質調節 降雨流出時の水質変化の組成解析」、研究代表者（2001年度～）。

びわ湖・フブスグル湖交流協会研究プロジェクト「モンゴル・フブスグル国立公園からの環境情報発信と環境教育支援」、研究分担者（2004年度）。

琵琶湖研究所委託研究「小面積実験区における森林管理の影響評価」、研究分担者（2004年度）。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス活動】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー，琵琶湖博物館C展示室，13件。

琵琶湖博物館はしかけ制度，主担当。

はしかけニューズレター編集・発行，12件。

はしかけ登録講座開催、運営・講師，3件。

琵琶湖博物館観察会・講座・体験教室計画，副担当。

2004年4月29日，春いっぱい朽木で見つけてふれあおう，観察会，滋賀県朽木村麻生、朝日の森、搦み谷周辺（朽木ふれあいの里ネイチャーセンターと共同開催）。

2004年8月4日，博物館実習，植物標本制作室・植物収蔵庫，講師，。

2005年3月6日，はしかけ活動発表会，琵琶湖博物館アトリウム，設営・運営。

他の博物館・機関等主催行事

2004年7月27・28日，琵琶湖探求「おいしい水をはぐくむ森林について」，滋賀県立石部高校，夏季集中講座，琵琶湖博物館，講義。

2004年9月25日，はしかけ活動紹介，第13回全国ボランティアフェスティバルびわこ，琵琶湖ホール（大津市），パネル製作とりまとめ・連絡業務。

2004年9月26日，第23部会「琵琶湖博物館のはしかけを体験してみよう！！」開催、第13回全国ボランティアフェスティバルびわこ，琵琶湖博物館会議室およびアトリウム，開催準備，打ち合わせ会議出席2回，はしかけグループ連絡，ポスター製作・設営・当日運営。

2004年10月29日，おいしい水をはぐくむ森林と琵琶湖との関係，（財）滋賀県緑化推進会，琵琶湖博物館，講師。

2004年11月20日，自然の恵みと滋賀の環境問題～おいしい水をはぐくむ森林と伐採実験からわかること～，滋賀県中小企業家同友会，琵琶湖博物館，講師。

2005年2月5日，森のはたらきについて知ろう！，志賀町水環境を守る生活推進協議会，琵琶湖博物館，講師。

2005年3月10日，琵琶湖博物館のはしかけさんとは，神戸市立須磨海浜水族園，ボランティア交流会，琵琶湖博物館，講師。

視察対応

2004年10月16日，「モンゴルの環境を考える」シンポジウム開催と視察対応，びわ湖フブスグル湖交流協会。

2004年12月8日，琵琶湖博物館のはしかけ制度について，ひめゆりの塔記念館。

2005年2月3日，はしかけ制度とボランティアについて，国指定宮畑遺跡保存記念館準備室。

2005年1月23日，琵琶湖博物館のはしかけ制度について，姫路市立美術館ボランティア。

2005年3月10日，視察対応，須磨水族館友の会。

メディアへの協力

2004年10月23日，Living 滋賀，琵琶湖博物館ではしかけさん活躍中，（2004年10月14日取材）。

2004年12月9日，関西国際広報委員会，滋賀の環境映像撮影出演および取材協力，琵琶湖博物館化学実験室。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

屋外展示植栽苗木由来調査。

植物標本資料収集整理（モンゴル国植物標本資料用30点）。

橋本忠太郎植物標本整理：2300点の維管束植物データベース入力整理，地形図の位置情報（緯度、経度）データの読み取り，入力指導。

植物収蔵庫維持管理副担当者。

実験温室，主担当，遮光カーテンの交換補修実施。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，6件．

展示交流員と話そう，内容指導．

平成16年度屋外展示植栽維持管理業務（武部 強と共同）．

屋外展示植栽木（高木、亜高木）ラベル調査実施．

【企画調整活動】

新任職員研修，C展示室解説，2004年4月20日．

新任職員研修，屋外展示について解説，2004年4月22日．

館内人事、館外活動等に関すること

【海外渡航】

2004年8月23日～9月4日，モンゴル，フブスグル湖集水域での山火事跡地再生調査、実生初期定着実験、蛾食害跡地視察、植物標本・年輪コア収集．

2004年10月19日～25日，大韓民国，第1回東アジア生態学連合大会出席，発表．

【館外の活動】

滋賀県森林センター，琵琶湖の水委員．

琵琶湖にはさまざまな繊毛虫（原生生物）が生息しているが、その生活史はおろか、存在すら報告されていない種が多い。そのうちのある種が餌の密度によって形態が変化することを以前みつけた。本年度はこの種の摂餌行動の解析を行った。

2004年12月から2005年4月までギャラリー展「ミクロの世界を探検しようープランクトンの不思議ー」を開催した。これまで、撮りためた写真や研究成果をもとに、プランクトンの多様性や分類、不思議な生活史について展示した。これまでにない切り口として、プランクトンの形と妖怪の形の類似性をとおしてプランクトンの形を印象的に紹介した。また、県内外の学校や研究機関の協力を得て、小学生から大学、研究機関のプランクトンに関する研究を展示した。

昨年原生動物の章を執筆した「やさしい日本の淡水プランクトン図解ハンドブック」（合同出版）の編集作業に関わり、この本は2005年2月に出版された。これまで、子ども向けのプランクトン図鑑は日本には無く、専門家用の図鑑を参考にしなければならなかった。この図鑑は全編カラー写真およびイラストから構成され、表現もやさしくし、小学校高学年でも利用可能なものにした。

印刷物

【専門分野の著作】

一瀬 諭・若林徹哉・森田 尚・楠岡 泰・西野麻知子(2004)琵琶湖固有種ビワツボカムリ (*Diffflugia biwae* Kawamura, 1918) の分布と消長について. 滋賀県立衛生環境センター所報, 39, 滋賀県立衛生環境センター: 57-63.

【一般向けの著作】

楠岡 泰・大塚泰介・孝橋賢一 (2004) プランクトンの世界によろこせ!! . うみっこ, 16, 琵琶湖博物館: 2-3.
大塚泰介・大川 聡・楠岡 泰 (2004) 琵琶湖博物館ギャラリー展示「ミクロの世界を探検しようープランクトンの不思議ー」. パンフレット, 琵琶湖博物館: 8p.

楠岡 泰・谷口雅之・竹村元嗣・田中玄伯・中澤 浩 (2005) 原生動物のなかま. 滋賀の理科教材研究委員会 (編), やさしい日本の淡水プランクトン図解ハンドブック, 合同出版株式会社, 東京: 66-97.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

Grygier, M. and Kusuoka, Y. (2004年8月19) Distribution of clam shrimps in Japan. based on new surveys and literature. V. International Large Branchiopod Symposium. The University of Western Australia, Toodyay, Western Australia, Australia, [Poster].

楠岡 泰 (2004年9月17日) 圃場整備が大型鰓脚類に与える影響について. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2004年6月24日・7月1日, 龍谷大学理工学部1年, プランクトンの観察実習, 2件.

2004年9月10日, JICA and ILEC Environmental education course focused on aquatic environments. Environmental education: a case study in the Lake Biwa Museum.

2005年3月1日, JICA and ILEC Group training course in lake water quality management, Basic methods in Limnology (practical course on Lake Biwa) .

2005年3月1日, JICA and ILEC Group training course in lake water quality management, Plankton observation methods.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー, 琵琶湖博物館, 10件.

2004年度, フィールドレポーター, 主担当.

2004年度, 質問コーナー, 主担当.

2004年9月27日, JICA 博物館集中コース. 琵琶湖博物館の基本理念.

2004年10月6日, JICA 博物館集中コース. 琵琶湖博物館の展示ができるまで.

2004年10月13日, JICA 博物館集中コース. 伯母川博物館をつくるまで.

2004年11月15日, JICA 博物館集中コース. 体験学習プログラム「琵琶湖の外来魚を食べよう」.

2004年11月15日, JICA 博物館集中コース. はしかけとは、体験学習の日はしかけグループとの交流.

2004年11月16日, JICA 博物館集中コース. 伯母川博物館の見学および小学生との交流.

2004年11月17日, JICA 博物館集中コース. 体験学習プログラム「プランクトンの観察」.

2004年11月17日, JICA 博物館集中コース. プランクトンの模型を作ろう.

2004年11月18日, JICA 博物館集中コース. MIHO ミュージアムおよび信楽陶芸の森見学.

はしかけ: 田んぼの生き物調査グループ, 2004年4月10日~2月12日, 田んぼの生き物調査研修等, 主担当 (マーク グライガー・はしかけ共同), 4件.

はしかけ: 里山の会, 2004年4月17日~11月7日, 里山体験教室下見等, 蒲生郡日野町, 副担当 (金子修一・はしかけ共同), 4件.

2004年4月25日~12月4日, 里山の山菜など, 里山体験教室, 蒲生郡日野町, 副担当 (金子修一・布谷知夫・はしかけ共同). 3件.

2004年6月6日, 田んぼの生き物観察, 田んぼ体験教室, 琵琶湖博物館園場, 副担当 (杉谷博隆共同).

2004年8月5日, 「びわ湖を船で体験」, 観察会, 環境セミナー船「みずすまし」, 副担当 (芳賀裕樹・孝橋賢一と共同).

2004年8月28日, 体験学習の日プログラム, ペットボトルの顕微鏡でプランクトンを観察しよう, 琵琶湖博物館, 主担当 (谷口雅之・青木伸子・体験学習の日はしかけと共同).

2004年9月26日, フィールドレポーター活動紹介, ボランティアフェスティバル, 琵琶湖博物館, フィールドレポーター担当 (草加伸吾・他共同).

2004年10月17日, プランクトン一斉調査, プランクトンギャラリー展関連イベント, 琵琶湖博物館, 主担当 (大塚泰介・谷口雅之・一瀬 諭他共同).

2004年10月30日, フィールドレポーター交流会, フィールドレポーター活動, 今津町日置前, フィールドレポーター担当 (フィールドレポーター主催).

2004年11月13日, 秋の里山探検, 観察会, 大津市仰木, 主担当 (布谷知夫・大川 聡・カワセミ自然の会共同).

2004年11月21日・1月23日・2月19日・3月5日, プランクトンの模型をつくろう, プランクトンギャラリー展関連イベント, 琵琶湖博物館, 主担当 (谷口雅之・大塚泰介・青木伸子・体験学習はしかけ共同), 4件.

2005年2月26日, 第5回パワフル交流市民21参加, フィールドレポーター活動, 草津まちづくりセンター, フィ

ールドレポーター担当（青木伸子・牧野厚史・フィールドレポーター共同）。

他の博物館・機関等主催行事

- 2004年4月27日、水の中の世界、吹田市立豊津第二小学校、琵琶湖博物館、講師。
- 2004年5月16日・11月23日、プランクトン同定等、子どもエコクラブ伯母Q五郎、志津公民館、滋賀県草津市、講師、2件。
- 2004年6月2日、プランクトンの観察、県立河瀬中学校2年、体験学習、琵琶湖博物館、講師。
- 2004年6月30日、Toyota International Teacher Program, Environment education in the Lake Biwa Museum.
- 2004年7月13日、プランクトンの観察、彦根東高等学校、体験学習、琵琶湖博物館、講師、2件。
- 2004年7月21日、プランクトンの観察、石部高校、体験学習、琵琶湖博物館、講師。
- 2004年7月29日、プランクトンの観察、ILEC、こども環境教室、琵琶湖博物館、講師。
- 2004年8月4日、プランクトンおよび付着生物微小生物の観察、中学校理科部会、自然調査ゼミナール、琵琶湖博物館、講師。
- 2004年8月29日、比良の里山生き物観察会、比良里山クラブ、南比良、滋賀県志賀町、講師。
- 2004年9月25日、川の生き物の観察、JICA、JICA研修、伯母川、草津市、講師。
- 2004年10月1日、湖上調査、東大津高校、琵琶湖学習、環境学習船みずすまし、琵琶湖、講師。
- 2004年10月1日、プランクトンの観察、東大津高校、琵琶湖学習、琵琶湖博物館、琵琶湖、講師。
- 2004年10月19日、プランクトンの観察、岐山高等学校、琵琶湖博物館、講師。
- 2004年10月22日、プランクトンの観察、福井県 藤島高等学校1年SSH、琵琶湖博物館、講師。
- 2004年10月27日、プランクトンの観察、安曇川中学校1年、琵琶湖博物館、講師。
- 2004年10月28日、川の生き物観察、志津小学校、伯母川、草津市、講師。
- 2004年11月25日、プランクトンの観察、米原高等学校1年、琵琶湖博物館、講師。
- 2005年2月8日、プランクトンの観察、県立守山中学校2年、琵琶湖博物館、講師、2件。
- 2005年2月10日、プランクトンの観察、志賀中学校1年、琵琶湖博物館、講師、2件。
- 2005年2月15日、プランクトンの観察、滋賀大学付属小、琵琶湖博物館、講師。
- 2005年2月16日、プランクトンの観察、おおつ環境フォーラム、琵琶湖博物館、講師。
- 2005年2月17日、原生動物の観察法、県高校理科教育研究会生物部会、琵琶湖博物館、講師。

視察対応

- 2004年6月30日、Environment education in museums. Toyota International Teacher Program, 琵琶湖博物館。
- 2004年9月4日、フィールドレポーターおよびはしかけについて、アクアマリンふくしまのボランティア、琵琶湖博物館。
- 2004年11月19日、琵琶湖博物館および展示の概略紹介、「環境とエネルギーを考える講演会」参加外国人（琵琶湖研究所主催）、琵琶湖博物館。
- 2005年2月1日、琵琶湖博物館の概略説明および展示案内、Korea Maritime Institute, 琵琶湖博物館。
- 2005年2月4日、琵琶湖博物館および展示の概略紹介、リオ・グランデ・ド・スール州友好代表団、琵琶湖博物館。
- 2005年3月30日、プランクトンギャラリー展および常設展の案内、Tahoe Research Group, University of California, 琵琶湖博物館。

メディアへの協力

- 2004年11月29日、NHK、魚が家を訪ねる里・琵琶湖畔 ふるさとの水辺、顕微鏡撮影の協力および映像提供、（2003年6月取材）。
- 2004年12月23日、びわ湖放送、ローカルニュース、プランクトンのギャラリー展について解説、（2004年12月23日取材）。

2004年12月24日,産経新聞,写真や顕微鏡で観察琵琶湖博物館,プランクトンのギャラリー展について解説,(2004年12月23日取材).

2004年12月26日,京都新聞,ミクロの世界を探求しよう,プランクトンのギャラリー展について解説,(2004年12月23日取材).

2005年1月17日,中日新聞,プランクトンの世界探検,プランクトンのギャラリー展について解説,(2005年1月6日取材).

2005年1月29日,読売新聞滋賀県民情報,琵琶湖博物館でミクロの世界を探検!,プランクトンのギャラリー展について解説,(2005年1月14日取材).

2005年2月10日,NHK 大津,ローカルニュース,プランクトンのギャラリー展について解説・出演,(2005年2月5日取材).

2005年2月16日,NHK 大津プランクトンのギャラリー展について解説,(2005年2月15日取材).

2005年5月,読売ライフ,プランクトンに魅せられて,プランクトンのギャラリー展について解説,(2005年3月3日取材).

2005年,Yale University,Conversations with Native Speakers,出演および琵琶湖博物館での撮影のコーディネーター,(2004年5月31日取材).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

微小無脊椎動物標本,指導,3,920件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2004年12月23日~2005年4月10日,琵琶湖博物館ギャラリー展示「ミクロの世界を探検しようープランクトンの不思議ー」,主担当.

2004年7月26日,プランクトンギャラリー展示協力教員へのプランクトン観察法の研修,研修担当.

2004年,常設展示:生き物コレクションプランクトンコーナー,維持管理、展示更新.

2004年,常設展示:ミクロの世界,維持管理.

2004年,常設展示:どぶ川の生き物たち,維持管理.

モーニングレクチャー,講演,6回.

【企画調整活動】

JICA 博物館学集中コースの受け入れ,副担当,2004年9月~11月,琵琶湖博物館.

【研究部関連事業】

研究交流,主担当,2004年,琵琶湖博物館.

試験研究機関連絡会議本会議,主担当,2005年2月16日,琵琶湖博物館.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2004年度,JICA 博物館学集中コース運営委員会,運営委員.

【館外の活動】

2004年度,国立民族学博物館,外来研究員.

2004年度も主な研究対象は外来生物であった。2000年に琵琶湖に生息するオオクチバスにこれまで確認されていなかった亜種・フロリダバスの遺伝子が検出されて以来、湖内複数箇所でも得られたオオクチバスの試料を冷凍保存していたが、それを用いて2004年6月に香川県在住の横川浩治氏、滋賀県立大学大学院生の藤田建太郎氏と共同で、高知大学農学部との協力を得て、アイソザイム分析を行った。その結果、琵琶湖のオオクチバス個体群に、大規模にフロリダバス遺伝子が浸透していることを明らかにした。この成果は9月の日本魚類学会大会で報告し、英文の論文として「水産増殖」に受理されている。

滋賀県立大学大学院生4名と共同のオオクチバスとブルーギルを対象とした現地調査も、琵琶湖北端部（西浅井町菅浦）で続した。その成果は、日本魚類学会大会や魚類自然史研究会で発表され、ブルーギルに関する論文は現在「魚類学雑誌」に投稿中である。また、大学院生2名の修士論文としてもまとめられた。

マキノ町（現、高島市）の2つの内湖での水辺エコトーン共同研究に関しては、外来魚の生態に関する予備的調査に携わり、2つの内湖における外来魚2種の繁殖活動が現認あるいは示唆された。

2004年5月から7月にかけて、湖南地域事務所の農業関係部局からの依頼で、循環灌漑が予定されている中主町（現、野洲市）の江口川流域で、スクミリンゴガイの生息状況調査を行った。本種の生息状況と生態的特性、および揚水機場のポンプの形状等から判断して、循環灌漑の導水による本種の拡大を防ぐことがきわめて難しいとの答申を行い、2005年3月、事業者側の最終判断として、この流域における循環灌漑は見送られることとなった。

外来生物問題に関する対応のうえで、大きな転機となる「外来生物法」が2004年6月2日に交付された。この法律の2005年度の施行に向けて、管理対象とすべき「特定外来生物」の選定作業が始まり、そのなかで「オオクチバス」および「昆虫以外の無脊椎動物」の専門家として、特定外来生物の選定の是非を検討する作業に、2004年10月から2005年1月にかけて参加した。

外来生物問題に関する一般向け講演・シンポジウムや漁業者向けの研修会・研究会等においても、企画や講師として関わったほか、全国各地の博物館・水族館における外来生物に関する企画展示を視察し、今後の普及・啓発のあり方に関して意見・情報交換も行った。

印刷物

【専門分野の著作】

中井克樹（2004）いま、生きものとのつきあいを考える。京都府生物教育会誌, (40) : 36-41.

中井克樹（2004）基調講演「ブラックバス問題：対立する論点と駆除における課題」。全国湖沼河川養殖研究会第77回大会要録, 岩手県, 盛岡 : 13-32.

【一般向けの著作】

中井克樹（2004）琵琶湖の魚「イサザ」。京都新聞 : 2004年4月13日.

中井克樹（2004）琵琶湖の魚「ゼゼラ」。京都新聞 : 2004年6月8日.

中井克樹（2004）琵琶湖の魚「ハス」。京都新聞 : 2004年7月13日.

中井克樹（2004）琵琶湖の魚「ソウギョ」。京都新聞 : 2004年8月3日.

中井克樹（2004）琵琶湖の魚「ジルティラピア」。京都新聞 : 2004年8月31日.

中井克樹（2004）琵琶湖の魚「カネヒラ」。京都新聞 : 2004年10月19日.

中井克樹（2004）琵琶湖の魚「ムギツク」。京都新聞 : 2004年12月7日.

- 中井克樹 (2004) 湖国の魚「オオクチバス (サンフィッシュ科)」。あゝあゝAI 滋賀, 朝日新聞社: 2004 年 12 月 8 日。
- 中井克樹 (2004) 琵琶湖の魚「ビワヨシノボリ」。京都新聞: 2004 年 12 月 28 日。
- 中井克樹 (2004) あとがき。飛騨インタープリターアカデミー (編), 飛騨で見られる野草 200 種+50, (有) 地域自然科学研究所, 高山: 129。
- 中井克樹 (2005) 外来魚駆除の心構え。琵琶湖を戻す会 (編), 第四回琵琶湖外来魚シンポジウム「完全駆除へのシナリオ」, 琵琶湖を戻す会, 大阪: 3-4。
- 中井克樹 (2005) 琵琶湖の魚「コクチバス」。京都新聞: 2005 年 2 月 8 日。
- 中井克樹 (2005) 論点: ブラックバス規制を考える「在来種に影響は明白」。毎日新聞: 2005 年 2 月 21 日。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 工藤 智・田口 哲・中井克樹 (2004 年 4 月 2 日) 北海道余市ダム湖で越冬できなかったオオクチバス稚魚。平成 16 年度日本水産学会大会, 鹿児島大学 (鹿児島県鹿児島市), [ポスター発表]。
- 中井克樹 (2004 年 4 月 29 日) オオクチバス・ブルーギル対策に関する意見。シンポジウム「深泥池における外来動植物の影響と市民参加による駆除対策」, 深泥池外来生物影響・対策研究会、深泥池ねっとわーく, 京都大学 (京都府京都市), [コメンテーター]。
- 中井克樹 (2004 年 7 月 17 日) 琵琶湖の変化と外来魚- 魚をめぐる常識の対立。公開講演会「動物とヒト、ヒトと動物- 動物とヒトとの関係を考える- 」, 日本動物学会関東支部, 早稲田大学国際会議場 (東京都新宿区), [講演]。
- Nakai, K. (2004 年 8 月 29 日) Positive screening for successful invasions involved in aquatic introductions: A case of Japanese freshwater fishes. International Conference on Assessment and Control of Biological Invasion Risks, Yokohama National University, 21st Century of COE Program Environmental Risk Management for Bio/Eco-System, Biodiversity Network Japan, 横浜国立大学 (神奈川県横浜市), [口頭発表]。
- Iwasaki, K. and Nakai, K. (2004 年 8 月 29 日) Introduction to the session. International Conference on Assessment and Control of Biological Invasion Risks, Yokohama National University, 21st Century of COE Program Environmental Risk Management for Bio/Eco-System, Biodiversity Network Japan, 横浜国立大学 (神奈川県横浜市), [口頭発表]。
- Iwasaki, K. and Nakai, K. (2004 年 8 月 29 日) Thematic Oral Session: Invasion, range expansion, and risk assessment in aquatic systems, International Conference on Assessment and Control of Biological Invasion Risks, Yokohama National University, 21st Century of COE Program Environmental Risk Management for Bio/Eco-System, Biodiversity Network Japan, 横浜国立大学 (神奈川県横浜市), [Chairpersons]。
- 中井克樹 (2004 年 9 月 2 日) ブラックバス問題: 対立する論点と駆除における課題。全国湖沼河川養殖研究会第 77 回大会シンポジウム「水産生物の生息環境保全と 21 世紀の内水面: ブラックバス等対策の現状と今後の方向」, ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング (岩手県盛岡市), [基調講演]。
- 高場 稔・渡辺健一・白石 学・中井克樹・片野 修・杉山秀樹・原田泰志・森川由隆・水野聡子 (2004 年 9 月 2 日) 全国湖沼河川養殖研究会第 77 回大会シンポジウム「水産生物の生息環境保全と 21 世紀の内水面: ブラックバス等対策の現状と今後の方向」, ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング (岩手県盛岡市), [研究討議 (パネリスト)]。
- 中井克樹 (2004 年 9 月 17 日) 琵琶湖生態系の現状と保全- 魚類群集を中心に-。平成 16 年度技術セミナー, 滋賀県環境アセスメント協会, ピアザ淡海 (滋賀県大津市), [依頼講演]。
- 横川浩治・中井克樹・藤田建太郎 (2004 年 9 月 26 日) 近年の琵琶湖におけるフロリダバスの大規模な侵入。2004

- 年度日本魚類学会年会，琉球大学（沖縄県西原町），[口頭発表].
- 森下 圭・藤田建太郎・中井克樹・沢田裕一（2004年9月25～26日）オオクチバスの産卵生態. 2004年度日本魚類学会年会，琉球大学（沖縄県西原町），[ポスター発表].
- 川端健人・中尾博行・中井克樹・沢田裕一（2004年9月25～26日）ブルーギルの繁殖成功率に関する要因. 2004年度日本魚類学会年会，琉球大学（沖縄県西原町），[ポスター発表].
- 中井克樹（2004年10月15日）外来生物問題、最近の話題. 琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表].
- 中井克樹（2004年10月17日）貝好きも気楽でいられない？ 希少種と外来種の現状. 阪神貝類談話会2004年10月例会，西宮貝類館（兵庫県西宮市），[口頭発表].
- 中井克樹（2004年10月24日）養殖個体を自然水域に戻すことは許されるか（遺伝的問題と放流先の環境に注目して）. ゼニタナゴシンポジウム～霞ヶ浦のゼニタナゴの保護はどうすべきか？，霞ヶ浦市民協会，土浦市亀城プラザ文化ホール（茨城県土浦市），[依頼講演].
- 中井克樹（2004年10月31日）滋賀県の野生動植物の現況について：貝類. 滋賀の生物多様性を考えるフォーラム. 滋賀県・琵琶湖博物館，琵琶湖博物館，[依頼発表].
- 中井克樹（2004年11月11日）ブラックバス擁護論の問題点. 平成16年度水産環境保護研修会「外来魚問題の現状と今後の展望」，全国内水面漁業協同組合連合会，アイリス愛知（愛知県名古屋市中区），[依頼講演].
- 中井克樹（2004年11月13日）外来生物法と外来魚. 第32回魚類自然史研究会，苫田温泉乃利武（岡山県岡山市），[口頭発表].
- 川端健人・中尾博行・中井克樹・沢田裕一（2004年11月13日）ブルーギルの繁殖成功率に関する要因～特に、コロニー内の産卵床形成位置との関係について～. 第32回魚類自然史研究会，苫田温泉乃利武（岡山県岡山市），[口頭発表].
- 森下 圭・藤田建太郎・中井克樹・沢田裕一（2004年11月13日）オオクチバスの産卵生態～1産卵床あたりの産卵数に関する要因～. 第32回魚類自然史研究会，苫田温泉乃利武（岡山県岡山市），[口頭発表].
- 前畑政善・金尾滋史・中井克樹・澤田裕一（2004年11月13日）コイ科魚類繁殖期における琵琶湖内湖の魚類組成（予報）. 第32回魚類自然史研究会，苫田温泉乃利武（岡山県岡山市），[口頭発表].
- 中井克樹（2004年11月20日）各地で起こる外来生物問題・・・その中でのブラックバス問題の特異性. 「シナイモツゴ郷の会」NPO法人設立記念シンポジウム「生態系保全とブラックバス対策」，シナイモツゴ郷の会，鎌田記念ホール（宮城県鹿島台町），[依頼講演].
- 中井克樹（2004年12月18日）セッション1「生態系の価値と社会をめぐる対話」へのコメント. JST異分野研究者交流促進事業フォーラム「生態学と経済学の融合：人間活動と生態系のより包括的な把握をめざして」，独立行政法人 科学技術振興機構，ホテルラフォーレ琵琶湖（滋賀県守山市），[討論者].
- 中井克樹（2005年1月31日）琵琶湖におけるフロリダバスの侵入と外来生物法の動向. 外来魚研究会，平成16年度研究報告会，（独）水産総合研究センター中央水産研究所上田庁舎（長野県上田市），[口頭発表].
- 中井克樹（2005年3月11日）琵琶湖の外来魚の実態と危機管理（改め、琵琶湖の魚類群集の現状と保全）. 霞ヶ浦外来種勉強会，国土交通省霞ヶ浦河川事務所，国土交通省霞ヶ浦河川事務所（茨城県潮来市），[講師].
- 中井克樹・細谷和海（2005年3月20日）外来生物法で特定外来生物に指定された魚類～オオクチバス騒動をめぐる顛末～. 第40回魚類自然史研究会，京都大学北部生協「ほくと」（京都府京都市），[口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館共同研究「内湖エコトーン」（研究代表者：前畑政善），研究副代表者（2003年度～）.
- 平成16年度開始地球環境研究総合推進費課題「F-3 侵入種生態リスク評価研究プロジェクト」（研究代表者：五箇公一），研究参画者（2004年度～）.
- 2004年度WWFジャパン自然保護助成「魚のゆりかごマップ調査」（研究代表者：前畑政善），研究分担者（2004年度）.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本生態学会，自然保護専門委員会・委員，2002年3月～2006年4月。
日本生態学会，自然保護専門委員会・副委員長，2004年8月～2006年4月。
日本生態学会，自然保護専門委員会外来種問題検討作業部会・部会員，2001年3月～。
日本生態学会，近畿地区委員会・委員，2000年1月～。
日本生態学会，近畿地区会自然保護専門委員会・委員，1998年～。
日本貝類学会，評議員，1999年1月～2004年12月。
日本魚類学会，評議員，2004年1月～。
日本魚類学会，自然保護委員会・委員，2001年2月～。
日本魚類学会，自然保護委員会外来魚問題検討部会・部会員，2001年2月～。
応用生態工学会，「応用生態工学」会誌編集委員会・専門編集委員，2000年4月～。
応用生態工学会，パートナーシップ委員会・委員，2001年12月～。
日本陸水学会，評議員，2004年4月～。
阪神貝類談話会，理事，2000年1月～。
山口貝類研究同好会，査読協力員，1996年～。
International Conference on Assessment and Control of Biological Invasion Risks (Yokohama National University, 21st Century COE Program Environmental Risk Management for Bio/Eco-System, Biodiversity Network Japan), Scientific Committee Member, 2003年12月～2004年8月。
生物多様性ネットワーク新潟，顧問，2004年10月～。

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2004年度後期，滋賀県立大学大学院環境科学研究科，「生物多様性論（生物多様性と外来生物問題）」。
2004年度，滋賀県立大学大学院環境科学研究科・博士後期課程3年生（中尾博之・藤田建太郎）および修士課程2年生（川端健人・森下 圭），副指導教官（琵琶湖におけるオオクチバス・ブルーギルに繁殖生態等に関する研究）。
2004年6月，同志社大学経済学部3回生（奥村剛弘），助言（琵琶湖の外来魚対策に関する研究）。
2004年8月，東京学芸大学教育学部4回生（肥後貴之），助言（琵琶湖の外来魚対策）。
2004年9月，京都大学大学院理学研究科修士課程1年生（八杉公基），助言（琵琶湖のオオクチバスの左右性に関する研究）。
2004年12月22日，京都大学大学院理学研究科修士課程1年（1名），琵琶湖博物館の生徒に対する普及・啓発活動に関するレポート。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー，琵琶湖博物館，9件。
2004年8月1日，琵琶湖の貝を調べてみよう，観察会，琵琶湖博物館，副担当（松田征也と共同）。
2005年1月29日，生物多様性と希少種・外来種，淡水魚類学専門講座（第2回），琵琶湖博物館，講師。

他の博物館・機関等主催行事

2004年4月20日，魚から見た琵琶湖の現状と問題点，ニコヨン会（昭和29年東レ株式会社入社同期会），琵琶湖博物館見学会，琵琶湖博物館，講師。

- 2004年5月11日、地引網体験の挨拶と捕獲魚の解剖の助言、草津市立笠縫東小学校および栗東市立治田小学校、びわ湖フローティングスクール、北小松湖岸（滋賀県志賀町）、講師。
- 2004年5月30日、琵琶湖博物館の概要説明、岡山県自然保護センター友の会、バス利用観察会「滋賀県立琵琶湖博物館を訪ねる」、琵琶湖博物館、講師。
- 2004年6月22日、いま問われる生き物とのつきあい方。茨木市環境教育研修会、茨木市教育委員会、茨木市市民総合センター（大阪府茨木市）、講師。
- 2004年7月24日、琵琶湖の生態系の現状、草津市教育委員会事務局生涯学習課、淡海生涯カレッジ草津校・問題発見講座第4回、草津アマカホール（滋賀県草津市）、講師。
- 2004年7月25日、魚類の調査結果の解説、(財)琵琶湖・淀川水質保全機構、平成16年度自然観察会(魚の調査)、琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センター（滋賀県草津市）、講師。
- 2004年7月27日、外来魚に関する学習への助言、滋賀県立石部高等学校、夏期集中講座「琵琶湖探求」、琵琶湖博物館、講師。
- 2004年7月28日、外来生物から考える生き物とのつきあい方、国土交通省岡山河川事務所、外来種問題に関する勉強会、国土交通省岡山河川事務所（岡山県岡山市）、講師。
- 2004年7月28日、外来魚問題って何？ーブラックバスなど水族の外来生物問題から今回制定された外来生物規制法に関する話題までー、岡山の自然を守る会学習会、喫茶店ラグリマ（岡山県岡山市）、講師。
- 2004年7月29日、琵琶湖における外来魚駆除の現状（外来魚駆除の現状と課題：琵琶湖で、そして各地で）、平成16年度巡回教室（(社)日本水産資源保護協会）、鹿児島県プロパンガス会館（鹿児島県鹿児島市）、講演。
- 2004年7月30日、高川ダム湖における外来魚の駆除方法に関する意見、広瀬川漁業協同組合・鹿児島県出水農林水産事務所水産課、外来魚に関する意見交換会、鹿児島県出水合同庁舎（鹿児島県出水市）、意見陳述。
- 2004年8月4日、ブラックバスについて学ぼう！、園部町立園部文化博物館、野外見学会ー琵琶湖を探検！ー、琵琶湖博物館、講師。
- 2004年8月6日、外来魚の解剖実習の指導、(財)大阪府水道サービス公社・大阪府水道部、夏休み水源（琵琶湖）親子見学会、琵琶湖博物館、講師。
- 2004年8月7日、琵琶湖の外来魚の現状や生物多様性の意義などの解説、香川淡水魚研究会、琵琶湖博物館見学会、琵琶湖博物館、講師。
- 2004年8月7日、河川生物の調査と観察の指導、大津滋賀流域みずすまし推進協議会、新免農場内で生き物観察会&水の調査、上田上新免町・新免農場内（滋賀県大津市）、講師。
- 2004年8月21日、びわ湖でビンゴ、瀬田新緑苑自治会、地藏盆、新緑苑会館（滋賀県大津市）、講師。
- 2004年9月26日、ため池における魚類観察会の指導、湖南地域振興局・みずすまし・北桜自治会、桜池生き物観察会、桜池（滋賀県野洲町北桜）、講師。
- 2004年10月19日、29日、琵琶湖と外来魚の駆除、大津市立瀬田中学校総合学習（1～3年）、講師。
- 2004年10月26日、外来魚が日本の生態系に及ぼす影響についての学習、和歌山大学教育学部附属中学校（4名）、講師。
- 2004年10月31日、事業の講師、大津市PTA連合会子ども「学び・ときめき・育ちあい」事業瀬田ブロック実行委員会、外来魚駆除釣り大会、瀬田川唐橋公園周辺（滋賀県大津市）、講師。
- 2004年12月4日、外来魚、飛騨インタープリターアカデミー、飛騨の自然案内人養成講座、ひだきよみ自然館（岐阜県清見村）、講師。
- 2005年1月30日、中禅寺湖におけるコクチバスの調査と駆除対策（中禅寺湖漁協・吉田國男 専務理事の代理）琵琶湖を戻す会、第4回琵琶湖外来魚シンポジウム「完全駆除へのシナリオ」、琵琶湖博物館、代理講師。
- 2005年1月30日、特定外来生物被害防止法のオオクチバス指定を巡って、琵琶湖を戻す会、第4回琵琶湖外来魚シンポジウム「完全駆除へのシナリオ」、琵琶湖博物館、講師。
- 2005年1月30日、パネルディスカッション、琵琶湖を戻す会、第4回琵琶湖外来魚シンポジウム「完全駆除へのシナリオ」、琵琶湖博物館、進行役。

2005年2月13日、動物収蔵庫・液浸収蔵庫の案内、きしわだ自然資料館友の会、琵琶湖博物館見学会、琵琶湖博物館、案内・解説。

視察対応

2004年4月8日、野洲川揚水機場の運用による外来生物の拡散に関する相談、水土里ネット野洲川・湖南地域振興局。

2004年4月8日、常設展示の案内、(財)日本国際協力センターイラン国「湿地環境管理」(イラン国アンザリ湿地生態系保全総合管理計画調査)研修員。

2004年4月25日、重要湿地および古代湖としての琵琶湖の概説、WWFジャパンとの協力関係の説明、および常設展示の案内、WWF「The 1001: A Nature Trust Japan Tour 2004」。

2004年4月30日、常設展示の案内と外来種問題の意見交換、環境省自然保護局。

2004年5月7日、琵琶湖の水位操作に関する助言、琵琶湖河川事務所。

2004年6月30日・8月3日、日本釣振興会との意見交換会、環境省、2件。

2004年6月30日、魚類・貝類ほか水生動物の外来種に関するヒアリング、(財)自然環境研究センターほか、外来種対策法ワーキングチーム。

2004年8月10日、オオクチバス・コクチバス・ブルーギルの野外での見分け方学習、(株)緑化技研ほか滋賀県水産課ため池魚類調査担当者。

2004年12月10日、琵琶湖における外来種対策と霞ヶ浦水域における展望、前村良雄氏(リバーフロント整備センター)。

メディアへの協力

2004年4月号、水の話 FUJI CLEAN NEWS No.123、特集 水辺の外来生物 変わりつつある日本の自然、外来生物の写真提供および内容に関する助言、(2003年10月取材)。

2004年4月2日、NHK・読売新聞・産経新聞・中日新聞・共同通信・毎日新聞、県内河川におけるカミツキガメの捕獲、県内の発見例、食性、影響、条例での禁止規定等の質問への対応、(2004年4月1日取材)。

2004年4月25日、河北新報、ブラックバス駆除：宮城・伊豆沼方式に全国が注目。伊豆沼におけるオオクチバス人工産卵床の製作・設置の市民活動に関する評価コメント、(2004年4月17日取材)。

2004年4月28日、朝日小学生新聞、外来魚：ブラックバス、ブルーギル 意外においしいよ、増えすぎた外来魚に対処する必要性に関するコメント、(2004年4月25日取材)。

2004年6月6日、日本テレビ系全国ネット、所さんの目がテン！・日本最大の湖・琵琶湖へ驚異！大繁殖する魚の謎へ、琵琶湖における外来魚調査場所の紹介、ブルーギルの影響に関する解説、(2004年5月15日～17日取材)。

2004年6月9日、読売新聞大阪本社(西日本各地で掲載)特定外来生物被害防止法：滋賀県立琵琶湖博物館主任学芸員 中井克樹さん 指定の線引きが課題、外来生物への対応の必要性、および新法における特定外来生物指定の意義などに関するコメント、(2004年5月28日取材)。

2004年6月30日、毎日放送テレビ、ちちんぷいぷい、琵琶湖の外来魚駆除事業に関する情報提供、(2004年6月25日取材)。

2004年7月2日、朝日放送テレビ、ゆう・外来生物が自然界を脅かす？、外来生物への対応の必要性、および新法における特定外来生物指定の意義などに関するコメント、(2004年6月14日取材)。

2004年7月13日、STV札幌テレビ放送、STVニュース・どさんこワイド212・電気ショックでふかり、北海道南幌町における国内初のエレクトリックフィッシングボートを用いたオオクチバス捕獲実験に対するコメント、(2004年7月13日取材)。

2004年7月19日、毎日新聞、琵琶湖・淀川の堰：水位調節 魚に優しく自然に似せ増減、琵琶湖生態系回復のための課題に関するコメント、(2004年7月8日取材)。

- 2004年8月号, Mac Fan, 大谷和利が撮る Mac WORKPLACES 今も昔も、いつの日も at 7th「滋賀県：琵琶湖博物館」, 展示室や収蔵・管理空間でマッキントッシュコンピュータがどのように使われているかを紹介, (2004年5月27日取材).
- 2004年8月7日, 毎日放送ラジオ, 鋭ちゃんのあさいちラジオ・あさいちゲスト, 特定外来生物被害防止法に関するインタビュー, (パーソナリティと生放送で電話応対).
- 2004年10月13日, 産経新聞, フロリダバス大量繁殖: 琵琶湖に新外来魚, 琵琶湖でのフロリダバスの大規模侵入に関する学会発表内容の説明とコメント, (2004年10月取材).
- 2004年11月6日, 朝日新聞夕刊, 琵琶湖のブラックバス/フロリダバス大量侵入/密放流か ノーザンと交雑, 琵琶湖でのフロリダバスの大規模侵入に関する学会発表内容の説明とコメント, (2004年10月取材).
- 2004年11月27日, 産経新聞: 朝刊, オオクチバス規制賛否・「生態系崩す」「過剰反応」, 特定外来生物オオクチバス小グループ委員として規制の必要性を説明, (2004年11月26日取材).
- 2004年11月27日, 毎日新聞: 大阪夕刊, 琵琶湖: 70センチ級バス、進む交雑/問題化後に密放流?, 琵琶湖でのフロリダバスの大規模侵入に関する学会発表内容の説明とコメント, (2004年10月14日取材).
- 2004年11月29日, 中日新聞, 2004年湖国 フロリダバス大量侵入/琵琶湖 密放流か? 97年調査では「ゼロ」/交雑で“巨大個体”繁殖を懸念, 琵琶湖でのフロリダバスの大規模侵入に関する学会発表内容の説明とコメント, (2004年11月14日取材).
- 2004年11月30日, TBS系全国ネット, とってもインサイト・日本の湖を食べ尽くす恐怖の生物, 琵琶湖のフロリダバスの大規模侵入経緯に関するコメント、調査データの提供, (2004年11月28日取材).
- 2004年12月22日, NHK 総合テレビ, スタジオパークからこんにちは・暮らしの中のニュース解説: 侵略つづく外来魚, 琵琶湖における外来魚問題の経緯と現状を説明 写真資料の提供, (2004年12月16日取材).
- 2005年1月号, ビーパル, 月刊雑魚釣りニュース・雑報: 雑魚釣り堀に各地から視察相次ぐ!! , 栃木市内の在来魚対象の釣り堀施設の維持管理に関するコメント, (2004年11月取材).
- 2005年1月31日, 朝日新聞滋賀版, どうなるオオクチバス: 琵琶湖の外来魚駆除問題めぐりシンポ, オオクチバスの問題点を指摘し、特定外来生物の指定候補となったことを支持するコメント, (2005年1月30日取材).
- 2005年2月6日, 中日新聞, 外来魚生態撮った: 滋賀県立大大学院生らー 琵琶湖で定点観察, 副指導教官として指導している大学院生の写真の評価, (2005年2月電話取材).
- 2005年2月13日, しんぶん赤旗 日曜版, 日本の魚を食べます 全国で大繁殖・ブラックバス 規制外来種に指定へ, ブラックバス問題の概説と琵琶湖における外来魚問題の変遷について解説、写真資料の提供, (2005年2月3日取材).
- 2005年2月19日 (および3月19日) 読売新聞夕刊 (Dairy Yomiuri) いぶにんぐスペシャル・ほっとサイエンス 外来魚駆除に知恵絞る, ブラックバス駆除事業のあり方に関するコメント, (2005年2月取材).
- 2005年2月28日, 日本テレビ (関東ローカル枠) ニュースプラス1・列島大揺れ! どうなる繁殖生物, 外来生物に関する専門研究者の紹介、琵琶湖の現状に関する解説、外来魚の水中映像の提供, (2005年1月以降取材).
- 2005年3月13日, テレビ東京系6局ネット, トコトンハテナ・外来生物って何?, 琵琶湖における外来魚問題の経緯と現状を説明 データの提供, (2005年2月18日取材).
- 2005年3月号, ナショナルジオグラフィック日本版, 外来生物日本編: 大海を越えて日本上陸ー 輸入大国・日本に持ち込まれた外来生物、そのトラブルと打開策, 日本における外来種問題に関する概説、ブラックバス問題に関するコメント, (2005年1月7日取材).
- 2005年3月号, ビーパル, 小特集 もっとも都会にある大自然 BE-PAL 流水族館の遊び方・滋賀県立琵琶湖博物館・滋賀県, 琵琶湖博物館の展示ーとくに淡水魚類に関する展示の紹介, (2005年1月4日取材).

【情報整備活動】

他博物館・機関の活動

環境省, 環境省編『ブラックバス・ブルーギルが在来生物群集及び生態系に与える影響と対策』の表紙写真提供, 3

点.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

資料受領，滋賀県立大学大学院生より滋賀県産淡水貝類液浸資料受領.

資料受領，大津氏在住者より、湖底から採取したカワヒバリガイ付着ロープ受領.

資料受領，東京在住のフリーカメラマンよりヴェトナム産淡水貝類液浸資料受領.

同定依頼および資料受領，石綿進一（神奈川県環境センター）氏より神奈川県産淡水貝類液浸資料受領（同定依頼分）.

同定依頼および資料受領，勝呂尚之（神奈川県内水面試験場）氏より神奈川県産淡水貝類液浸資料受領（同定依頼分）.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講演，3回.

他博物館・機関の活動

三田市立有馬富士自然学習センター，2004年1月6日～4月20日，企画展「外来種を考える」，外来生物に関する情報提供、標本および映像資料貸出し対応.

千葉県立中央博物館，2004年3月20日～5月9日，企画展「持ち込まれたケモノたち- 外来動物がおびやかす地域の自然-」，オオクチバスの生態、外来魚駆除の現場等の写真資料の提供.

園部町立園部文化博物館，2004年7月24日～9月5日，平成16年度夏季企画展「どこからやってきたの？生き物たちのふるさと」，企画・出版物等への助言および資料の貸借・提供への対応.

小山市立博物館，2004年9月18日～11月14日，第47回企画展「思川の自然と歴史」，琵琶湖における外来種対策に関する情報提供.

三重県立博物館，2005年度末，外来生物に関する企画展，外来生物に関する企画展の企画に関する助言.

【企画調整活動】

新任職員研修，C展示室「琵琶湖の環境と変化」，2004年4月20日.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2003年5月～，滋賀県，移入種問題検討委員会，検討委員および水生生態系部会員.

2004年度，滋賀県，移入種問題庁内連絡会議，幹事および水生生態系分科会委員.

2003年～，滋賀県，滋賀の大切にすべき生き物委員会，専門委員.

2001年11月～，滋賀県，琵琶湖生態系研究会，委員.

1996年度～，環境省，自然環境保全基礎調査検討会 無脊椎動物分科会，検討員.

2003年度～，環境省，絶滅のおそれのある野生動植物種の選定・評価検討会 陸・淡水産貝類分科会，検討委員.

2004年10月22日～2005年3月31日，環境省（（財）自然環境研究センター）外来生物対策分類群専門家グループ（無脊椎動物）検討委員.

2004年11月～2005年3月31日，環境省（（財）自然環境研究センター）外来生物対策オオクチバス小グループ，検討委員.

1998年1月～2005年3月，国土交通省利根川下流河川事務所，利根川ヤマトシジミ勉強会，委員.

- 2004年7月27日～2005年3月31日, 兵庫県自然環境保全課, 播磨ため池群保全・再生活動実施計画検討会, 委員.
- 1999年2月～, (財)リバーフロント整備センター, 河川水辺の国勢調査スクリーニング委員会 底生動物スクリーニング・グループ, 委員.
- 1999年10月～, (財)ダム水源地環境整備センター, 河川水辺の国勢調査(ダム湖版)スクリーニング委員会 底生動物スクリーニング・グループ, 委員.
- 1999年2月～, (財)琵琶湖・淀川水質保全機構, 琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センター「多自然型水路実験」研究部会, 検討委員.
- 2004年7月～, (社)日本水産資源保護協会, 平成16年度水産資源保護啓発研究活動推進委員, 委員.
- 2004年8月～, 国土交通省琵琶湖河川事務所, 河川保全利用委員会, 委員.
- 2004年10月～, 生物多様性ネットワーク新潟, 顧問.

専門研究では1994年に滋賀県下で確認されて以来、急速に分布域を拡大していると考えられる外国産シジミ類を採集と種の同定についての研究を実施した。県内各地の水路を中心にシジミ類を採集し、倍数性の確認を行うとともに、DNA解析の解析を行うことで在来のマシジミと外国産シジミとの区別を行なった。この研究は、昨年度終了した共同研究「外国産シジミに関する研究」を継続して実施しているもので、滋賀県下における外国産シジミの分布状況把握と、在来のマシジミへの影響を明らかにすることを目的としている。

共同研究では昨年度まで実施していた「南湖の富栄養化過程に沈水植物が及ぼす影響の解明」で課題となった、低酸素状態における貝類の環境耐性についての実験を実施している。水生植物が大量に繁茂している水域において、夏季に湖底付近で低酸素状態になることから、底生生物である貝類への影響を明らかにすることを目的として実施したものである。研究では琵琶湖内に広く分布するタテボシガイを用いて、低酸素状態における耐性を調べている。

総合研究「東アジアの中の琵琶湖—コイ科魚類の展開を軸とした—環境史に関する研究」では、琵琶湖の大型固定漁具であるエリ周辺での湖水の流動が、コイ科魚類であるコイ、フナの漁獲にどのような影響をおよぼすのか、コイ、フナの湖内での行動をバイオテレメトリーの手法を用いて明らかにすることを目的に、近畿大学農学部水産学科漁場学研究室の山根猛教授らとともに実験を行った。実験のから得られたデータについては、研究の中間報告として2005年1月27日に第38回琵琶湖特別研究セミナー「なぜ！魚はエリに入るのか？」を開催し発表している。

日本動物園水族館協会の教育事業推進委員会委員に任命されているほか、同協会の種保存委員会の日本産希少淡水魚繁殖検討委員会のアユモドキ、イタセンパラ、ホトケドジョウの種別調整を担当した。また、水政課琵琶湖環境政策室が実施している漁業環境調査会議のメンバーとして、漁業者に琵琶湖環境の変化についての聞き取り調査を当館牧野厚史主任学芸員と近畿大学農学部水産学科漁場学研究室の山根 猛教授とともに実施した。

印刷物

【専門分野の著作】

- 松田征也・玉村恵一・光永 靖 (2005) 水の濁りとオオクチバスの捕食行動との関係について. (社)日本動物園水族館協会, 第70回近畿ブロック水族館飼育係研修会プログラム, 串本海中公園センター: 1.
- 丸尾有美・松田征也 (2005) 琵琶湖博物館水族飼育員の展示交流活動についての評価と課題. (社)日本動物園水族館協会, 第70回近畿ブロック水族館飼育係研修会プログラム, 串本海中公園センター: 8.
- 松田征也 (2005) (社)日本動物園水族館協会の教育普及事業について. (社)日本動物園水族館協会, 第70回近畿ブロック水族館飼育係研修会プログラム, 串本海中公園センター.

【一般向けの著作】

- 松田征也 (2004) 滋賀の魚「ウグイ」. 京都新聞: 2004年5月11日.
- 松田征也 (2004) 滋賀の魚「アユモドキ」. 京都新聞: 2004年5月25日.
- 松田征也 (2004) 滋賀の魚「スジシマドジョウ」. 京都新聞: 2004年7月20日.
- 松田征也 (2004) 滋賀の魚「カワバタモロコ」. 京都新聞: 2004年9月28日.
- 松田征也 (2004) 湖国の魚「スジシマドジョウ」. あいあいA I 滋賀, 朝日新聞社: 2004年10月6日.
- 松田征也 (2004) 湖国の魚「スゴモロコ」. あいあいA I 滋賀, 朝日新聞社: 2004年10月27日.
- 松田征也 (2004) 湖国の魚「ウナギ」. あいあいA I 滋賀, 朝日新聞社: 2004年11月3日.

松田征也（2005）滋賀の魚「タイリクバラタナゴ」. 京都新聞：2005年3月9日.

松田征也（2004）木之本町における希少淡水貝類の保全活動. うみんど, 33, 琵琶湖博物館：7.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

松田征也（2004年6月23日）（社）日本動物園水族館協会第70回近畿ブロック水族館飼育係研修会，串本海中公園センター，串本海中公園センター鯖浦海中公園研究所（和歌山県串本市），[座長].

松田征也・玉村恵一・光永 靖（2004年6月23日）水の濁りとオオクチバスの捕食行動との関係について.（社）日本動物園水族館協会，第70回近畿ブロック水族館飼育係研修会，串本海中公園センター，串本海中公園センター 鯖浦海中公園研究所（和歌山県串本市）.

丸尾有美・松田征也（2004年6月23日）琵琶湖博物館水族飼育員の展示交流活動についての評価と課題.（社）日本動物園水族館協会，第70回近畿ブロック水族館飼育係研修会，串本海中公園センター，串本海中公園センター 鯖浦海中公園研究所（和歌山県串本市）.

松田征也（2004年6月23日）（社）日本動物園水族館協会の教育普及事業について.（社）日本動物園水族館協会 第70回近畿ブロック水族館飼育係研修会，串本海中公園センター，串本海中公園センター 鯖浦海中公園研究所（和歌山県串本市）.

松田征也（2005年1月27日）なぜ！魚はエリに入るのか？. 第38回琵琶湖博物館特別研究セミナー，琵琶湖博物館，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），[運営・司会].

山根 猛・松田征也（2005年1月27日）なぜ！魚はエリに入るのか？. 第38回琵琶湖博物館特別研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表].

松田征也（2004年7月16日）外国産シジミに関する研究と今後の展開. 琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館総合研究「東アジアの中の琵琶湖- コイ科魚類の展開を軸とした- 環境史に関する研究」（研究代表者：中島経夫），漁労班：研究協力者（1996～2006年度）.

琵琶湖博物館共同研究「貝類を指標とした湖底の酸素環境の把握について」（研究代表者：松田征也），研究調整および採集（2004年）.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー，琵琶湖博物館，9件.

2004年8月1日，水辺の貝を調べてみよう，観察会，琵琶湖博物館と湖辺，説明と案内.

2004年10月28日，伯母川探検隊，草津市内伯母川水系，採集と説明.

2005年3月6日，水族展示の舞台裏，見学会，琵琶湖博物館，説明と案内，副担当（孝橋賢一・前畑政善・秋山廣光・桑原雅之と共同）.

他の博物館・機関等主催行事

2004年4月29日，琵琶湖の魚と貝，シジミ祭り実行委員会，シジミ祭り，琵琶湖上，講師.

2004年5月2日，滋賀県環境保全課，琵琶湖ルールの啓発，琵琶湖上，滋賀県，操船.

2004年8月19日，琵琶湖の魚と貝，伊川を愛する会，琵琶湖博物館，講師.

2004年10月17日，博物館の展示について，近畿大学，博物館研修，琵琶湖博物館，説明。
2004年10月28日，投網講習，教職員研修センター，5年経験研修，琵琶湖博物館，講師。

視察対応

2005年2月19日，視察対応，アクアトトぎふ，琵琶湖博物館。
2005年3月17日，視察対応，新江ノ島水族館，琵琶湖博物館。
2005年3月19日，視察対応，宍道湖自然館，琵琶湖博物館。

メディアへの協力

2004年4月17日，京都新聞，明日への視座，オオナマズの撮影，(2004年4月10日取材)。
2004年4月19日，びわ湖放送，ニュース，魚の撮影，(2004年4月16日取材)。
読売新聞社，濁りとオオクチバスの捕食行動との関係性について，(2004年4月16日取材)。
2004年4月27日，京都新聞，ホンモロコの写真撮影，(2004年4月23日取材)。
テレビ大阪，昔の台所について，(2004年4月28日取材)。
2004年5月3日，中日新聞社，ホンモロコ稚魚の撮影，(2004年4月28日取材)。
滋賀ケーブルネットワーク，ホンモロコ稚魚の撮影，(2004年4月28日取材)。
毎日新聞，なぎさ公園で捕獲されたカミツキガメについて，(2004年4月28日取材)。
2004年6月1日，びいめーる，昔懐かしい台所について，(2004年5月14日取材)。
産経新聞社，企画展示について，(2004年7月17日取材)。
2004年8月11日，京都新聞社，水族トピック展示「ニッポンバラタナゴの稚魚」，(2004年8月10日取材)。
2004年8月27日，朝日新聞社，水族トピック展示「ニッポンバラタナゴの稚魚」，(2004年8月11日取材)。
2004年8月13日，中日新聞社，水族トピック展示「ニッポンバラタナゴの稚魚」，(2004年8月12日取材)。
2004年8月12日，BBCびわ湖放送，水族トピック展示「ニッポンバラタナゴの稚魚」，(2004年8月12日取材)。
2004年8月13日，NHK，水族トピック展示「ニッポンバラタナゴの稚魚」，(2004年8月13日取材)。
2004年8月18日，産経新聞社，水族トピック展示「ニッポンバラタナゴの稚魚」，(資料提供)。
読売新聞社，ニゴロブナの写真撮影，(2004年9月4日取材)。
2004年12月22日，朝日新聞社，外来魚に関する資料提供，(2004年12月21日取材)。
2005年1月27日，京都新聞社，水族トピック展示「中国のボテジャコ」，(2005年1月25日取材)。
朝日新聞社，展示案内，(2005年1月25日取材)。
2005年3月2日，産経新聞社，水族トピック展示「昔日本にいた魚」，(2005年2月26日取材)。
2005年3月16日，あいあいA I 滋賀，水族展示の舞台裏の取材，(2005年3月6日取材)。
滋賀県聴覚障害者センター，展示紹介，(2005年3月10日取材)。
2005年4月3日，BBCびわ湖放送，うおーたんのこどもプラスワン，外来魚についての説明，(2005年3月25日取材)。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

町立宮島水族館，オヤニラミ，受贈，30尾。
さいたま水族館，ムサシトミヨ，受贈，20尾。
淡水生貝類，採集など，990件。

他博物館・機関の活動

姫路市立水族館，ニッポンバラタナゴ，分譲，50尾。
京都大学理学研究科動物生態学研究室，アブラヒガイの卵，分譲，50個。

愛媛大学教育学部，マメシジミ類，貸し出し，50 個体。
志摩マリンランド，ニッポンバラタナゴ，分譲，20 尾。
さいたま水族館，ケツギョ，分譲，3 尾。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講演，3 回。

【企画調整活動】

中長期計画検討チーム，2004 年度。

滋賀県博物館協議会，総会受付，2004 年 6 月 10 日，栗東市。

博物館 PR 活動，資料の配付，2004 年 9 月 5 日，JR 京都駅。

博物館 PR 活動準備，配付資料の仕分，2004 年 9 月 7 日，ビジターズビューロー。

日本動物園水族館協会経営管理協議会，2004 年 11 月 17・18 日，福島県いわき市。

【研究部関連事業】

危険物倉庫の管理，主担当。

調査船の管理，副担当。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

1999 年 3 月 3 日～，湖南地域振興局，守山湖岸再生部会，委員。

2000 年～，湖南地域振興局，木浜内湖再生部会，委員。

2000 年 7 月 25 日～，(社) 日本動物園水族館協会，教育普及事業推進委員会，委員。

2004 年度，(社) 日本動物園水族館協会，種保存委員会、日本産希少淡水魚繁殖検討委員会，種別調整者（アユモドキ、イタセンパラ、ホトケドジョウ）。

2004 年度，滋賀県琵琶湖環境部水政課，琵琶湖漁業環境動態調査会議，調査メンバー。

2004 年度は、引き続き「琵琶湖水系に生息するビワマスとアマゴとの関係」というテーマで専門研究を行った。これまでに、ビワマスにも初夏に河川に遡上してくる早期遡上群のあることや、産卵に参加する河川残留型のあることがわかってきた。また、形態的にはビワマスと判別されながら、mt-DNA からはサツキマスに判別され、交雑している可能性のある個体も 1 個体見つかった。今年度は、さらにこの交雑個体の存在を確認することを目指し、サンプルの収集を行った。また、河川残留型には成熟した雄と未成熟の雌の存在も確認されており、ビワマスの河川型の個体群の存在も伺われることから、アマゴのサンプリングも一部行った。ただ、今年度は共同研究の最終年度に当たり、そちらの方に時間と労力を割かざるを得ず、分析を行って結果を得るところまでにはいけなかった。

共同研究については、中央水産研究所の井口恵一朗氏、今津中学校の来見誠二氏と共同で行っている「琵琶湖水系に生息するイワナの地理的分布とその形成過程」が最終年度となった。今年度は、昨年度までに行った琵琶湖水系におけるサンプリングに加えて、周辺水域の 4 水系 7 地点と琵琶湖水系でさらに 2 地点サンプリングを行い、分析を行った。また、これらと比較するために、信濃川水系の親沢と木曾川水系の九蔵川のサンプルを入手し併せて分析を行った。その結果、琵琶湖水系のイワナは日本海側から進入してきたものが定着した可能性の高いことが明らかとなり、さらにそれらは岐阜県側の揖斐川水系にも影響を及ぼしている可能性のあることが明らかとなった。

水族では希少淡水魚の保護増殖の研究も行っており、私は特に絶滅危惧種B にランクされているタナゴモドキの繁殖に力を入れている。これまで、タナゴモドキは先に雄が放精した後雌を呼び込んで産卵させるというきわめて特異的な産卵生態を持つことや、換水や温度操作などを行うことで人為的に産卵をコントロールすることのできることなどがわかっている。しかし、孵化仔魚が約 1.2mm ときわめて小さいことなどから現在のところ、仔魚の飼育はうまくいっていない。今年度は、特に仔魚の餌として使用可能ではないかと考えているシオミズツボワムシ SS 型の当館における培養方法について試行錯誤を行い、餌として利用可能な程度の培養を行うことができるようになった。

印刷物

【専門分野の著作】

- 亀甲武志・甲斐嘉晃・桑原雅之・中山耕至 (2004) 琵琶湖流入河川におけるイワナ遺伝的多様性の経時的変化. 平成 15 年度滋賀県水産試験場事業報告, 滋賀県水産試験場: 309-310.
- 亀甲武志・甲斐嘉晃・桑原雅之・中山耕至 (2004) 琵琶湖流入河川におけるイワナの河川間の遺伝的変異. 平成 15 年度滋賀県水産試験場事業報告, 滋賀県水産試験場: 311-312.

【一般向けの著作】

- 桑原雅之 (2004) 滋賀の魚「アブラハヤ」. 京都新聞: 2004 年 5 月 4 日.
- 桑原雅之 (2004) 滋賀の魚「ヌマムツ」. 京都新聞: 2004 年 5 月 18 日.
- 桑原雅之 (2004) 滋賀の魚「ブルーギル」. 京都新聞: 2004 年 7 月 6 日.
- 桑原雅之 (2004) 滋賀の魚「トウヨシノボリ」. 京都新聞: 2004 年 8 月 17 日.
- 桑原雅之 (2004) 湖国の魚「コアユ」. あいあい AI 滋賀, 朝日新聞社: 2004 年 9 月 8 日.
- 桑原雅之 (2004) 湖国の魚「ビワマス」. あいあい AI 滋賀, 朝日新聞社: 2004 年 9 月 15 日.
- 桑原雅之 (2004) 滋賀の魚「イワナ」. 京都新聞: 2004 年 10 月 5 日.

桑原雅之 (2004) 滋賀の魚「ビワマス」. 京都新聞: 2004年11月16日.
桑原雅之 (2004) 湖国の魚「ウツセミカジカ」. あいあいAI 滋賀, 朝日新聞社: 2004年11月24日.
桑原雅之 (2004) 滋賀の魚「ワカサギ」. 京都新聞: 2005年2月1日.
桑原雅之 (2004) どこでも博物館「琵琶湖水系のイワナ」. うみんど, 32, 琵琶湖博物館: 7.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

桑原雅之・井口恵一郎・来見誠二 (2004年9月26日) マイクロサテライト DNA 分析による琵琶湖水系に生息するイワナの地理的分布. 第37回日本魚類学会年会, 日本魚類学会, 琉球大学理学部 (沖縄県中頭郡西原町), [口頭発表].
亀甲武志・桑原雅之・甲斐嘉晃・中山耕至 (2004年9月26日) 琵琶湖流入河川におけるイワナの集団構造. 第37回日本魚類学会年会, 日本魚類学会, 琉球大学理学部 (沖縄県中頭郡西原町), [口頭発表].
桑原雅之・井口恵一郎・来見誠二 (2005年3月18日) 琵琶湖水系のイワナはどこから来たのかー 琵琶湖水系に生息するイワナの地理的分布とその形成過程ー. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館共同研究「琵琶湖水系に生息するイワナの地理的分布とその形成過程」(研究代表者: 桑原雅之), 研究代表者 (2002年度~2004年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本魚類学会, 魚類学雑誌, 査読, 1件.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

平成17年3月1日~2日, 熊本市動植物園 (中間幸弘), ニッポンバラタナゴ等の飼育繁殖技術.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー, 琵琶湖博物館, 10件.
2004年8月4日, 博物館実習, 水族資料説明, 琵琶湖博物館, 講師.
2004年8月5日, カメの飼い方, 生き物飼い方講座, 琵琶湖博物館, 講師.
2004年11月3日, ビワマスの採卵現場を見学してみませんか, 観察会, マキノ町知内, 主担当 (孝橋賢一と共同).
2005年3月6日, 水族展示の舞台裏, 見学会, 琵琶湖博物館, 副担当 (前畑政善・秋山廣光・松田征也・孝橋賢一と共同).

他の博物館・機関等主催行事

2004年7月27日~28日, 夏期集中講義「琵琶湖探求」, 滋賀県立石部高等学校, 琵琶湖博物館, 講師.
2004年8月3日, 5年生やってみタイム, 常磐小学校, 琵琶湖博物館, 講師.
2004年11月12日, 動物の解剖 (ニジマスの解剖), 滋賀県高等学校理科教育研究会, 生物部会研修会, 滋賀県総合教育センター (滋賀県野洲市), 講師.

メディアへの協力

2004年12月10日, NHK 大津放送局, NHK おうみ発 610 「ビワマスの産卵」, ビワマス撮影, (2004年11月取材).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

水族資料 (タナゴモドキ) 採集および生息環境調査, 調査.

水族資料収集, 主担当.

水族資料維持管理, 主担当.

オオサンショウウオ, 貸し出し, 主担当.

水族資料, 譲与, 3件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

平成17年度水族企画展示「オサムシの世界 (仮称)」, 主担当.

水族展示, 維持管理.

展示交流員と話そう (つくってみよう滋賀の味), 内容指導.

モーニングレクチャー, 講演, 3回.

他博物館・機関の活動

香りの里資料館, 2004年10月23日~11月5日, オオサンショウウオ展示, 展示管理.

【企画調整の活動】

新任職員研修, 水族を支える設備とスタッフ, 2004年4月21日.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2004年12月4日~11日, アメリカ合衆国モントレイ, 第6回世界水族館会議参加.

本年度は、学位論文執筆を最優先事項においたが、実際には様々な研究プロジェクトにも時間をさくことになった。

4月に科研費として採択された「コモンズとしての森林に生じる鳥獣害問題についての環境社会学的研究」では、物質輸送という視点から森林生態への鳥類の影響を研究してきた生態学研究、生業や信仰等の森林利用を研究してきた民俗学の研究者の協力を得て、コモンズという森林利用の社会的な仕組みから鳥獣害問題という社会問題にアプローチし、社会学研究としての示唆を出そうとしている。本年度は主として翌平成17年度の本格的調査にむけ、予備作業を中心とした現地調査を数回にわたって行った。また、博物館の専門研究費を使用した研究としては、琵琶湖岸域の村落を事例地として、湖岸域の水質汚濁問題を中心に問題への住民対応について集中的な調査を行ってきた。それらは、現在、成果をとりまとめているところである。

印刷物

【専門分野の著作】

牧野厚史 (2004) 琵琶湖から「鶴の山」へー カワウの問題がむすぶ二つのフィールド. エコソフィア, 12, 昭和堂: 72- 73.

牧野厚史 (2004) シンポジウム「自然再生というシナリオ」を終えて. 環境社会学会ニューズレター, 35, 環境社会学会: 12- 13.

【一般向けの著作】

牧野厚史 (2004) 魚つかみの伝統からみえること. 京都新聞: 2004年6月16日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

牧野厚史 (2004年4月16日) 環境再生における生き物の記憶. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

牧野厚史 (2004年5月16日) 環境再生における生き物の記憶. 生き物文化誌学会第2回学術大会 琵琶湖大会, 生き物文化誌学会, 琵琶湖博物館 (草津市), [口頭発表].

牧野厚史 (2004年6月26日) 特別インタビュー「“びわこ”というシナリオの来し方と行く末». 環境社会学会第16回大会, 環境社会学会, BRC (守山市), [司会].

牧野厚史 (2004年6月27日) シンポジウム「自然の再生というシナリオ». 環境社会学会第16回大会, 環境社会学会, BRC (守山市), [企画・司会].

牧野厚史 (2004年12月18日) 地域における博物館の役割. 平成16年度琵琶湖博物館研究発表会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費萌芽研究「コモンズとしての森林に生じる鳥獣害問題についての環境社会学的研究」(研究代表者: 牧野

厚史), 研究代表者 (2004 年度～2005 年度).

科学研究費基盤研究 B「 commons と公共性の環境社会学的研究」(研究代表者: 宮内泰介), 研究分担者 (2003 年度～2004 年度).

琵琶湖博物館総合研究「博物館資料の収集・整理・保管と利用に関する研究- 琵琶湖地域にある資料の利活用の方法論-」(研究代表者: 八尋克郎), 共同研究者 (1997 年度～2004 年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

環境社会学会, 環境社会学研究, 査読, 1 件.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2004 年 4 月～7 月, 奈良女子大学文学部 3, 4 回生, 環境社会システム学.

2004 年 9 月～12 月, 関西学院大学 3 回生, 地域・生活・環境特論 A.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー, 琵琶湖博物館, 12 件.

2004 年 10 月 13 日, JICA 博物館学集中コース, 研修, 琵琶湖博物館.

2004 年 11 月 3 日, 琵琶湖のヨシを観察してみよう, 観察会, 近江八幡市白王, 主担当 (布谷知夫と共同).

他の博物館・機関等主催行事

2004 年 10 月 16 日, 「環境を考える」シンポジウム, 滋賀県東浅井郡 4 商工会青年部, 東浅井郡青年部提案公募事業, びわ町商工会館 (びわ町), コーディネーター.

視察対応

博物館のソフト事業について, 九州国立博物館準備室, 琵琶湖博物館.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

地券取調総絵図 (木浜), 収集.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー, 講演, 3 回.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2004 年度, うみんど編集委員.

【館外の活動】

2004 年 1 月～2006 年 3 月, 琵琶湖漁業環境動態調査, 委員.

2003 年 4 月～2004 年 3 月, ため池検討委員会, 委員.

本年度の専門研究は「琵琶湖南湖の沈水植物に関する研究」として行った。2003年度に引き続き、南湖全域の沈水植物の分布の季節変化を、魚群探知機とdGPSを用いるモニタリング手法により観測した。現在、観測データの数値変換作業を行っており、2005年の夏までには結果が出る予定である。この観測は経年変化もターゲットとしており、2005年度以降も継続する。これまでの経験から、渇水のあった年に沈水植物の分布範囲が一気に拡大する可能性が示唆されているので、特に渇水時には詳細な分布調査を行う予定である。

共同研究では「貝類を指標とした湖底の酸素環境の把握について」として、琵琶湖産二枚貝の低酸素耐性に関する研究を進めている。2004年度はタテボシガイについて低酸素環境下 ($<1\text{mg O}_2 \text{ L}^{-1}$) での生残日数の計測を行い、生残日数には温度依存性があること 20°C では1ヶ月以上生残できることが確認されている。また、マシジミを用いて二枚貝の体内の有機酸濃度を計測する手法の検討も行った。二枚貝体内の有機酸濃度は低酸素耐性の仕組みを解明する手がかりとなる。2004年度は予備実験の年に当たり、2005年は低酸素耐性の計測と代謝の解明を琵琶湖産の主な二枚貝数種類に拡大して実施する予定である。

なお、2004年度には、2002-2003年度に行った琵琶湖南湖における沈水植物の観測結果をまとめ、ふたつの学術論文を投稿した。2005年3月現在、原稿の修正に関するやり取りを行っているところである。

印刷物

【専門分野の著作】

岡本高弘・一瀬 諭・藤原直樹・津田泰三・若林徹哉・土肥 誠・加賀爪敏明・山中 直・芳賀裕樹 (2005) 琵琶湖南湖沿岸沈水植物 (水草) 帯における水質形成気候に関する調査結果について. 滋賀県衛生環境センター所報, 39, 滋賀県: 82-87.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

芳賀裕樹 (2004年4月16日) 魚群探知機で沈水植物をモニタリングする. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
芳賀裕樹 (2004年9月18日) 日本陸水学会第69回大会, 日本陸水学会, 新潟大学 (新潟市), [座長]. 芳賀裕樹・芦谷美奈子・松田征也・大塚泰介 (2004年9月20日) 2003年夏の琵琶湖南湖における沈水植物の分布・現存量・群落容積. 日本陸水学会第69回大会, 日本陸水学会, 新潟大学 (新潟市), [ポスター発表].
芳賀裕樹 (2004年12月18日) 博物館は学びの場となりうるのか. 平成16年度琵琶湖博物館研究発表会, 琵琶湖博物館, [コメント].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館共同研究「貝類を指標とした湖底の酸素環境の把握について」(研究代表者: 松田征也), 共同研究者 (2004年4月-2005年3月).
滋賀県衛生環境センター研究調査「琵琶湖南湖沿岸帯における水質形成機構調査」, 共同研究者 (2004年4月-2005年3月).

20年目の琵琶湖調査団「20年目の琵琶湖調査」（研究代表者：石田紀朗），共同研究者（2003年4月～2005年3月）。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本陸水学会，広報幹事，2003年4月～2006年3月。

日本陸水学会，韓日シンポジウムプロシーディングス，査読，1件。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー，琵琶湖博物館，12件。

2004年8月5日，びわ湖を船で体験，観察会，環境セミナー船「みずすまし」，講師（孝橋賢一と共同）。

2004年8月7日，博物館実習，ユニバーサルデザイン実習講師，琵琶湖博物館。

他の博物館・機関等主催行事

2004年5月7日，笠縫東小学校，琵琶湖環境学習，笠縫東小学校（草津市），講師。

2004年7月13日，彦根東高校，SSH，琵琶湖博物館，講師。

2004年8月18日，常盤小学校，琵琶湖博物館，講師。

2004年10月1日，湖上実習，東大津高校，琵琶湖環境学習，琵琶湖，講師。

2004年10月28日，志津小学校，伯母川探検，志津（草津市）。

2004年11月21日，水環境教育のひとつのやり方，守山ロータリークラブ，総会，琵琶湖博物館，講師。

2004年11月25日，琵琶湖の水草について，草津小学校，琵琶湖環境学習，琵琶湖博物館，講師。

2005年1月18日，琵琶湖と水環境教育，JICA研修。

2005年1月22日，琵琶湖の水環境保全政策，外務省NIC青年招聘事業。

2005年2月18日，参加型環境教育について，環境監視研究所，メコンデルタ工業地区の参加型環境保護教育研修，琵琶湖博物館，講師。

2005年3月1日，湖沼実習，JICA研修。

2005年3月6日，琵琶湖水質学習会，NPO法人明るい社会づくり運動滋賀県協議会，環境学習会「家庭排水を考えるツアー」，長命寺（近江八幡市），講師。

メディアへの協力

2004年2月19日，滋賀リビング新聞社，滋賀のユニバーサルデザイン事始め，取材対応，（2005年2月6日取材）。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講演，3回。

【企画調整活動】

展示交流空間更新計画策定，主担当。

中長期基本計画・行動計画策定，共同担当者。

2003年度は、主として専門研究として琵琶湖湖岸域の地域環境管理についての聴き取り調査、文書資料、統計資料などの資料収集等を行った。

また、文部省科学研究費補助金 若手研究（B）課題番号 14710168「日本村落社会における労働の社会学的研究－主観的労働観を通じた再検討と理論化－」（研究代表者：矢野晋吾）の調査で、長野県諏訪郡富士見町の調査と資料整理を行った。

さらに、文部科学省科学研究費補助金 基盤研究（B）（1）課題番号 13610188「コモンズと公共性の環境社会学的研究」（研究代表者：宮内泰介）の共同研究者として、コモンズについてメンバー内での議論を行うと同時に、関連分野の研究者を交えてのディスカッション、沖縄における視察など、コモンズについての議論を深める作業を行った。矢野は、主としてその中で漁業権についての研究を主にコモンズ論の議論に参加した。

2004年度は、専門研究と並行して、主として1993年より行ってきた長野県諏訪郡富士見町における、インテンシブな実証研究をまとめる作業を行った。これは、日本の村落社会における労働の位置づけを考察し、日本社会における労働のあり方を展望するための研究である。具体的には、長期間に渡って現地に住み込み、聞き取り調査を行うのと同時に、各種文書資料類等を収集し、地域のモノグラフも含めて記述した。まず、日本独自の労働形態である「出稼ぎ」に着目し、その先行研究を整理し、新たな定義付けを行った。その上で、「賃労働型出稼ぎ」と「伝統型出稼ぎ」の2つに類型化を行い、先行研究で詳細に論じられていない後者について、村落、家、個人の3つの位相から労働のあり方を論究した。この成果は2004年11月20日発行『村落社会と「出稼ぎ」労働の社会学－諏訪地域の生業セットとしての酒造労働と村落・家・個人－』（御茶の水書房、全312ページ）にまとめた。

また、専門研究の分野では、琵琶湖沿岸域の地域環境管理について、補充調査を行い、その一部をまとめる作業を行った。これは、共同研究者として拝受している文部科学省科学研究費補助金 基盤研究（B）（1）「コモンズと公共性の環境社会学的研究」の研究と並行するもので、ここでは、共同研究者の立場として、各分野の研究者との交流、石川県加賀市の鴨池の坂網猟の視察など、エコトーン的环境管理を考える上で重要な示唆を得た。

それを踏まえて、科学研究費の分担メンバーとして書籍を刊行するべく、これまでの調査・研究のまとめを行い、2004年11月に地域漁業学会で報告を行った。

＝2003年度の業績＝

印刷物

【専門分野の著作】

矢野晋吾（2003）水を押しとどめる文化、ともに移ろう文化－琵琶湖とカンボジア・トンレサップ湖－、*湖国と文化*、27（3）（通巻第104号）、滋賀県文化振興事業団：26-29.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

矢野晋吾（2003年6月19日）琵琶湖沿岸域における環境保全活動の新たな枠組み、琵琶湖博物館研究セミナー、琵琶湖博物館。

【研究プロジェクト等への参加】

文部省科学研究費補助金若手研究（B）課題番号 14710168「日本村落社会における労働の社会学的研究- 主観的労働観を通じた再検討と理論化-」, 研究代表者（2002～2003年度）.

琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖および内湖湖岸における水辺利用に関する研究」, 研究代表者（2003年度）.

文部省科学研究費補助金基盤研究（B）（1）課題番号 15330094「コモンズと公共性の環境社会学的研究」, 研究分担者（2003年度）.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2003年4月1日～, 奈良女子大学文学部2回生～4回生, 環境社会システム学特殊研究.

2003年4月1日～, 奈良女子大学大学院人間文化研究科博士前期課程1回生～2回生, 地域環境社会学特論.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー, 琵琶湖博物館, 6件.

2003年7月7日, 伯母川探検隊, 伯母川（草津市）, 水の生き物採集・分類等指導.

他の博物館・機関等主催行事

2003年5月15日, 滋賀県高等学校理科教育研究会, 滋賀県高等学校理科教育研究会研修, 琵琶湖博物館, 講義.

2003年5月21日, 志津小学校, 琵琶湖博物館, 展示解説・講義.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2003年度, 博物館情報誌「うみんど」企画・編集委員会, 委員.

【館外の活動】

2000年～, 滋賀県琵琶湖環境部 琵琶湖総合保全推進部会 評価システム検討ワーキング, ワーキング担当者.

2000年～, 滋賀県琵琶湖環境部 琵琶湖総合保全推進部会 水辺エコトーン検討ワーキング, ワーキング担当者.

＝2004年度の業績＝

印刷物

【専門分野の著作】

矢野晋吾（2004）村落社会と「出稼ぎ」労働の社会学- 諏訪地域の生業セットとしての村落・村落・家・個人- . 御茶の水書房：312p.

宮内泰介・矢野晋吾・箕浦一哉・菅 豊・荒川 康・赤嶺 淳・関 礼子・金 菱清・近藤隆二郎（2004）「コモンズと公共性の社会学的研究」. 平成15～16年度科学研究費補助金基盤研究（B）（1）（課題番号15330094）研究成果報告書. 宮内泰介（編）, 北海道大学大学院文学研究科地域システム科学講座, 北海道札幌市：109p.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

矢野晋吾（2004年11月5日）漁協新規参入者の類型と漁業権の変質-琵琶湖沿岸漁協の事例から-，地域漁業学会大46回大会，地域漁業学会，長崎大学（長崎市）。

矢野晋吾（2004年11月12日）自由報告セッションE．日本村落研究学会第52回大会，日本村落研究学会，いこいの村潤沼（茨城県鹿島郡），[座長]。

【研究プロジェクト等への参加】

文部科学省科学研究費補助金基盤研究（B）（1）「コモンズと公共性の環境社会学的研究」課題番号：13610188（研究代表者：宮内泰介），共同研究者（2003～2004年度）。

琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖及び内湖湖岸における水辺利用に関する研究」，研究代表者（2004年度）。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本村落研究学会，研究委員，2002年度～（2期目）。

博物館事業に関する業績

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

質問情報の公開に向けての内容整備。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2000年～，滋賀県琵琶湖環境部 琵琶湖総合保全推進部会 評価システム検討ワーキング，ワーキング担当者。

2000年～，滋賀県琵琶湖環境部 琵琶湖総合保全推進部会 水辺エコトーン検討ワーキング，ワーキング担当者。

2004年度は、これまで行ってきた琵琶湖博物館共同研究『カワウ問題』解決に向けての生態学的アプローチ(2001～2004年度、研究代表者：亀田佳代子)の他に、新たに文部科学省科学研究費補助金若手研究(B)「カワウの物質輸送が森林の昆虫相に与える影響の解明」(2004～2005年度、研究代表者：亀田佳代子)、文部科学省科学研究費補助金萌芽研究「コモズとしての森林に生じる鳥獣害問題についての環境社会学的研究」(2004～2005年度、研究代表者：牧野厚史)などの研究プロジェクトが採用された。そのため、2004年度の研究活動は、博物館の共同研究のとりまとめとともに、新たなプロジェクトの準備と調査、そしてその結果の中間報告が中心となった。

6月の琵琶湖博物館総合研究・共同研究報告会では、共同研究の主な成果をとりまとめ、副代表者とともに発表した。また、8月の日本生態学会大会では、一般発表とともに自由集会「生態系エンジニアとしての大型動物-環境改変を介した相互作用とその影響-」の企画・運営を行い、これまで行ってきた研究の位置づけや今後の展開の方向性を検討した。これ以外の研究発信としては、総説論文「ウ類の採食生態における個体変異」が、日本鳥学会誌に掲載された。また5月には、第2回生き物文化誌学会学術大会において、カワウと人間の鳥糞利用との関係を、物質輸送の観点から検討した結果を発表した。博物館活動では、小学校の環境教育の一環として、琵琶湖のカワウとカワウに関する研究成果を紹介したり、各地の内水面漁業関係者からの依頼を受け、カワウの生態や食性に関した講演を行った。引き続き、国や地方自治体の審査会や委員会でも、情報提供や提言を行っている。

これまでの研究成果から、カワウによる森林への養分供給の長期的影響の重要性や、魚類の捕食者としてのカワウの食性や採食行動の多様性を指摘することができた。今後は、これらの指摘を生態学的に検証し、発展させるための研究が必要となる。また、『カワウ問題』を含む生物と人との関わりについては、生態学的側面のみならず、さまざまな視点から研究を行う必要がある。そこで今後は、若手研究(B)として生態学的研究を、萌芽研究として生物と人との関わりに関する研究を、それぞれ発展させていきたいと考えている。若手研究(B)では、2004年度の春から夏にかけて、琵琶湖のカワウ営巣林における調査を精力的に行った。その結果の一部は、2005年3月に行われた日本生態学会で発表された。萌芽研究では、琵琶湖地域との比較のため、愛知県知多半島鶺鴒の山の繁殖地で調査と情報収集を行った。

2004年度は、カワウに限らず琵琶湖の水鳥をあつかった博物館活動もいくつか行った。日本野鳥の会京都支部滋賀ブロックとの共催の観察会や、湖国の鳥を紹介する連載記事の執筆を通して、身近な鳥類の紹介を行った。

印刷物

【学術論文】

亀田佳代子 (2004) ウ類の採食生態における個体変異, *日本鳥学会誌*, 53 (1) : 11-21.

【一般向けの著作】

亀田佳代子 (2005) 湖国の鳥「ヒシクイ (カモ科)」、*あいあいAI 滋賀*, 朝日新聞社 : 2005年1月3日.

亀田佳代子 (2005) 湖国の鳥「コハクチョウ (カモ科)」、*あいあいAI 滋賀*, 朝日新聞社 : 2005年1月12日.

亀田佳代子 (2005) 湖国の鳥「カルガモ (カモ科)」、*あいあいAI 滋賀*, 朝日新聞社 : 2005年1月26日.

亀田佳代子 (2005) 湖国の鳥「マガモ (カモ科)」、*あいあいAI 滋賀*, 朝日新聞社 : 2005年2月2日.

亀田佳代子 (2005) 湖国の鳥「ヒドリガモ (カモ科)」、*あいあいAI 滋賀*, 朝日新聞社 : 2005年2月9日.

亀田佳代子 (2005) 湖国の鳥「コガモ (カモ科)」、*あいあいAI 滋賀*, 朝日新聞社 : 2005年2月23日.

- 亀田佳代子 (2005) 湖国の鳥「ホシハジロ (カモ科)」。あゐあゐAI 滋賀, 朝日新聞社: 2005年3月2日。
- 亀田佳代子 (2005) 湖国の鳥「バン (クイナ科)」。あゐあゐAI 滋賀, 朝日新聞社: 2005年3月9日。
- 亀田佳代子 (2005) 湖国の鳥「オオバン (クイナ科)」。あゐあゐAI 滋賀, 朝日新聞社: 2005年3月16日。
- 亀田佳代子 (2005) 湖国の鳥「カイツブリ (カイツブリ科)」。あゐあゐAI 滋賀, 朝日新聞社: 2005年3月23日。
- 亀田佳代子 (2005) 湖国の鳥「カンムリカイツブリ (カイツブリ科)」。あゐあゐAI 滋賀, 朝日新聞社: 2005年3月30日。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 大園享司・保原 達・亀田佳代子・木庭啓介 (2004年4月2日) カワウ営巣林におけるヒノキ落葉・落枝の分解に伴う有機物と養分の動態. 日本林学会第115回大会, 日本林学会, 東京大学 (東京都文京区), [口頭発表].
- 勝又伸吾・大園享司・武田博清・亀田佳代子・木庭啓介 (2004年4月2日) カワウ営巣林における枯死材の現存量と養分蓄積量. 日本林学会第115回大会, 日本林学会, 東京大学 (東京都文京区), [口頭発表].
- 亀田佳代子 (2004年5月16日) カワウによる水域から陸域への物質輸送と人間の鳥糞利用. 第2回生き物文化誌学会学術大会, 生き物文化誌学会・滋賀県立琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].
- 亀田佳代子・木庭啓介 (2004年6月13日) 『カワウ問題』解決に向けての生態学的アプローチ- カワウの営巣が森林に与える長期的影響を中心に-. 琵琶湖博物館総合研究・共同研究報告会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 亀田佳代子 (2004年8月20日) 生態系エンジニアとしてのカワウ- カワウの繁殖による森林の物理的改変と化学的改変-. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 亀田佳代子・保原 達・木庭啓介・大園享司・寺井雅一 (2004年8月26日) カワウによる森林への窒素供給とその長期的影響. 第51回日本生態学会大会, 日本生態学会, 釧路市観光国際交流センター (北海道釧路市), [ポスター発表].
- 勝又伸吾・大園享司・武田清博・亀田佳代子・木庭啓介 (2004年8月26日) カワウ営巣林における木質リター: 現存量・組成・化学性の変化. 第51回日本生態学会大会, 日本生態学会, 釧路市観光国際交流センター (北海道釧路市), [ポスター発表].
- 亀田佳代子・保原 達・三阪里美・大園享司・石田 朗・小嶋健司 (2004年8月28日) カワウの繁殖による森林の物理的改変と化学的改変 (自由集会「生態系エンジニアとしての大型動物- 環境改変を介した相互作用とその影響-」). 第51回日本生態学会大会, 日本生態学会, 釧路市観光国際交流センター (北海道釧路市), [口頭発表].
- 亀田佳代子・堀 正和・野田隆史・上野裕介 (2004年8月28日) 自由集会「生態系エンジニアとしての大型動物- 環境改変を介した相互作用とその影響-」. 第51回日本生態学会大会, 日本生態学会, 釧路市観光国際交流センター (北海道釧路市), [企画・運営].
- 戸田 孝・亀田佳代子・板倉安正 (2004年10月14日) 琵琶湖赤野井湾の常設赤外線観測にみられる鳥の行動の分析. 日本赤外線学会第14回研究発表会, 日本赤外線学会, 福井大学遠赤外線領域開発研究センター (福井県福井市), [口頭発表].
- 大園享司・勝又伸吾・藤原里美・保原 達・木庭啓介・亀田佳代子 (2004年10月27日) カワウ営巣林における植物リターと窒素・リンの集積. 日本林学会関西支部大会, 日本林学会関西支部, 山口県セミナーパーク (山口県山口市), [口頭発表].
- 亀田佳代子・八尋克郎 (2004年3月28日) カワウの営巣が森林の昆虫相に与える影響: 地上性甲虫類の変化. 第52回日本生態学会大会, 日本生態学会, 大阪国際会議場 (大阪府大阪市), [口頭発表].
- 亀田佳代子 (2004年3月30日) 自由集会「博物館の生態学- 市民と生態学者をいかに近づけるか-」. 第52回日本生態学会大会, 日本生態学会, 大阪国際会議場 (大阪府大阪市), [パネラー].

【研究プロジェクト等への参加】

文部科学省科学研究費補助金若手研究(B)「カワウの物質輸送が森林の昆虫相に与える影響の解明」(研究代表者：亀田佳代子)，研究代表者(2004～2005年度)。

文部科学省科学研究費補助金萌芽研究「コモズとしての森林に生じる鳥獣害問題についての環境社会学的研究」(研究代表者：牧野厚史)，研究分担者(2004～2005年度)。

河川環境整備財団河川整備基金助成「水域から陸域へのカワウの物質輸送が流域森林の昆虫相に与える影響」(研究代表者：亀田佳代子)，研究代表者(2004年6月～2005年5月)。

琵琶湖博物館共同研究「『カワウ問題』解決に向けての生態学的アプローチ」(研究代表者：亀田佳代子)，研究代表者(2001～2004年度)。

琵琶湖博物館専門研究「水域一陸域間の相互作用における鳥類の役割に関する研究」，研究代表者(2001～2004年度)。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本鳥学会，ホームページ委員会委員，2000年1月～2005年12月。

日本鳥学会，企画委員会委員長，2002年1月～2005年12月。

日本鳥学会，奨学賞選考委員会委員，2004年1月～2005年12月。

日本鳥学会員近畿地区懇談会，世話人，2000年1月～2004年12月。

日本生態学会，近畿地区会地区委員，2004年1月～2005年12月。

生き物文化誌学会，第2回生き物文化誌学会学術大会実行委員会委員，2004年1月～5月。

日本鳥学会，日本鳥学会誌，論文の査読，1件。

Nordic Council for Wildlife Research, Wildlife Biology, 論文の査読，1件。

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2004年8月19～23日，京大大学生態学研究センター野外実習，安定同位体比実習/2004 DIWPA Field Biology Course in Lake Biwa Part II.

2004年度後期，滋賀県立大学大学院，生物多様性論(分担)。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー，琵琶湖博物館C展示室，8件。

2004年8月15日，身近な鳥たち，田んぼ体験教室，琵琶湖博物館，講師(杉谷博隆・北川峰男共同)。

2004年12月19日，下物の水鳥を観察してみよう～野外観察と水鳥のお話～，観察会，琵琶湖博物館とその周辺，主担当(日本野鳥の会京都支部滋賀ブロック共催)。

他の博物館・機関等主催行事

2004年6月4日，カワウ，天津市立平野小学校，5年生環境教育「琵琶湖」，平野小学校(滋賀県大津市)，講師。

2004年11月16日，カワウの食性と採食場所選択等について，長野県水産試験場，(社)日本水産資源保護協会巡回教室，明科町公民館(長野県東筑摩郡)，講師。

視察対応

2004年11月11日，カワウ生態研修，静岡県内水面漁場管理委員会，琵琶湖博物館。

メディアへの協力

2004年4月2日, 岐阜放送, Weekly File ぎふ, カワウの増加要因や被害問題について, (2004年4月1日取材).
読売新聞, 琵琶湖のカワウ増加要因や今年度の対策について, (2004年4月30日取材).
京都新聞, カモの種類について, (2004年5月28日取材).
フジテレビ, カラスの知能について, (2004年5月27日取材).
2004年7月15日, 朝日放送, News ゆう, 琵琶湖でのカワウの現状と対策について調査地の撮影とインタビュー,
(2004年6月17, 30日取材).
読売新聞, 朽木村で保護されたオオミズナギドリについて, (2004年10月29日取材).
2004年11月15日, 京都新聞, リレーコラム淡海から, 琵琶湖のカワウについて, (2004年11月10日取材).
京都新聞, 読者からの写真の鳥について, (2004年11月25日取材).
NHK 大津支局, 季節の鳥類について, (2004年12月1日取材).
2004年12月7日, びわ湖放送, びびっとびわこ&TV+1, 琵琶湖の水鳥と野鳥の観察方法について電話出演, (2004
年12月7日取材).
2005年2月18日, しんぶん赤旗, びわ湖の鳥たち7, 琵琶湖のカワウについて, (2005年2月4日取材).
2005年4月号, 日本へら鮎釣研究会, 日研ニュース「この人に聞く」, カワウの現状や食性について, (2005年3
月4日取材).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

鳥類本剥製標本および骨格標本の製作, 手続き, 16件.
鳥類仮剥製標本の製作, 指導, 14件.
鳥類標本の提供受入, 手続き, 4件.
鳥類標本の整理・登録, 指導, 198件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー, 講義, 3回.
展示交流員と話そう (竹生島のカワウ), 内容指導.
展示交流員と話そう (ユリカモメ), 内容指導.
展示交流員と話そう (水鳥あれこれ “カイツブリとユリカモメ”), 内容指導.

【企画調整活動】

中長期基本計画の策定, 計画の検討・策定.

【研究部関連事業】

研究セミナー, 主担当の補助.
研究施設、備品等の管理, 主担当の補助.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

1997年4月1日～2006年3月31日, 京大大学生態学研究センター, 協力研究員.
2001年7月17日～2005年8月31日, 滋賀県大津市, 大津市環境影響評価専門委員会, 委員.
2002年2月15日～2005年2月14日, 滋賀県環境影響評価審査会, 委員.

2003年5月1日～2005年3月31日, 滋賀県移入種問題検討委員会, 委員.

2003年7月1日～2006年3月31日, 滋賀県生きもの総合調査, 専門委員.

2003年7月1日～2005年3月31日, 国土交通省国営武蔵丘陵森林公園, カワウねぐら保護管理検討委員会, 委員.

2004年4月1日～2006年3月31日, 滋賀県カワウ対策検討会, 委員.

2004年10月1日～2005年3月31日, 林野庁近畿中国森林管理局, 伊崎国有林の取扱いに関する検討におけるワーキンググループ, 委員.

内容が多岐にわたっているため、主な研究分野を3つに大別して簡潔に記す

[珪藻の計量形態学]

珪藻殻の形態を定量的に記述するために2つのモデルを提起した。

1. 多変量対数正規モデル：珪藻の殻長、殻幅、条線密度、胞紋密度などの量的形質の同時分布を、多変量対数正規分布に近似するモデル。
2. 円弧構成モデル：珪藻の殻外形を、互いに接する円弧の組み合わせとして表現するモデル（共同研究者である有田重彦氏の発明）。

多変量対数正規モデルの妥当性を、*Encyonema leei* (Krammer) comb. nov. について検証し、論文化した。また、円弧構成モデルの妥当性を *Navicula* 属珪藻 10 種について検証し、これも論文化した。

頂軸および切頂軸について対称な珪藻の写真から、円弧構成モデルのパラメータ（円弧の半径など）を半自動的に計算するプログラムを作成した。このプログラムにより、日本産 *Navicula viridula sensu lato* の外形のパラメータを算出し、クラスター分析および判別分析にかけたところ、7 種をほぼ外形の情報だけで判別できることがわかった。

[珪藻フロアの解明]

琵琶湖博物館の過去の研究で採集された試料、および「たんさいぼうの旅」の参加型調査により採集された試料に基づき、琵琶湖産羽状目珪藻の同定・整理を進めている。中井大介氏とともに、現在までにおよそ 250 種を同定した。

1999 年から行ってきた、干拓以前の諫早干潟の珪藻に関する論文をようやくまとめることができた（印刷中）。この論文の中で、1 種の新種記載、および 1 種の新組み合わせを行った。

他にも、南極湖沼でコケ坊主を形成する珪藻、北部ラオスの水田の珪藻、大分県大分川の珪藻などを調べた。

[付着藻類群集の発達過程に関する実験]

中井大介氏とともに、付着藻類群集の発達に及ぼす濁りの影響を、琵琶湖博物館の実験水路を用いて調べている。2003 年度末に開始した予備実験は、様々な理由によりしばしば頓挫した。しかし 2005 年初頭までに、ポンプの交換や冷水機の導入による水路環境の整備、珪酸肥料の投入による珪酸欠乏の解消、走査型電子顕微鏡による観察に適した付着器物の選択など、実験の基盤整備が全て完了した。2005 年 2 月より本実験に入っており、現在データを取得中である。

印刷物

【学術論文】

大塚泰介・桑原靖典・芳賀裕樹（2004）琵琶湖南湖における沈水植物群落の分布および現存量- 魚群探知機を用いた推定- . 陸水学雑誌, 65 (1), 日本陸水学会 : 13-20.

Ohtsuka, T., Hanada, M. & Nakamura, Y. (2004) SEM observation and morphometry of *Encyonema leei* (Krammer) nov. comb. *Diatom*, 20, 日本珪藻学会 : 145-151.

有田重彦・大塚泰介（2004）円弧構成モデルによる *Navicula* 殻外形の記述. *Diatom*, 20, 日本珪藻学会 : 191-198.

【一般向けの著作】

- 大塚泰介・大川 聡 (2004) 特集「ミクロの世界を探検しようー プランクトンの不思議ー」プランクトンの親子のつながり. うみんど, 33, 琵琶湖博物館: 2-3.
- 大塚泰介・大川 聡・楠岡 泰 (2004) 琵琶湖博物館ギャラリー展示「ミクロの世界を探検しようー プランクトンの不思議ー」パンフレット. 琵琶湖博物館: 8p.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 有田重彦・大塚泰介 (2004年5月16日) *Navicula* の殻外形は全て円弧で構成される. 日本珪藻学会第25回大会, 日本珪藻学会, 産業総合研究所 (茨城県つくば市), [ポスター発表].
- 藤田裕子・大塚泰介 (2004年9月20日) 北部ラオスの水田に生息する藻類群集. 日本陸水学会第69回大会, 日本陸水学会, 新潟大学 (新潟県新潟市), [口頭発表].
- 芳賀裕樹・芦谷美奈子・松田征也・大塚泰介 (2004年9月20日) 2003年夏の琵琶湖南湖における沈水植物の分布・現存量・群落容積. 日本陸水学会第69回大会, 日本陸水学会, 新潟大学 (新潟県新潟市), [ポスター発表].
- 高橋鉄美・大塚泰介・矢部 衛・遠藤広光・篠原現人・背能 宏・林 洋平・松浦啓一 (2004年9月25日) 統計的手法を用いた計数形質および質的形質による魚類の種同定. 2004年度日本魚類学会年会, 日本魚類学会, 琉球大学 (沖縄県西原町), [ポスター発表].
- 大塚泰介 (2004年10月12日) 海の底棲珪藻を環境指標として用いるために何が必要かー諫早干潟の1本の珪藻試料から考えるー. シンポジウム「人為的な沿岸環境擾乱の指標としての生物ー過去の環境変動に対する古生物の応答に関する研究からの提言ー」, 日本学術会議古生物研究連絡委員会・地質研究連絡委員会・第四紀学専門委員会, 日本学術会議大会議室 (東京都港区), [口頭発表].
- 大塚泰介 (2005年2月18日) 干拓前の諫早干潟でみつかった珪藻数種. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 大塚泰介・有田重彦・中井大介・戸田 孝 (2005年3月28日) 円弧構成モデルにもとづく *Navicula viridula sensu lato* の計量形態学的解析. 日本藻類学会第29回大会, 日本藻類学会, 京都大学 (京都府京都市), [ポスター発表].

【インターネットページでの公表】

- 有田重彦・大塚泰介 (2005年3月27日) 円弧構成モデルー珪藻の殻外形を定量的に記述するための新手法ー. <http://www.lbm.go.jp/ohtsuka/arc-constitute/arc-constituteJ.html>, 琵琶湖博物館.

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「付着藻類の群集構造に影響を及ぼす環境要因の実験的検証」, 研究代表者 (2004年度).
- 琵琶湖博物館共同研究「珪藻電子図鑑の増補改良」(研究代表者: 大塚泰介), 研究代表者 (2004年度).
- 科学研究費補助金事業「魚類の数値データを用いた同定ツール作成の研究」(研究代表者: 松浦啓一), 研究分担者 (2004年度).
- 科学研究費補助金事業「河床生態系における微生物ループと生食連鎖とのリンク」(研究代表者: 中野伸一), 研究分担者 (2004年度).
- 総合地球環境学研究所研究プロジェクト「アジア・熱帯モンスーン地域における地域生態史の統合的研究」, 研究協力者 (2004年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本珪藻学会, Diatom, 編集委員, 2004年度.

日本珪藻学会, Diatom, 査読, 2004 年度・2 件.
日本陸水学会, Limnology, 査読, 2004 年度・1 件.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2004 年度, 滋賀県立大学環境科学部 2 回生, 講義「環境統計学」.
2004 年度, 東北大学農学研究科博士課程 1 回生 (小林紀子), 技術指導と助言.
2004 年度, 京都大学農学研究科修士課程 1 回生 (中井大介), 技術指導と助言.
2004 年 5 月 24 日～6 月 12 日, ソウル大学地球環境科学研究科修士課程院生 (朴鎮淳), 珪藻の同定に関する研修の受入.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー, 琵琶湖博物館, 11 件

はしかけ: たんさいぼうの会, 調査旅行 2 回、総会 3 回, ニュースレター記事執筆 12 回, 研究相談など約 40 回.
2004 年 11 月 21 日・2005 年 1 月 23 日・2 月 19 日・3 月 5 日, プランクトンの模型を作ろう, 体験学習, 実習補助,
(谷口雅之, 楠岡 泰, 青木伸子, 大川 聡と共同).

他の博物館・機関等主催行事

2004 年 7 月 14 日, プランクトンの観察, 彦根東高等学校, 体験学習, 琵琶湖博物館, 実習講師, 2 件.

2004 年 7 月 26 日, プランクトンの観察, 滋賀のプランクトン研究会, 研修, 琵琶湖博物館, 実習補助, (楠岡 泰,
谷口雅之と共同).

2004 年 10 月 1 日, プランクトンの観察, 東大津高等学校, 体験学習, 琵琶湖博物館, 実習講師 (谷口雅之と共同).

視察対応

2005 年 3 月 16 日, ギャラリー展示の案内, 琵琶湖博物館協議会委員, 琵琶湖博物館.

2005 年 3 月 30 日, 常設展示およびギャラリー展示の案内, 日本藻類学会, 琵琶湖博物館.

【情報整備活動】

他博物館・機関の活動

滋賀県立大学, 環境統計学の講義ノート (2004 年度版), 講義ノートの作成と公開, 13 件.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

付着微小生物試料, 受入, 2 件 22 点.

珪藻顕微鏡写真, 撮影および受入, 7 件約 4,000 点.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2004 年 12 月 23 日～2005 年 4 月 10 日, ギャラリー展示「ミクロの世界を探検しようー プランクトンの不思議ー」,
展示物の作成および運営.

モーニングレクチャー, 講義, 3 回.

2004 年 8 月 3～24 日, 展示交流員向け研修「珪藻に親しむ」, 講義, 4 回.

【研究部関連事業】

日本学術振興会国際交流事業，電子申請担当者，2004 年度.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2004 年度，島根大学汽水域研究センター，協力研究員.

琵琶湖の烏丸半島から、カイミジンコを 10 種採集した。それらは *Cypridopsis biwaensis*, *Physocypria biwaensis*, *Physocypria nipponica*, *Darwinula stevensoni*, *Ilyodromus intermedia*, *Fabaeformiscandona japonica*, *Fabaeformiscandona holzkampfi*, *Vestalenula* sp., *Candonopsis* sp., と *Schellencandona* sp. であり、そのうち *Vestalenula* sp., *Candonopsis* sp., と *Schellencandona* sp. は琵琶湖での新しいレコードである。

金沢の池で採集した *Fabaeformiscandona* の 3 種を研究中である。そのうち 1 種は新種であり、その生体と成長を含めて記述をしている。この研究は金沢大学の神谷教授と共同で行っている。

北海道のカイミジンコについても研究中である。昨年 9 月に北海道に行き、サンプルを採集し、次年度はその分析を行う。Superfamily Terrestriocytheroidea を含むこの 4 種は日本での新しいレコードである。この研究は北海道教育大学の蛭田教授と金沢大学の神谷教授と共同で行っている。

印刷物

【学術論文】

- Smith, R. J., Kamiya, T., Horne, D. J. & Tsukagoshi, A. (2005) Evaluation of a new character for the phylogenetic analysis of Ostracoda (Crustacea) : the podocopan maxillular branchial plate. *Zoologischer Anzeiger*, 243 : 139-153.
- Smith, R. J. & Tsukagoshi, T. (2005) The ontogeny and musculature of the antennule of podocope ostracods (Crustacea). *Journal of Zoology*, 265 : 157-177.

【これまでの業績集に掲載されていない著作】

- Smith, R. J. & Martens, K. (1996) On *Eucypris Virens* (Jurine, 1820) . *Stereo Atlas of Ostracod Shells*, 23 (14) : 61- 68.
- Smith, R. J. (1999) Possible ostracods eggs from the Cretaceous of Brazil. *Journal of Micropalaeontology*, 18 : 81- 87.
- Smith, R. J. (2000) The morphology and biology of the upper lip of Cyprididae ostracods. *Hydrobiologia*, 418 : 169- 184.
- Smith, R. J. & Martens, K. (2000) The ontogeny of *Eucypris virens* (Cyprididae, Ostracoda) . *Hydrobiologia*, 419 : 31- 63.
- Smith, R. J. (2000) Morphology and ontogeny of Cretaceous ostracods with preserved appendages from Brazil. *Palaeontology*, 43 (1) : 63- 98.
- Smith, R. J. & Kamiya, T. (2001) The first record of an Entocytherid Ostracod (Crustacea : Cytheroidea) from Japan. *Benthos Research*, 56 (2) : 57- 61.
- Hiruta, S. & Smith, R. J. (2001) Living Freshwater and Shallow marine Ostracoda in Eastern Hokkaido, Japan (Field excursion E) : 107- 125. In: *Guidebook of Excursions of the 14th International Symposium on Ostracoda* (ed. Ikeya, N.) . Shizuoka, Japan : 147 p.
- Smith, R. J. & Kamiya, T. (2002) The ontogeny of *Neonesidea oligodentata* (Bairdioidea, Ostracoda,

- Crustacea) . *Hydrobiologia*, 489 : 245- 275.
- Smith, R. J., Matzke-Karasz, R., Kamiya, T. & Ikeda, Y. (2002) *Scottia birigida* sp. nov. (Cypridoidea: Ostracoda) from western Honshu, Japan and a key to the subfamily Scottiinae Bronstein, 1947. *Zootaxa*, 126 : 1- 20.
- Smith, R. J. & Kamiya, T. (2003) The ontogeny of *Loxoconcha japonica* Ishizaki, 1968 (Cytheroidea, Ostracoda, Crustacea) . *Hydrobiologia*, 490 : 31- 52.
- Smith, R. J. & Kamiya, T. (2003) Three brackish water ostracods (Crustacea) from Okayama Prefecture, Japan, *Species Diversity*, 8 (1) : 79- 91.
- Smith, R. J. & Hiruta, S. (2004) A new species of *Metacypris* (Limnocytherinae, Cytheroidea, Ostracoda, Crustacea) from Hokkaido, Japan. *Species Diversity*, 9 : 37- 46.
- Matzke-Karasz, R, and Smith, R. J. (2004) *Cyclocypris diebeli* Absolon, 1973 (Ostracoda, Crustacea) , extinct in Europe, extant in Japan, *Journal of Natural History*, 38 (13) : 1635- 1663.
- Horne, D. J., Smith, R. J., Whittaker, J. E. & Murray, J. W. (2004) The first British record and a new species of the superfamily Terrestricytheroidea (Crustacea, Ostracoda) : morphology, ontogeny, lifestyle and phylogeny. *Zoological Journal of the Linnean Society*, 142 : 253- 288.
- Smith, R. J. & Horne, D. J. (2004) The first British record of *Paralimnocythere psammophila* (Flössner, 1965) (Ostracoda, Cytheroidea, Limnocytheridae) . *Journal of Micropalaeontology*, 23 : 133- 134.
- Horne, D. J., & Smith, R. J. (2004) First British record of *Potamocypris humilis* (Sars, 1924) , a freshwater ostracod with a disjunct distribution in northern Europe and southern Africa. *Bollettino della Società Paleontologica Italiana*, 43 (1-2) : 297- 306.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- Smith, R. J. (2005年3月2日) Japanese Freshwater Ostracods: habitats and distributions. COE Symposium, Kanazawa University (石川県金沢市), [口頭発表].

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

視察対応

- 2005年2月23日, Introduction to the Lake Biwa Museum, and Environmental Problems associated with Economic Development, 立命館大学, 琵琶湖博物館.

メディアへの協力

- 2004年12月9日, 関西地方促進のビデオに出演, 博物館の船からカイミジンコを採集.
- 2005年1月6日, 朝日新聞, 近江万国往来図- 交流編2 滋賀で活躍する外国人「母なる湖」に研究の輸水質改善技術 母国で生かす, インタビュー, (2004年12月15日取材).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

- ギャラリー展示「ミクロの世界を探検しようー プランクトンの不思議ー」のためのカイミジンコの写真を撮映.

I worked on three main zoological topics during the past fiscal year: 1) a survey of Acanthocephala parasitic in Lake Biwa area fishes, 2) diversity and life history of Facetotecta ('y-larvae') from marine plankton in Okinawa, and 3) large branchiopod crustaceans of rice paddies.

- 1) Surveys conducted at the Lake Biwa Museum between 1997 and 2001 had revealed six species of Acanthocephala (spiny-headed worms) infesting the fishes of the lake's watershed. Preparation of a 3-author manuscript concerning the species known from earlier literature, including reconfirmation of the identity of cystacanth-stage juveniles, was very time-consuming, but it has at last been submitted for publication.
- 2) I am studying facetotectan y-larvae as part of a mainly Danish-funded research project. Although these larvae are abundant and very diverse (more than 40 undescribed kinds in Okinawan samples alone), the adult crustaceans that give rise to them are unknown. In October, together with zoologists from the University of Copenhagen and the University of the Ryukyus, I went to a marine laboratory at Sesoko Island in Okinawa. We caught and raised many y-larvae to the cypris-y stage and exposed them to crustacean molting hormone in order to force metamorphosis. In some cases this succeeded. To document the species used in the experiments, and to assist in morphological study of the new stage, I was invited to the University of Copenhagen for three weeks in February. We will announce these findings at the 6th International Crustacean Congress in July, 2005.
- 3) I made several field trips to confirm the distributions of large branchiopod (particularly clam shrimp) species in Japan, namely to Gifu, Kyoto, Yamaguchi, and Ehime Prefectures (a survey in Aichi Prefecture was fruitless). I also identified specimens collected in an Osaka Museum of Natural History-based survey of the Nara Basin, *Cyclestheria* clam shrimp from Cambodia, and specimens received from several other Japanese localities. I sent tadpole shrimp from various places in Japan to collaborators in Mexico for morphometric and molecular systematic study, and specimens of the clam shrimp *Lynceus* to researchers in the U.S. and Australia for studies of thoracic leg structure and molecular systematics. In August I took part in the 5th International Large Branchiopod Symposium, held in Australia.

Besides this, I also collaborated on manuscripts concerning an undescribed genus of monstrilloid copepods, larvae of Russian species of the ascothoracidan crustacean genus *Dendrogaster*, and the description of a new species of Myzostomida from Australia. Only the last of these was finished and submitted for publication, along with a short, co-authored introduction to the Ascothoracida for a treatise on marine parasites. Finally, at the Seto Marine Biological Laboratory I made drawings of early nauplius larvae of two species of parasitic lepadomorph barnacle.

平成 16 年度における私の動物学研究の主要テーマは、以下の 3 つである。1) 琵琶湖水域の魚類に寄生する鉤頭虫の調査、2) 沖縄の海洋性プランクトンから得た甲殻類彫甲類 (y 幼生) の多様性と生活史の研究、3) 田んぼに生息する大型鰓脚類の研究。

- 1) 1997 年から 2001 年に琵琶湖博物館で行った研究によって、琵琶湖水域の魚類に寄生する鉤頭虫の 6 つの種が明らかになった。過去の文献に書かれていた種に関する 3 人の共著による論文の執筆と、シストアカンス幼虫の同定を再確認する作業に多くの時間を費やしたが、何とか論文を投稿することができた。
- 2) 現在、主にデンマークからの資金による研究プロジェクトの一環として、彫甲類の y 幼生の研究を行っている。

これらの幼生は大量かつ多様であるが（沖縄の標本だけでも未記載のものが40以上ある）、それらの元となる成体についてはわかっていない。10月に、コペンハーゲン大学および琉球大学の動物学者と共に沖縄の瀬底島にある琉球大学の実験所を訪れ、多くのy幼生を採集した。それらをキプリス幼生段階まで飼育し、脱皮ホルモンを与えて変態を促した。この試みのいくつかは成功した。実験に用いた種を記録し、新たな成長段階の形態学研究を手伝うために、2月にコペンハーゲン大学から3週間にわたって招かれた。この成果を2005年7月の第6回国際甲殻類大会で発表する予定である。

3) 日本における大型鰓脚類（特にカイエビ）の分布を確認するため、岐阜、京都、山口、愛媛で野外調査を行った（愛媛県で行った調査は成果がなかった）。また、奈良盆地において大阪市立自然史博物館の調査グループが採集した標本やカンボジアから送られてきたマルカイエビ、日本の他府県からの標本などを同定した。メキシコの共同研究者の形態計測・分子系統学研究のために日本各地で採集されたカブトエビを送り、米国とオーストラリアには胸部脚構造の研究と分子系統学研究のためにタマカイエビを送った。8月にはオーストラリアで開かれた第5回国際大型鰓脚類大会に出席した。

このほか、橈脚類モンストリラ亜目の未記載の属、囊胸類シダムシ属のロシア種の幼生、およびオーストラリア産の吸口虫綱の新種の記載に関する共同論文を執筆した。このうち最後の一編のみが完成して投稿した。また、海洋性寄生虫に関する本のために共同で書いた囊胸類についての短い紹介文も投稿した。最後に、瀬戸臨海実験所において、寄生性フジツボ類のハダカエボシ亜目トサカエボシ属の2種の初期ノープリウス幼生の描画を行った。

印刷物

【学術論文】

Olesen, J. and Grygier, M. J. (2004) Larval development of Japanese ‘conchostracans’: part 2, larval development of *Caenestheriella gifuensis* (Crustacea, Branchiopoda, Spinicaudata, Cyzicidae), with notes on homologies and evolution of certain naupliar appendages within the Branchiopoda. *Arthropod Structure & Development*, 33 : 453-469.

Timoshkin, O. A., Grygier, M. J. and Kawakatsu, M. (2004) New and rare taxa of Turbellaria Prorhynchida from Lake Baikal (Russia) and Lake Biwa (Japan), with short notes on their ecology. Timoshkin, O. A. (ed.), *Index of Animal Species Inhabiting Lake Baikal and its Catchment Area*. Vol. 1. *Lake Baikal*. Book 2. “Nauka”, Novosibirsk : 1279-1302 [ロシア語と英語].

【専門分野の著作】

Amin, O. M.・Grygier, M. J.・長澤和也 (2004) 琵琶湖とその集水域における魚類に寄生する鈎頭虫相と Quadrigyridae 科の日本初記録 *Acanthosentis* 亜属の2新種について. *タクサ* (日本動物分類学会誌), 17 (50).

【一般向けの著作】

楠岡 泰・マーク J グライガー (2004) はしかけによる「田んぼの生きもの調査」マニュアル. 琵琶湖博物館, 草津 : 10 p.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表など】

Amin, O. M., Grygier, M. J. and Nagasawa, K. (2004年5月22日) *Acanthocephala* parasitic on fishes in the Lake Biwa Basin, Japan, including two new species of *Acanthosentis*, the first records of this subgenus

- of Quadrigyridae in Japan. 日本動物分類学会第40回大会, 千葉県立中央博物館 (p. 21-22) .
- Grygier, M. J., Høeg, J. T. and Fujita, Y. (2004年6月29日) Introduction to the tremendous diversity of y-larvae (Crustacea: Maxillopoda: Thecostraca: Facetotecta) in inshore coral reef plankton at Sesoko Island, Okinawa, Japan. 10th International Coral Reef Symposium, Okinawa Convention Center (Okinawa, Japan) (p. 242) .
- Grygier, M. J. and Kusuoka, Y. (2004年8月19日) Distribution of clam shrimps in Japan, based on new surveys and literature. 5th International Large Branchiopod Symposium (Toodyay, Australia) (p. 22) .
- Obregón-Barboza, H., Maeda-Martínez, A. M., Murugan, G., Timms, B. V., Grygier, M. J., Rogers, C., Rodriguez-Alvarez, G. and Dumont H. J. (2004年8月20日) Morphology and phylogenetic implications of the mystax, an undescribed male dimorphic structure, in Notostraca (Branchiopoda). 5th International Large Branchiopod Symposium (Toodyay, Australia), (p. 25) .
- Murugan, G., Maeda-Martínez, A. M., Obregón-Barboza, H. and Grygier, M. J. (2004年8月20日) Molecular analysis of Japanese *Triops* populations with the mitochondrial gene 12S rRNA. 5th International Large Branchiopod Symposium (Toodyay, Australia), (p. 29) .
- Grygier, M. J. (2005年3月29日) Alien parasites of freshwater fishes in Lake Biwa. 第52回日本生態学会大会. 公募シンポジウム「フィールドの寄生虫生態学2. 寄生虫の外来種問題」. 大阪国際会議場 (大阪市), (p. 106, S10-1号) .
- マーク ジョセフ グライガー (2004年10月10日) 大和川集水域におけるカブトエビ・カイエビ類の分布と生態. 大和川付け昔え300周年記念シンポジウム「日本の川の自然と大和川」. 大阪市立自然史博物館 (大阪市) .
- Grygier, M. J. (2004年6月12日) たんぼにおける大型鰓脚類 (ハウネンエビ・カブトエビ・カイエビ類) に関する研究. 2004年度 総合・共同研究報告会, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), (p. 8-13) .
- マーク・J・グライガー (2004年11月19日) 琵琶湖の鈎頭虫相について. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館.
- Grygier, M. J. (2004年11月27日) 水田の大型鰓脚類. 琵琶湖博物館研究発表会「一ふるさとのみず辺について、ともに考えましょう」. 水辺移行帯 - 生き物と人びとの暮らし -. 新旭里山体験交流館「もりっこ」 (滋賀県新旭町), (p. 10-12) .
- マーク・ジョセフ・グライガー (2004年12月18日) 平成16年度 琵琶湖博物館研究発表会「博物館は学びの場となりうるのか」. 琵琶湖博物館, [司会進行・タイムキーパー].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館総合研究「博物館資料の収集・整理・保管と利用に関する研究」(研究代表者: 八尋克郎), 研究協力者 (2001年-2004年度).
- 琵琶湖博物館申請専門研究「甲殻類のミジンコ亜綱およびアゴアシ亜綱の分類、個体発生、分布に関する研究」, 研究代表者 (2004年度).
- (デンマーク) コペンハーゲン大学生物学研究所 細胞生物学・比較動物学科, J. T. Høeg 博士 (研究代表者), Carlsberg Foundation Grant ANS-0998/10 「Biologi og morfologi af “Y” larver: Et 100 år gammelt mysterium.」, 共同研究者 (2003年-2005年).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本動物分類学会, Species Diversity, Editorial Consultant.
- 日本ベントス学会, Japanese Journal of Benthology (日本ベントス学会誌), 編集委員 (English editor).
- 日本付着生物学会, Sessile Organisms, 編集委員 (English editor).
- Zoological Institute, Russian Academy of Sciences. Zoosystematica Rossica. [International Advisory Board].

沖縄生物学会, 沖縄生物学会誌, 査読, 1 件.

Polish Academy of Science, Acta Geologica Polonica, 査読, 1 件.

Magnolia Press, Zootaxa, 査読, 2 件.

【受賞など】

渦虫類: *Reutereilla grygieri* Timoshkin, 2004 [*Index of Animal Species Inhabiting Lake Baikal and its Catchment Area*. Vol. 1. Lake Baikal. Book 2, p.1344-1491. 新種の記載で献名される.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス活動】

琵琶湖博物館の主催行事

はしかけ: 田んぼの生き物調査グループ, 副担当.

2004年9月28日, JICA 大阪国際センター博物館学集中コース, 資料の整備、方法と理論, 講師.

2005年1月16日, 世界に広がる研究の展開, 平成16年度琵琶湖博物館連蔵講座「琵琶湖博物館の自己紹介 - 博物館の使い方・楽しみ方 - 」, 琵琶湖博物館, (p.3-7).

視察対応

2004年4月8日, 視察対応, JICE 東京国際センター. JICA のイラン湿地環境管理コース.

2004年4月27日, 視察対応, ミシガン州立大学連合日本センターの「環境学」インターン.

2004年5月13日, 視察対応, ミシガン大学フrint校.

2004年5月19日, 視察対応, ミシガン州立大学連合日本センター15周年記念事業参加者.

2004年6月9日, 研修会, JICA 集団研修「持続的増養殖開発コース」.

2004年7月2日, 視察対応, 第16年度滋賀県高校生海外相互派遣事業.

2004年7月9日, 視察対応, 能登川町教育委員会. カナダ・テーバー町との交流事業.

2004年8月25日, 視察対応, 大阪大学の環太平洋大学公開 (APRU) 第5回 Fellows Program.

2004年10月2日, 視察対応, 浅井町. オーストラリア・ウエントワース町の使節団.

2004年10月7日, 視察対応, 滋賀県立大学環境科学部. 文部省科研費「アジア型直接支払制度の展望- スイス・日本・韓国の比較制度分析から - 」の来日研究者.

2004年11月10日, 視察対応, 環境省環境調査研修所. JICA 集団研修「水環境モニタリングコース」.

2004年11月10日, 視察対応, JICA 北海道国際センター. 平成16年度集団「地域環境保全技術」コース.

2004年11月12日, 視察対応, 北九州国際技術協力協会 第5回「生活排水対策コース」.

2004年11月30日, 視察対応, 第1回びわこバイオ国際セミナーの講師.

2004年12月14日、17日, 研修会, UNEP- IETC. 「イラク湿地環境管理支援のための水質管理研修」.

2005年3月23日, 視察対応, JICE 北海道支店 (帯広) 平成16年度「ゼロ・エミッション型農業・農村環境システム」コース.

メディアへの協力

2005年1月6日, 朝日新聞 滋賀版, 近江万国往来図- 交流編2 滋賀で活躍する外国人「母なる湖」に研究の輸水質改善技術 母国で生かす, インタービュー, (2004年12月15日取材).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の資料整備活動

無脊椎動物 (ミズダニの1種のパラタイプ標本・カイアシ類の1種のホロタイプ標本を含む), 受入22件 (262点).

他博物館・機関の活動

(米国) Institute of Parasitic Diseases, 鉤頭虫 12 点, 研究依頼.

(米国) EcoAnalysts, Inc, ホウネンエビ 1 点, 研究依頼.

福岡教育大学, 線虫 1 点, 特別観覧.

大阪市立自然史博物館, 奈良県大和川水域産の大型鰓脚類 (カブトエビ・ホウネンエビ・カイエビ類) の同定, 2004 年度の大和川・奈良盆地調査.

大阪市立自然史博物館, 滋賀県産大型鰓脚類 (アメリカカブトエビ・ホウネンエビ・カイエビ類 3 種) 5 点の提供.
弘前大学, カンボジア産のマルカイエビ (*Cyclestheria hislopi*) 7 点の同定確認, Grant-in-Aid for International Scientific Field Research 2003-2005 (15405004): Evaluation of Mechanisms Sustaining the Biodiversity of Lake Tonle Sap, Cambodia "Tonle Sap EMSB" Programme.

【展示活動】

琵琶湖博物館の展示活動

常設展示「琵琶湖博物館研究最前線」のパネル更新.

第 15 回水族企画展示「植物のある暮らしー 水性植物と憩いの空間ー」のガイドブック「近江で見られる水草 フールドガイドブック」の英語編集.

【企画調整事業】

国際交流, 主担当, 2004 年度

館内人事、館外活動等に関すること

【館外の活動】

(米国) ロサンゼルス郡立自然史博物館資料・研究部 (無脊椎動物学研究科), 協力研究員.

(米国) スミソニアン研究所国立自然史博物館 (生物体系学研究部無脊椎動物研究科), 協力研究員.

総ての人に、役に立つ博物館資料作りを目標にしています。また、自然の神秘、巧妙さに惹かれ、様々な事柄に興味を持つ人を少しでも増やしてゆきたいと考えています。そこで普通は余り考えられていない魚の鳴き声を調べたり、更に、できるだけ多くの人に水生生物に対する正しい知識を持って欲しく、有志を集め県内河川の魚類や水生昆虫など水生生物の調査を行っています。

本年度は、前年度に引き続き、外来魚の解剖と調理を通して生物科学だけでなく文化的側面にも照準を合わせ多面的に生物と人の関わりを学ぶ手法を模索しています。子どもたちばかりでなく、大人も外来魚に対する先入観が強く、マイナスの意識をなかなか払拭できません。しかし、調理することにより、同じ琵琶湖の恵みを受けた生物であることを認識します。また味覚を通して、むやみに廃棄するものではなく、積極的に利用する方がどれだけ環境や生物に優しいかを知ることができます。調理中には、オオクチバスやブルーギルの所属するスズキ目魚群が硬骨魚類の中でも骨質化が進んでいる点や琵琶湖の魚にない特徴を備えることなどを体験的に学習できました。単に調理するのではなく、生物学を通してこの機会に伝えることができるものがあることが分かります。また、切れ味の落ちた包丁を砥石で研ぐ様を見た子どもたちは、そのようにして再生利用ができることを初めて知ったと驚いていました。逆に、現代では刃物も使い捨て時代で、砥石を知らない子どもがいることに驚きました。そこで、日本は世界的に上質な刃物鋼材を生産する国であり、様々な鋼材が作られていることや「もののけ姫」に出てくるたたら製鉄も現存するものである、砥石はプランクトンの堆積物が含まれる石で上等なものは非常に高価であるなど、今後の学習のためのヒントを多く与えることができました。解剖や調理という経験を共にすることにより生じる人のつながりは、展示やプレゼンテーションなどと異なり、単に知識を伝えるだけではなく、歴史や文化の背景にある「こうありたいと願う人の心」についてより強く伝えることができるものだということが確認できました。特に人を育てることが博物館の仕事の一つであることを実感しました。

本年度は、水族企画展担当であるため、本館企画展の主旨を受け、水生植物の展示「植物のある暮らしー水生植物と憩いの空間ー」を行いました。魚類を始めとする水生動物とは、本質的に違いがあるため、栽培展示手法や展示室での表現法など様々な事柄について学ぶところが多い展示でした。展示室の順路について、従来と逆方向の回転方向としたり、風鈴による音の癒し効果を取り入れてみました。また、展覧会後も使用できる体裁で、フィールドガイドブック「近江で見られる水草」を作成しました。その際に撮影した水生植物写真は、全体や細部合わせて2,539カットになり、これを元にWeb版水草図鑑を作成したいと考えています。

印刷物

【一般向けの著作】

- 秋山廣光 (2004) 滋賀の魚「ホトケドジョウ」. 京都新聞: 2004年3月16日.
- 秋山廣光 (2004) 滋賀の魚「ホンモロコ」. 京都新聞: 2004年4月27日.
- 秋山廣光 (2004) 滋賀の魚「ズナガニゴイ」. 京都新聞: 2004年6月22日.
- 秋山廣光 (2004) 滋賀の魚「ビワヒガイ」. 京都新聞: 2004年7月27日.
- 秋山廣光 (2004) 滋賀の魚「ギギ」. 京都新聞: 2004年9月21日.
- 秋山廣光 (2004) 湖国の魚「ビワヒガイ」. あいあいAI 滋賀, 朝日新聞社: 2004年9月22日.
- 秋山廣光 (2004) 湖国の魚「アブラヒガイ」. あいあいAI 滋賀, 朝日新聞社: 2004年9月29日.
- 秋山廣光 (2004) 滋賀の魚「オオクチバス」. 京都新聞: 2004年11月2日.

秋山廣光 (2004) 湖国の魚「ビワヨシノボリ」. *あいあいAI 滋賀*, 朝日新聞社: 2004年11月10日.
秋山廣光 (2004) 滋賀の魚「スナヤツメ」. *京都新聞*: 2004年11月23日.
秋山廣光 (2004) 滋賀の魚「オイカワ」. *京都新聞*: 2004年12月21日.
秋山廣光 (2005) 滋賀の魚「オヤニラミ」. *京都新聞*: 2005年1月18日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

秋山廣光 (2005年1月21日) 博物館に於ける静止画資料の整理と利用 3. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー, 琵琶湖博物館水族展示室, 10件.

2004年8月3日, 魚の飼い方, 生き物飼い方講座, 琵琶湖博物館, 講師.

2004年11月14日, 外来魚調理, JICA 博物館集中コース, びわ湖の魚に親しもう, 琵琶湖博物館, 講師.

2005年1月30日, 博物館が映像を集める理由, 平成16年度連続講座「琵琶湖博物館の自己紹介」, 琵琶湖博物館, 講師.

2005年3月6日, 水族展示の舞台裏, 見学会, 琵琶湖博物館水族展示・飼育バックヤード, 講師, 2件.

他の博物館・機関等主催行事

2004年4月13日, 琵琶湖の環境と生物, 滋賀県立大学環境科学部, 環境フィールドワーク, 琵琶湖博物館, 講師.

2004年4月19日, 淡水生物飼育の実践, NPO 法人蒲生野考現倶楽部, 日野川水族室づくり, しゃくなげ学校 (蒲生郡日野町), 講師.

2004年4月24日, 総会, ぼてじゃこトラスト, 投網教室, ウォーターステーション (大津市南郷), 顧問.

2004年5月18日, 外来魚の解剖調理, 平野小学校, 体験学習, 琵琶湖博物館, 講師.

2004年6月2日, フナと外来魚の解剖, 県立河瀬中学校, 体験学習, 琵琶湖博物館, 講師.

2004年6月13日, 外来魚調理, 栗東第8団カブスカウト隊, びわ湖の魚に親しもう, 琵琶湖博物館, 講師, 2件.

2004年6月17日, 魚と亀の飼い方, 笠縫小学校4年, 琵琶湖博物館, 講師.

2004年6月26日, 琵琶湖の不思議, 長浜市, 平成16年度近江生涯カレッジ長浜校問題発見講座, 長浜市立六荘公民館 (長浜市), 講師.

2004年6月30日, 琵琶湖と生態系, 大阪産業大学人間環境学部, 博物館見学, 琵琶湖博物館, 講師.

2004年7月3日, 琵琶湖の生き物, イオン(株)ジャスコ奈良店, 講義, 琵琶湖博物館, 講師.

2004年7月13日, 環境の話あれこれ, 彦根東高校, 琵琶湖博物館, 講師, 2件.

2004年7月19日, びわ湖の水生動物について, NPO 法人シニア自然大学, 夏期合宿, 琵琶湖博物館, 講師.

2004年7月22日・28日, 琵琶湖探求・魚の解剖実習・魚の生態について, 石部高校, 石部高校ミュージアムスクール, 琵琶湖博物館, 講師, 3件.

2004年7月26日・8月4日, 魚の解剖実習予行演習・外来魚解剖・調理, 滋賀県理科教育研究会, 自然調査ゼミナール, 琵琶湖博物館, 講師, 3件.

2004年8月9日, 川の生き物調査法, 坂田郡教育研究会, 身近な河川の魚と水生昆虫・水質について, 醒ヶ井中学校 (米原町), 講師、指導員.

2004年8月19日, 博物館で知ろう琵琶湖の環境- 琵琶湖の生態系を調べよう 1・2, 滋賀県総合教育センター, 環

境科学講座，琵琶湖博物館，講師・指導員，2件。

2004年8月21日，外来魚調理，泉南市立青少年センター，びわ湖の魚に親しもう，琵琶湖博物館，講師。

2004年8月24日，外来魚調理，常磐小学校，びわ湖の魚に親しもう，琵琶湖博物館，講師。

2004年8月25日，魚の話，大阪総合教育センター，琵琶湖博物館，講師。

2004年8月27日，お魚おもしろ生態学，ママパレット，おはなしと音楽とサイエンス，大津市民ホール（大津市），講師。

2004年8月31日，投網実習，講師。

2004年9月2日，魚類と外来生物，新潟明訓高校2年生，琵琶湖博物館，講師。

2004年9月24・25日，外来魚と琵琶湖の生態系，滋賀県湖南振興局（草津市），水環境クリーンウォーク，烏丸半島湖岸緑地（草津市），講師。

2004年10月1日，「琵琶湖の魚」と解剖，東大津高校，体験学習，琵琶湖博物館，講師，2件。

2004年10月16日・28日，おぼたん，2件。

2004年10月20日，魚つかみ，志津小学校，伯母川探検隊，伯母川（草津市），講師。

2004年10月29日，琵琶湖と川の魚，安曇川小学校3年，琵琶湖博物館，講師。

2004年10月31日，滋賀県の川の生き物と環境，当目村づくり委員会，川の魚の学習会，琵琶湖博物館，講師。

2004年11月7日，琵琶湖の魚について，滋賀県フナ・モロコ養殖研究会，発足総会，ウォーターステーション（大津市南郷），講師。

2004年11月18日，琵琶湖博物館の使い方，滋賀県立びわ湖子どもの国，児童館長研修会，琵琶湖博物館，講師。

2004年11月25日，魚、生き物について，草津小学校5年，体験学習，琵琶湖博物館，講師。

2005年2月16日，琵琶湖の生い立ちと淡水魚について，京とおうみ自然文化クラブ，講義学習，琵琶湖博物館，講師。

視察対応

2004年4月3日，水族飼育設備見学，宮津エネルギー研究所水族館，水族展示バックヤード。

2004年5月25日，施設見学，大阪府立水道記念館，水族展示・飼育バックヤード。

2004年5月30日，水族飼育設備見学，NPO法人蒲生野考現倶楽部，水族展示バックヤード。

2004年8月3日，施設見学，水産庁，水族展示・飼育バックヤード。

2004年10月11日，施設見学，ゴビウス，水族展示バックヤード。

2004年11月2日，施設見学，大阪教育大学，水族展示・飼育バックヤード。

2005年2月27日，施設見学，全国市町村国際文化研修所（タジキスタン市民社会形成セミナー），琵琶湖博物館。

2005年3月15日，施設見学，養殖研究所，水族飼育バックヤード。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

水族飼育管理，魚病。

水族企画展静止画資料，整備・撮影。

水生生物分布調査（nets），収集・撮影。

静止画資料貸出，68件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2004年度，水族企画展示「植物のある暮らしー水生植物と憩いの空間ー」，企画・運営。

モーニングレクチャー，講演，3回。

【企画調整活動】

新任職員研修，琵琶湖博物館水族展示・飼育バックヤード，2004年4月21日。

館内の人事・館外活動等に関すること**【館内の人事】**

2004年度，うみんど編集委員。

【館外の活動】

2004年度，日本動物園水族館協会，動物名検討委員会，委員。

2004年度，ぼてじゃこトラスト，顧問。

本年度も、前年度までの流れの中での発展や総括であったり、あるいは翌年度以降につながるような、多岐にわたる小さな業績が多数得られた。しかし、単年度レベルで見て、全体としてのまとまりは無い状況は続いている。

まず、共同研究として進めてきたリモートセンシングの課題については、継続的に得られているデータの解析を2つの手段で進めた。1つは、共同研究者が指導している学生の卒業研究の一環としての解析の進行であり、夏季に伸展する水草露呈域の面積に着目して、その時間変化から水草の成長に関する情報を得ようとするものである。露呈域面積は湖の水位変動に直接規制されるので、その影響を除去して水草の情報を抽出せねばならないが、その手がかりと成りうる「水位変動とタイミングの合わない面積変化」を見出すことができ、その系統的解析が次の課題となっている。

もう1つの手段は、資料整備事業としてデータから情報を抽出することであり、今年度は水面に居る「鳥」の分布情報の抽出を試みた。そして、その結果と他のデータとの照合によって朝の気温変動との関連が見出されたが、より深い解析が必要な状況である。

博物館学分野については、従来通り博物館情報論に重点を置いた分析を進めているが、従来から進めている「中小館に着目した、電子情報発信の在り方に関する研究」の進展を意図した作業として、全国的に進行しつつある「市町村合併」の中で情報発信環境が置かれている状況についての分析を進めた。

博物館学と水理学 (あるいは広く地球物理学) との連携に向けての布石として、学校と博物館との連携への注目が高まっている科学教育の分野との関わりを保っているが、その一環として、前年度に当館で実施した「伯母川探検隊」の活動を「博物館と学校との協力関係の構築」という観点から分析した研究発表を行った。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 戸田 孝・西村泰彦・釈 慶樹・板倉安正 (2004年4月16日) 赤野井湾赤外線観測データの解析- 試行錯誤、そして必要な対照データリストアップへ。琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 戸田 孝・西垣 亨 (2004年8月6日) 伯母川探検隊にみる学博連携と地域連携. 日本科学教育学会第28回年会, 日本科学教育学会, 千葉大学教育学部 (千葉県千葉市), [口頭発表].
- Toda, T., Seki, Y., Itakura, Y., (2004年10月1日) Advanced Analysis of Submerged Plant Growing in Akanoi Bay of Lake Biwa, Japan by Infrared Continuous Monitoring. The2004 Joint 29th International Conference on Infrared and Millimeter Waves and 12th International Conference on Terahertz Electronics, Karlsruhe 大学・Karlsruhe 研究センター, Karlsruhe 大学 (ドイツ連邦共和国 Karlsruhe 市), [口頭発表].
- 戸田 孝・亀田佳代子・板倉安正 (2004年10月14日) 琵琶湖赤野井湾の常設赤外線観測にみられる鳥の行動の分析. 日本赤外線学会第14回研究発表会, 日本赤外線学会, 福井大学遠赤外線領域開発研究センター (福井県福井市), [口頭発表].
- 戸田 孝・板倉安正・島田拓哉・釈 慶樹 (2004年12月11日) 赤外面像にみる水草域の消長と琵琶湖水位. 陸水物理研究会 2004年度千葉大会, 陸水物理研究会, 千葉大学理学部 (千葉県千葉市), [口頭発表].
- 戸田 孝 (2005年3月7日) 合併市町村での公立博物館の Web 発信. 第8回博物館・美術館の情報システムに関する研究会, 博物館ホームページ推進研究フォーラム, 清水テルサ (静岡県静岡市), [口頭発表].
- 大塚泰介・有田重彦・中井大介・戸田 孝 (2005年3月28日) 円弧構成モデルにもとづく *Navicula viridula* sensu

lato の計量形態学的解析. 日本藻類学会第 29 回大会, 日本藻類学会, 京都大学農学部 (京都市左京区), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「博物館事業における水理学分野の位置付けに関する研究」, 研究代表者 (2004 年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本海洋学会, Journal of Oceanography, 査読, 2 件.

日本科学教育学会, 科学教育研究, 査読, 1 件.

日本陸水学会, 広報幹事技術顧問, 2003～2005 年度.

自然史学会連合, 部会委員, 2004 年度.

日本科学教育学会, 編集委員, 2004～2005 年度.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2004 年度, 滋賀大学教育学部学部生, 卒業研究.

【受賞など】

日本科学教育学会年会発表賞, 2004 年 8 月 7 日, 第 27 回年会における発表「学校と博物館のカリキュラム連携のありかた」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー, 琵琶湖博物館各展示室, 12 件.

2004 年 8 月 3 日, 回転実験室で水槽実験を!, 博物館講座, 琵琶湖博物館, 講義・説明.

2004 年 8 月 5 日, 情報事業実習の指導, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 主担当.

2005 年 2 月 6 日, 役に立つ情報とは, 平成 16 年度連続講座「琵琶湖博物館の自己紹介」, 琵琶湖博物館, 講義.

メディアへの協力

フジテレビ, トリビアの泉, 予備取材 (琵琶湖基準水位の決定には特に根拠が無かったということについて), (2004 年 4 月 30 日取材).

2005 年 1 月, わっと (関西電力 PR 誌) 湖西の風にふかれて, 琵琶湖の風にまつわる話題の提供, (2004 年 11 月 26 日取材).

2005 年 3 月, 日本テレビ, Dの嵐, 北半球と南半球での渦の向きに関する実験に関する確認, (2005 年 3 月 10 日取材).

2005 年 4 月 3 日 (予定), 中日新聞 (子供向けの科学欄), 琵琶湖での蜃気楼発生の原因となる暖気流入のメカニズムについての情報提供, (2005 年 3 月 29 日取材).

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

情報システム整備および電子情報発信活動の総括.

過去のメールメッセージ応答情報の館内利用および公開に向けたデータ一次整理.

全館員向けメールメッセージの館内公開.

個人管理ページの運営.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2004 年度, 気象に関する展示の更新および維持管理.

2004 年度, 水理に関する展示の更新および維持管理.

モーニングレクチャー, 講義 (琵琶湖水位の基準について), 3 回.

モーニングレクチャー, 講義 (回転実験室について), 3 回.

【企画調整活動】

滋賀県博物館協議会, 協議会ページの運営 (各加盟館紹介ページの更新など).

【研究部関連事業】

研究調査報告担当, 号数管理・無償提供分の提供作業調整・体裁統一のための連絡調整.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2004 年度, 滋賀県博物館協議会, 広報委員会, 委員.

オサムシ科を中心に滋賀県とその周辺の昆虫相や系統進化を地域の人と共同で明らかにすることを研究の目標としている。また、異分野の研究者と総合研究「博物館資料の収集・整理・保管と利用に関する研究」を行っている。

今年度は、2005年7月16日から始まる第13回企画展示「歩く宝石オサムシー 飛ばない昆虫のふしぎ発見ー」の準備となる実施設計書の作成に多くの時間を費やした。この企画展示は地域の人との共同研究「滋賀県のオサムシの分布」の成果を基盤に、オサムシの不思議を伝え、来館者をフィールドへ誘うことを目指して企画したものである。この企画展の展示解説書で10編の原稿を執筆した。展示解説書は7月に発行予定である。

査読のある研究論文では更新世の昆虫化石に関する2本の論文が印刷になった。「熊本県益城町の津森層から産出した昆虫化石(第2報)」(林 成多・八尋克郎・北村直司・北林栄一, 2004)と「大分県大山町の大山層から産出した昆虫化石」(林 成多・八尋克郎・北林栄一, 2004)である。いずれも瑞浪市化石博物館研究報告に掲載された。

専門分野の著作として「ミイデラゴミムシの語源」(地表性甲虫談話会会報)、「昆虫類」(生きもの総合調査中間報告書)、「オサムシ科甲虫の絵解き検索による見分け方」(第14回環境アセスメント動物調査手法講演会)の3編の原稿を執筆した。

学会・研究会では、「企画展示『歩く宝石オサムシー 飛ばない昆虫のふしぎ発見ー』の開催」(オサムシ自然史研究会)、「オサムシ科甲虫の絵解き検索による見分け方」(第14回環境アセスメント動物調査手法講演会)、「ミトコンドリアDNAに基づくドウキョウオサムシの系統的位置づけと種内変異の解明」(分担発表:第64回日本昆虫学会大会)、「滋賀県のレッドデータブック」(第64回日本昆虫学会大会自然保護委員会シンポジウム)、「昆虫類」(滋賀の多様性を考えるフォーラム)、「琵琶湖博物館「昆虫部門」の活動紹介」(日本鱗翅学会近畿支部大会)の6つの発表を行った。この中の「ミトコンドリアDNAに基づくドウキョウオサムシの系統的位置づけと種内変異の解明」は、近畿のオサムシの系統関係を明らかにする目的で実施している共同研究(京都大学の曾田氏、長太氏、東京大学の久保田氏と)の成果の一部を発表したものである。

今年度は、日本鱗翅学会と共催で実施した「里山保全」特別講演会の実行委員長として講演会を運営したほか、日本昆虫学会の近畿支部の幹事として、日本昆虫学会の近畿支部大会を琵琶湖博物館で開催するなど研究交流を進めた。

滋賀県自然保護課が進めている「滋賀県で大切にすべき野生生物2005年改訂版」の作成に向けて、その他の昆虫分類群の選定委員との調整、全体のとりまとめを行っているほか甲虫類の種の選定を分担している。

総合研究「博物館資料の収集・整理・保管と利用に関する研究」では、来年度にとりまとめを行うために異分野の学芸職員と議論しているところである。2006年3月までに琵琶湖博物館の研究報告書あるいはその他の出版物として発行することを目指している。

印刷物

【学術論文】

林 成多・八尋克郎・北村直司・北林栄一(2004) 熊本県益城町の津森層から産出した昆虫化石(第2報). *Bulletin of the Mizunami Fossil Museum*, 31: 63-67.

林 成多・八尋克郎・北林栄一(2004) 大分県大山町の大山層から産出した昆虫化石. *Bulletin of the Mizunami Fossil Museum*, 31: 69-72.

【専門分野の著作】

- 八尋克郎 (2004) ミイデラゴミムシの語源. 地表性甲虫談話会会報, 1, 地表性甲虫談話会: 2-6.
- 八尋克郎 (2004) 昆虫類. 生きもの総合調査中間報告書, 滋賀県生きもの総合調査委員会.
- 八尋克郎 (2004) オサムシ科甲虫の絵解き検索による見分け方. 第14回環境アセスメント動物調査手法講演会, 日本環境動物昆虫学会.

【一般向けの著作】

- 八尋克郎 (2004) 昆虫から見た滋賀県の自然. 滋賀の経済と社会, 109: 23-25.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 八尋克郎 (2004年7月14日) 企画展示「歩く宝石オサムシー 飛ばない昆虫のふしぎ発見ー」の開催. オサムシ自然史研究会, オサムシ自然史研究会, ペンション原村 (長野県原村), [口頭発表].
- 八尋克郎 (2004年7月16日) 滋賀県のレッドデータブックー 2005年改訂版の編集状況ー. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 八尋克郎 (2004年7月26日) オサムシ科甲虫の絵解き検索による見分け方. 第14回環境アセスメント動物調査手法講演会, 日本環境動物昆虫学会, ホテルアウイーナ大阪 (大阪府大阪市), [口頭発表].
- 長太伸章・久保田耕平・八尋克郎・曾田貞滋 (2004年9月25日) ミトコンドリア DNA に基づくドウキョウオサムシの系統的 위치づけと種内変異の解明. 第64回日本昆虫学会大会, 日本昆虫学会, 北海道大学 (北海道札幌市), [口頭発表].
- 八尋克郎 (2004年9月25日) 滋賀県のレッドデータブック. 第64回日本昆虫学会大会自然保護委員会シンポジウム, 日本昆虫学会, 北海道大学 (北海道札幌市), [口頭発表].
- 八尋克郎 (2004年10月31日) 昆虫類. 滋賀の多様性を考えるフォーラム, 滋賀県・琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].
- 八尋克郎 (2004年12月19日) 琵琶湖博物館「昆虫部門」の活動紹介, 日本鱗翅学会近畿支部大会, 日本鱗翅学会近畿支部・琵琶湖博物館, ピアザ淡海 (滋賀県大津市), [口頭発表].
- 亀田佳代子・八尋克郎 (2005年3月28日) カワウの営巣が森林の昆虫相に与える影響: 地上性甲虫類の変化. 第52回日本生態学会大会, 日本生態学会, 大阪国際会議場 (大阪府大阪市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館総合研究「博物館資料の収集・整理・保管と利用に関する研究」(研究代表者: 八尋克郎), 研究代表者 (1997年度~2004年度).
- 琵琶湖博物館共同研究「滋賀県の蝶類の分布と生態に関する研究」(研究代表者: 内田明彦), 共同研究者 (2003年度~2004年度).
- 琵琶湖博物館専門研究「オサムシ上科甲虫の系統分類学的研究および生態学的研究」, 研究代表者 (2004年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本昆虫学会, 近畿支部幹事, 2004年度ー.
- 日本昆虫学会, 近畿支部自然保護委員, 2003年度ー.
- 滋賀オサムシ研究会, 事務局, 1997年度ー.
- 地表性甲虫談話会, 会報編集幹事, 2004年度ー.
- 昆虫分類学若手懇談会, 会報 Panmixia 編集幹事, 2004年度ー.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，11件。

2004年8月5日，カブトムシ・バッタの飼い方，生き物の飼い方教室，琵琶湖博物館。

2004年8月7日，ミドリセンチコガネを探しに行こう，観察会，滋賀県栗東市。

2004年12月5日，真冬の昆虫採集，観察会，滋賀県信楽町。

他の博物館・機関等主催行事

2004年5月15日・7月21日，木の岡地区ビオトープ現地見学会，下阪本学区まちづくり推進協議会，大津市下阪本，2件。

2004年6月12日，ホテルの観察とお話，真野北公民館（大津市伊香立生津町）。

2004年6月26日，動物収蔵庫の探検，日本ボーイスカウト滋賀連盟大津第12団，琵琶湖博物館。

2004年8月1日，野菜畑の虫，コープ滋賀（近江八幡市大中）。

2004年8月27日，虫について，栗東市小中教育研究会生活科部会夏季実技研修会，生活科学習における博物館利用について，琵琶湖博物館。

メディアへの協力

2004年10月1日，京都新聞，一部透明の珍虫見つかるー ジンガサハムシと判明、八尋克郎主任学芸員が確認，昆虫の同定，（2004年9月30日取材）。

2005年1月26日，京都新聞，名の理由 奇抜な説 おならする「ミイデラゴミムシ」八尋克郎主任学芸員が発表，地表性甲虫談話会会報に発表した「ミイデラゴミムシの語源」について紹介した，（2004年12月取材）。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

第13回企画展示「歩く宝石オサムシー 飛ばない昆虫のふしぎ発見ー」インターネットホームページ開設，企画、更新。

琵琶湖博物館学芸員個人管理ページの更新。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

第13回企画展示「歩く宝石オサムシー 飛ばない昆虫のふしぎ発見ー」実施設計，主担当。

企画展「フェアブルさんの仕事と、その後の発展（仮称）」，担当。

モーニングレクチャー，講義，3回。

展示交流員と話そう，内容指導。

展示交流員研修，フィールド観察、研修随行。

「研究最前線」展示の更新，担当。

【企画調整活動】

資料提供，平成17年度企画展示「（仮称）歩く宝石オサムシー 飛ばない昆虫のふしぎ発見ー」インターネットページ開設，2004年12月7日。

新任職員研修，C展示室生き物コレクション，2004年4月20日。

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2004年7月18日～7月25日，フランス，企画展「ファーブルさんの仕事と、その後の発展（仮称）」打ち合わせ.

【館外の活動】

2003年～. 大津市木の岡地区ビオトープ保全整備学術委員会，滋賀県土木交通部河港課，委員.

2003年～. 大津市木の岡地区ビオトープ保全利用推進協議会，委員.

2003年7月1日～2005年3月31日，滋賀県生きもの総合調査委員会昆虫類部会，専門委員.

2004年12月19日，「里山保全」特別講演会実行委員会，委員長.

平成16年度に琵琶湖博物館を利用した学校数は、1055校で昨年度と比べて27校の増となっている。また、生徒数は88,481人で、2,431人の増である。これは、学校教育の中に「総合的な学習の時間」が導入されたことや、環境教育が重要視されていることが一因であると考えられる。しかし、今後の学校教育を考えた場合、基礎学力重視の方向にいくことは確実であり、「総合的な学習の時間」の時間が減った場合、博物館を利用しての学習が学校側で見直されることも予想される。このような中で、次代を担う子どもたちに如何に「湖（自然）と人間（文化）」のすばらしさを伝えていくかが琵琶湖博物館として重要であると考え、次のテーマを設定し、研究に取り組んだ。

1 研究のねらい

琵琶湖博物館が、学校に、より効果的に広く利用されるための手立てをさぐる。

2 結果と考察

(1) 博物館を利用した（平成16年4月～12月）小学校データの分析

琵琶湖博物館を利用した小学校数は、のべ653校（県外：423校 県内：230校）である。

利用学年は、県外では、4・5年生が多く、県内では、3・4・5年生が多くなっている。

4・5年生が多いのは、社会科に「水環境」についての学習があるためだと思われる。また、県内の3・4年生は、社会科の「むかしくらし」の学習で多くの利用がある。

地域別に見ると、県外は、大阪府、京都府が圧倒的に多くなっている。これは、自分たちが使っている生活用水をたどる学習の中で、琵琶湖を訪れているものと考えられる。

県内小学校の博物館利用率は、76%である。（234校の内178校の利用。）

(2) 博物館利用に関するアンケートの結果分析 <アンケート回収率：61%>

平成16年度に博物館を利用するかの間いでは回答数の74%が「利用する」であった。

「利用しない」の主な理由は、「学校から遠いため」「学習計画に入っていないため」「校外学習の時間削減のため」である。「学習計画に入っていないため」については、学校教員が博物館の利用方法を知らないことも原因ではないかと考える。

利用目的は、多い順に「総合的な学習の時間」「社会科」「理科」「生活科」であった。

利用方法は、「見学」が多くなるのは当然であるが、「体験学習」を希望する学校も多い。

「総合的な学習の時間」で一番多かったテーマは「環境」である。

(3) 教員研修について

学校による琵琶湖博物館の効果的な利用を考えた場合、学校教員が展示の意図等、博物館についてよく知っていることは欠くことのできないことである。つまり、重要になるのが教員研修である。そこで、年度当初、小学校教育研究会の各教科部会に出向き、琵琶湖博物館での教員研修の必要性を伝えるとともに、博物館と学校との連携について紹介した。

(4) 体験学習プログラム開発

ア【盲学校向け体験学習プログラム】

県立盲学校に対して行った。

①「化石のレプリカをつくろう」 ②「魚に触れてみよう」 ③「昔の暮らしを体験しよう」

イ【プランクトンカード】

ギャラリー展「ミクロの世界を探検しようープランクトンの不思議ー」内のゲームコーナー用に、神経衰弱ゲームができる「プランクトンカード」を作成した。

3 今後に向けて

琵琶湖博物館が、学校に、より効果的に広く利用されるためには、今後、次のようなことが必要であるとする。

(1) 教員研修プログラムの開発

琵琶湖博物館の展示は、すべてが学習の教材となるすばらしいものである。そして、展示物を学習にどう生かしていくかは、教員の力にかかっている。

(2) 博物館を利用した学習の事例紹介

展示物の学習への生かし方を紹介しあう場を設定する。例えば、教員研修会や、琵琶湖博物館のホームページが考えられる。また、「ティーチャーズコーナー」や「ティーチャーズルーム」の新設も考えていきたい。

(3) 県内各地域に関わる資料や情報の提供

県内各地域に関わる資料や情報を要望に合わせて提供できれば、博物館の利用が促進されるものとする。

(4) 体験学習プログラムの開発

博物館での体験学習は、展示とつながっているところに意味がある。学校で実施可能な体験でも、博物館で行い、展示とつなげることにより、子どもたちの理解や興味関心が深まるからである。そこで、今ある体験学習プログラムをさらに展示につなげる流れに改良したり、新たなプログラムを開発したりしていきたいと考えている。今後は琵琶湖博物館を「地域学習の拠点」として位置づけていきたい。

印刷物

【専門分野の著作】

谷口雅之（2005）学校の博物館利用について．*滋賀科学*，滋賀県高等学校理科教育研究会：1-3.

谷口雅之・楠岡 泰・中澤 浩・竹村元嗣・田中玄白（2005）日本の淡水プランクトン（原生動物のなかま）．*滋賀の理科教材研究委員会（編），日本の淡水プランクトン*，合同出版株式会社，東京：66-97.

【一般向けの著作】

谷口雅之（2005年）学校のよりよい博物館利用をめざして．*うみんど*，32，琵琶湖博物館：2-3.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

谷口雅之（2005年1月21日）琵琶湖博物館と学校とのよりよい連携の在り方をさぐる II．琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表].

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2004年4月～2005年3月，「丸子船のペーパークラフトをつくろう」等13講座，「体験学習の日」事業（毎月第2第4土曜日開催）博物館実習室等，主担当，22件（浅井 浩氏、平山一造氏、立石文代氏、前田雅子氏、武田 繁氏と共同）.

2004年8月3日～5日，夏休み「生き物飼いか講座」，教員向け博物館講座，琵琶湖博物館，主担当，2件.

2004年4月～2005年3月，体験学習の日はしかけ，はしかけ活動，琵琶湖博物館および館外，グループ担当，40件.

2005年2月13日，「はしかけ」って楽しい！，平成16年度連続講座「琵琶湖博物館の自己紹介」，琵琶湖博物館，

はしかけグループ担当発表者は「体験学習の日はしかけ」。

2005年2月20日、学校から期待される博物館。平成16年度連続講座「琵琶湖博物館の自己紹介」、琵琶湖博物館、
[口頭発表]。

2004年4月～2005年3月、学校等標本貸出事業、標本貸し出し、博物館、主担当。

2004年7月26日、滋賀のプランクトン研究・調査について、教員研修、琵琶湖博物館、主担当。

2004年9月10日・10月13日、伯母川探検隊事業について、JICA博物館学研修集中コース、琵琶湖博物館、事業
説明、2件。

2004年11月～2005年3月、プランクトンの模型を作ろう、ギャラリー展示関連イベント・体験教室、琵琶湖博物
館、主担当、4件

他の博物館・機関等主催行事

2004年4月～2005年3月、学校団体向け体験学習、県内県外各小中高等学校障害児教育諸学校、学校団体向け体験
学習、博物館実習室等、草津市、講師、404件（135校：13,601名）。

2004年4月～2005年3月、伯母川探検隊～伯母川博物館、こどもエコクラブ「伯母Q五郎」、「志津くらぶ」、草津
市志津地域との連携活動、草津市立志津公民館・志津小学校・伯母川（草津市）、アドバイザー、41件。

2004年4月～2005年3月、ようこそ星の世界へ他3タイトル、滋賀県総合教育センター、天体観望会、滋賀県総合
教育センター（野洲市）、講師、4件。

2004年5月11日、琵琶湖博物館での体験学習について、草津市教育委員会、エコ草津事前教員研修会、琵琶湖博
物館、アドバイザー。

2004年5月18日、博物館と学校との連携について、滋賀県高等学校理科部会、滋賀県高等学校理科部会総会、県
総合教育センター（野洲市）、講師。

2004年5月20日、博物館と学校との連携について、滋賀県教育研究会生活科部会、滋賀県教育研究会生活科部会
支部長会、滋賀大学教育学部附属小学校（大津市）、説明者。

2004年5月28日、博物館と学校との連携について、滋賀県教育研究会理科部会、滋賀県教育研究会理科部会支部
長会、滋賀大学教育学部附属小学校（大津市）、説明者。

2004年6月1日、博物館と学校との連携について、滋賀県教育研究会環境教育部会、滋賀県教育研究会環境教育部
会支部長会、野洲市中央公民館（野洲市）、説明者。

2004年6月3日、琵琶湖博物館での体験学習について、滋賀県中学校理科部会、自然調査ゼミナール事前研修会、
琵琶湖博物館、アドバイザー。

2004年6月15日、博物館と学校との連携について、滋賀県教育研究会社会科部会、滋賀県教育研究会社会科部会
支部長会、滋賀大学教育学部附属小学校（大津市）、説明者。

2004年6月23日、博物館と学校との連携について、滋賀県教育委員会、滋賀県市町村教育委員会課長・参事会、
大津合同庁舎（大津市）、説明者。

2004年7月26日、琵琶湖博物館での体験学習について、滋賀県中学校理科部会、自然調査ゼミナール事前研修会、
琵琶湖博物館、アドバイザー。

2004年8月2日、化石実習、仮説実験授業研究会、全国合宿研究会サマースクール、琵琶湖博物館、講師。

2004年8月4日～5日、自然調査ゼミナール、滋賀県中学校理科部会、自然調査法研修会、琵琶湖博物館等、講師。

2004年8月6日、外来魚の解剖実習、大阪府水道サービス公社、水源「琵琶湖」夏休み親子見学会、琵琶湖博物館、
講師。

2004年8月19日、学校のまわりの川を探れ！、滋賀県総合教育センター、環境科学講座、琵琶湖博物館、講師。

2004年8月25日、博物館と学校との連携について・化石実習、大阪府教育センター、教職員環境研修、琵琶湖博
物館、講師。

2004年8月26日、博物館と学校との連携について、近畿小学校理科教育協議会、近畿小学校理科教育協議会理事
会、琵琶湖博物館、講師。

- 2004年8月27日, 博物館と学校との連携について, 栗東市教育研究会小学校生活科部会, 栗東市教育研究会小学校生活科部会夏期研修会, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2004年10月17日, プランクトン同定会, 滋賀の理科教材研究委員会, プランクトン県下一斉調査, 琵琶湖博物館, 受け入れ側担当.
- 2004年11月6日, 化石のレプリカ作り, 草津市立草津小学校PTA, ひびきあい広場, 草津市立草津小学校(草津市), 講師.
- 2004年11月9日~11日, 職場体験実習受け入れ, 草津市立新堂中学校, 職場体験実習, 琵琶湖博物館, 受け入れ側担当.
- 2004年11月16日, 琵琶湖博物館での体験学習について, 滋賀県総合教育センター, 気軽にシンポジウム, 安土町立安土中学校(安土町), 講師.
- 2004年11月26日, 環境学習の拠点作りについて, エコライフ推進課, 環境学習フェア, 彦根文化プラザ(彦根市), パネラー.
- 2005年2月17日, プランクトン観察, 滋賀県高等学校教育研究会生物部会, 滋賀県高等学校教育研究会生物部会研修会, 琵琶湖博物館, 受け入れ側担当.
- 2005年3月6日, 化石のレプリカ作り, 大津市大石龍門町子ども会, 体験学習会, 琵琶湖博物館, 講師.

視察対応

- 2004年6月16日, 教育普及活動について, サイエンスワールド岐阜, 琵琶湖博物館.
- 2004年9月10日, 教育普及活動について, 栃木県議会文教委員会, 琵琶湖博物館.
- 2004年12月8日, 教育普及活動について, 沖縄ひめゆりの塔資料館, 琵琶湖博物館.
- 2005年1月26日, 教育普及活動について, ながわ水遊園(栃木県)視察, 琵琶湖博物館.
- 2005年3月1日, 教育普及活動について, 熊本市動植物園, 琵琶湖博物館.
- 2005年3月18日, 教育普及活動について, 北海道開拓記念館, 琵琶湖博物館.

メディアへの協力

- 2004年5月28日, BBCびわ湖放送, テレビタ刊プラス1, 博物館と学校との連携について, (2004年5月28日取材).
- 2004年7月14日, BBCびわ湖放送, スーパーサイエンスハイスクール, (2004年7月14日取材).
- 2004年8月29日, 滋賀ガイド, インターネット情報誌, 体験学習の日事業, (2004年8月24日取材).

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

- 2004年12月23日~2005年4月10日, ギャラリー展「ミクロの世界を探検しようープランクトンの不思議ー」, 企画・調整・展示.
- モーニングレクチャー, 講演, 3回.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

- 2004年度, うみっこ編集委員.

【館外の活動】

- 2004年4月~2005年3月, びわ湖フローティングスクール運営協議会, 委員.
- 2003年4月~2005年3月, 日本の淡水プランクトン図鑑編集委員会, 委員.
- 2004年4月~2005年3月, 伯母川博物館実行委員会, 委員.

2004年10月～2005年3月，地域子ども教室実行委員会，委員.

昨年度、学校と公民館との三者連携により、「伯母川探検隊ー地域の人とつくる伯母川博物館」事業を実施した。この事業は、琵琶湖博物館の学校連携事業をより効果的に行うため、「学校は地域の一部であり、子どもたちは将来の地域を担う人材である」という考え方に立って、学校の背景にある地域を含めた連携を行おうとしたものである。この事業では、子どもたちの地域の自然に対する見方や考え方が変わったり、地域での新たな活動につながるなどの、いくつかの成果を得ることができた。

今年度は、事業1年後の2004年10月に子どもたちや地域住民の思いについてのアンケート調査を行い、地域の中で事業が継続することとなった要因について考察した。

1. 事業1年後のアンケート結果より

この事業によって、子どもたちの地域の自然に対する思いはプラスのイメージへと一変したが、1年後においてもその効果が継続していることがわかった。また子どもたちの行動についても尋ねた結果、伯母川を「新たに」好きになった50%の子どもたちの多くが、伯母川によく遊びに行くようになるなど、その行動に変化が表れていることがわかった。さらに、特に行動意欲が強かった子どもたちが、子どもエコクラブ「伯母Q五郎」を結成し、自主的な行動を開始したものと思われる。

また保護者へのアンケートでは、約7割が子どもに変化があったと考えており、変化の中身については「身近な自然への興味関心が高まった」という回答が全体の約7割を占めるが、中には「将来の職業を決めた」という思わぬ方向への発展も見られた。

2. 地域の手による事業の継続

2004年度の伯母川探検隊事業は、こどもエコクラブ「伯母Q五郎」が主催者となり8月から三度実施された。今年度の伯母Q五郎は、地元の川や池の調査をはじめ地域に密着した様々な活動を展開しており、県や市とのつながりが生まれたことから今後さらに活動内容は発展していくと考えられる。また、8月に地域に「伯母川博物館実行委員会」が設立され、この委員会の働きで2004年11月に伯母川博物館が再び開館した。昨年と今年の「伯母川博物館」を比べた場合、琵琶湖博物館主導でつくられた昨年のものの方が、そのテーマ性や展示内容を見ても当然立派なものができていたが、内容の善し悪しは別として、今年の伯母川博物館が純粋に地域住民の手のみでつくられたことを考えれば、今年の博物館が持つ意味は極めて大きいと言える。

このように、昨年の琵琶湖博物館事業が地域の手で継続されていることは、三者連携事業の成果だと考えられるが、もしも子どもたちの興味関心の持続がなければ、事業の継続はなかったとも言える。子どもたちの興味関心が持続した要因としては、この学習が自然体験の楽しさや生き物の不思議さを出発点としたものであったこと、そして、自然や生き物に関する豊富な知識や技術を持った学芸員の存在があったことの2つがあげられる。さらに、学校教育の中では特に興味関心を持った子どもたちへの支援が難しいという課題においても、地域での学習の継続が実現した今回の事業では、博物館の強みを発揮できたと言える。

博物館の良さを生かし、生き物の不思議さやおもしろさから始まる環境学習は、「地域を好きになる」環境学習につながる。今後「総合的な学習の時間」が減少し、学校での自然体験の機会が減少する方向にある今、博物館が子どもたちと地域をつなぐ役割は、ますます大きくなると考えられる。

印刷物

【学術論文】

西垣 亨・布谷知夫 (2005) 学校が行う地域での「博物館」づくり. *博物館学雑誌*, 31 (2), 全日本博物館学会.

【一般向けの著作】

- 西垣 亨 (2004) 湖と人々とのかかわり. 滋賀県教育委員会, 琵琶湖と自然, 五訂版, 滋賀県教育委員会.
- 西垣 亨 (2004) 学校や地域と連携して公民館に「博物館」をつくる活動. 全科協ニュース編集委員会, 全科協ニュース, 34, 全科協事務局: 1-3.
- 西垣 亨 (2004) 「自然調査ゼミナール」に参加してきたよ!. うみっこ, 16, 琵琶湖博物館: 4.
- 西垣 亨 (2005) 琵琶湖博物館で体験してきたよ!. うみっこ, 17, 琵琶湖博物館: 4.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 西垣 亨・布谷知夫 (2004年6月19日) 学校が行う地域での「博物館」づくり. 第30回全日本博物館学会, 全日本博物館学会, 恐竜博物館 (福井県勝山市), [講演].
- 西垣 亨 (2004年7月4日) 伯母川探検隊へ地域の人とつくる伯母川博物館. 科学技術振興機構, 平成15年度地域科学館連携支援事業活動報告会, 日本科学未来館 (東京都江東区), [発表者].
- 戸田 孝・西垣 亨 (2004年8月6日) 「伯母川探検隊」にみる学博連携および地域連携. 第28回日本科学教育学会, 日本科学教育学会, 千葉大学 (千葉市), [講演].
- 西垣 亨 (2004年12月18日) 学校が行う地域での「博物館」づくり. 平成16年度琵琶湖博物館研究発表会, 琵琶湖博物館, [講演].
- 西垣 亨 (2005年2月18日) 生き物からはじまる環境学習 III -伯母川探検隊事業が地域にもたらしたもの. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [講演].

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 2004年4月～2005年3月, 「丸子船のペーパークラフトをつくろう」等13講座, 「体験学習の日」事業 (毎月第2第4土曜日開催) 博物館実習室等, 主担当, 22件 (浅井 浩氏、平山一造氏、立石文代氏、前田雅子氏、武田 繁氏と共同).
- 2004年8月3日～5日, 夏休み「生き物飼い方講座」, 教員向け博物館講座, 琵琶湖博物館, 主担当, 2件.
- 2004年4月～2005年3月, 体験学習の日はしかけ, はしかけ活動, 琵琶湖博物館および館外, グループ担当, 40件.
- 2005年2月13日, 「はしかけ」って楽しい!, 平成16年度連続講座「琵琶湖博物館の自己紹介」, 琵琶湖博物館, はしかけグループ担当発表者「体験学習の日はしかけ」.
- 2004年4月～2005年3月, 学校等標本貸出事業, 標本貸し出し, 琵琶湖博物館, 主担当.
- 2004年9月10日・10月13日, 伯母川探検隊事業について, JICA 博物館学研修集中コース, 琵琶湖博物館, 事業説明, 2件.

他の博物館・機関等主催行事

- 2004年4月～2005年3月, 学校団体向け体験学習, 県内県外各小中高等学校障害児教育諸学校, 学校団体向け体験学習, 琵琶湖博物館, 講師, 404件 (135校: 13, 601名).
- 2004年4月～2005年3月, 伯母川探検隊～伯母川博物館, こどもエコクラブ「伯母Q五郎」, 「志津くらぶ」, 草津市志津地域との連携活動, 草津市立志津公民館・志津小学校・伯母川 (草津市), アドバイザー, 41件.
- 2004年4月8日, 伯母川探検隊事業について, JICA, JICA 研修会, 琵琶湖博物館, 講師.

- 2004年6月5日, むかしのいきもの, 草津市馬場町子ども会, 子ども会向け体験学習, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2004年7月2日, 葉山川探検隊, 草津市立笠縫東小学校, 総合的な学習の時間, 葉山川(草津市), 講師.
- 2004年7月7日, 琵琶湖と環境, 守山市立守山北中学校, 総合的な学習の時間, 守山北中学校(守山市), 講師.
- 2004年7月9日, 伯母川博物館について, 草津市環境課, 琵琶湖ラムサール条約連絡協議会研修交流会, 草津市役所(草津市), 講師.
- 2004年7月11日, 伯母Q五郎の活動, 「川の日」ワークショップ実行委員会, 「川の日」ワークショップ, 国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区), 発表者.
- 2004年7月30日, 先輩教員を囲んで, 滋賀県総合教育センター, 初任者研修, 希望ヶ丘文化公園青年の城(蒲生郡竜王町), 講師.
- 2004年8月2日, 化石実習, 仮説実験授業研究会, 全国合宿研究会サマースクール, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2004年8月4日~5日, 自然調査ゼミナール, 滋賀県中学校理科部会, 自然調査法研修会, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2004年8月6日, 外来魚の解剖実習, 大阪府水道サービス公社, 水源「琵琶湖」夏休み親子見学会, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2004年8月8日, 琵琶湖の概要, エコライフ推進課, 子ども環境特派員事業, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2004年8月19日, 学校のまわりの川を探れ!, 滋賀県総合教育センター, 環境科学講座, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2004年8月25日, 化石実習, 大阪府教育センター, 教職員環境研修, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2004年8月27日, プラクトン実習, 門真市教育研究会, 教職員研修, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2004年9月4日, 琵琶湖博物館での環境学習, 草津市教育委員会, 中国上海市徐匯区教育代表団施設訪問, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2004年9月24日, 琵琶湖と環境, 土山町立土山中学校, 総合的な学習の時間, 土山中学校(甲賀市), 講師.
- 2004年10月13日, 博物館と学校との連携について, 近畿地区教育研究所連盟, 近畿地区教育研究所連盟教科等部会, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2004年10月16日, 琵琶湖の環境, 琵琶湖・淀川水質保全機構, ジュニアリバーズスクール2004, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2004年11月6日, 外来魚の解剖実習, 草津市立草津小学校PTA, ひびきあい広場, 草津市立草津小学校(草津市), 講師.
- 2004年11月8日, 琵琶湖の環境問題, 守山市立守山中学校, 総合的な学習の時間, 守山中学校(守山市), 講師.
- 2004年11月9日~11日, 職場体験実習受け入れ, 草津市立新堂中学校, 職場体験実習, 琵琶湖博物館, 受け入れ側主担当.
- 2005年2月24日, 化石実習, 守山市教育研究所, 湖南SSN体験学習, 琵琶湖博物館, 講師.

視察対応

- 2004年12月21日, 教育普及活動について, 石川県ふれあい昆虫館, 琵琶湖博物館.
- 2005年1月19日, 教育普及活動について, 鹿児島県立博物館, 琵琶湖博物館.
- 2005年3月6日, はしかけ活動について, 神戸市立須磨海浜水族園ボランティア, 琵琶湖博物館.
- 2005年3月17日, はしかけ活動および体験学習について, 佐賀市環境下水道部環境課, 琵琶湖博物館.

メディアへの協力

- 2004年4月11日, 朝日新聞社, 朝日新聞朝刊, 体験学習の日事業, (2004年4月10日取材).
- 2004年5月5日, FM滋賀, Lake Side Morning 77, 伯母川探検隊事業, (2004年4月27日取材).
- 2004年5月13日, 京都新聞社, 京都新聞朝刊, 伯母川探検隊事業, (2004年5月8日取材).
- 2004年6月20日, 読売新聞社, 読売新聞朝刊, 体験学習の日事業, (2004年6月12日取材).
- 2004年7月14日, BBCびわ湖放送, スーパーサイエンスハイスクール, (2004年7月14日取材).
- 2005年3月4日, みんなで作る新聞社, みんなの滋賀新聞, 伯母川探検隊事業, (2005年2月27日取材).

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講演，3回.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2004年度，うみっこ編集委員.

【館外の活動】

2004年4月～2005年3月，伯母川博物館実行委員会，委員.

2004年4月～2005年3月，環境副読本「琵琶湖と自然」作成委員会，執筆・編集委員.

2004年4月～2005年3月，滋賀県高等学校理科教育研究会，顧問.

芦谷 美奈子 ASHIYA, Minako

主任学芸員

水生植物学（理学修士）

研究部博物館学研究領域
（兼）事業部展示担当

体調不良によって原稿作成が困難なため、本年度の業績等については、来年度に掲載する。

民俗学部門担当の学芸職員として、民俗資料の収集・整理・利用、民俗分野に関する交流・情報・展示の各事業を担当している。例年通りの琵琶湖水系の漁撈習俗用具の整理に加え、本年度は、Web 公開版の民俗資料データベースを立ち上げることができた。

専門研究としては、今年度より「博物館における民具資料の存在意義と利用価値の再発見」を課題に掲げ、博物館学研究領域に移り、民俗学部門担当学芸員として新しい取り組みを始めた。この一年を振り返ってみて、この課題に対する実践成果は予想以上にあげることができたと自負している。

4月から6月に博物館資料展「糸を紡いで布を織る」を開催。単に収蔵資料を展示公開するだけでなく、収蔵資料から踏板つきの地機を復元製作し、体験講座を開いて、その機に糸をかけて実際に布を織ってみる（来館者はその実演のようすも見学できる）という資料展を企画した。この企画・運営は、はしかけグループ「中世のおんなたち」の自発的なご協力により支えられた。資料展終了後、中世のおんなたちに体験講座の受講生を加え、「近江はたおり探検隊」として新たな旗揚げをした。毎月1回研究会を開き、月に2回織姫の会で機織り活動を行い、機織りの再現に必要な道具の製作、県内の地機（天秤腰機）などの機織り用具調査、織物産地の見学会などを行っている。こうしたはしかけ活動は、資料展をきっかけとしてつながった研究者・専門技術者・機織り愛好者などのネットワークによって支えられ、活動を進めていく中でそのネットワークはさらに広がっている。

本年度は、こうした地域に残る機織り用具の存在意義と利用価値をさまざまな人々と発掘していく実践成果を、民俗学、民具学、博物館学の研究者や地域の生涯学習に関わる人々、博物館利用者などへ、印刷物や講演という形で公表した。社会からの関心も高く、マスコミ取材され、朝日・読売・京都新聞やNHK、滋賀ケーブルテレビ、守山市有線放送などで報道された。来年度は、博物館内部での連携や地域の中で活動するグループとの協働を深め、地域の中のさまざまな年齢層の人々をつないで、地域文化を探究・継承、ネットワーク形成を進めていきたいと考えている。その実践成果についても、今年度同様、広くさまざまな立場の方々に公表し、社会的な反応を問うていきたい。

事業部の業務としては、今年度よりWeb（インターネットページ）更新とQuery（電子メールによる質問受付）対応の担当となり、博物館利用者からの問い合わせ窓口・情報発信を行った。博物館に寄せられるご意見を糧にして、利用者によりよく博物館のことを分かっていたことに配慮した。また、各部署で作成されたお知らせ情報をタイムリーに収集しWeb更新に活かしていくための体制づくりにも取り組んだ。1年で変えられたことはわずかであったが、タイムリーに情報発信していく基礎はつくることができたと思っている。これらについても、ポリシーと実践をまとめ、館内外に報告できたらと考えている。

印刷物

【専門分野の著作】

中藤容子（2004）博物館資料展「糸を紡いで布を織る－民具の復元・再現・体験－」を終えて。『博物館研究』8（39）、日本博物館協会：18-19.

中藤容子（2004）頑張ってます！若手会員からの声3「博物館の民具の価値を人々とともに発掘する」。てくてく野路地井、49、近畿民具学会：6-8.

【一般向けの著作】

- 中藤容子 (2004) 特集「糸を紡いで布を織る- 民具の復元・再現・体験-」. うみんど, 30, 琵琶湖博物館:2-3.
- 中藤容子 (編・著) (2004) 第3回博物館資料展 (民俗資料・その3)「糸を紡いで布を織る- 民具の復元・再現・体験-」. 展示リーフレット, 琵琶湖博物館:8p.
- 中藤容子 (2004) 研究最前線 民具の利用価値を掘り起こす- はしかけ「近江はたおり探検隊」の結成-. うみんど, 32, 琵琶湖博物館:6.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 中藤容子 (2004年10月3日) 博物館収蔵資料をめぐる 人々の協働と利用価値の再発見- 資料展「糸を紡いで布を織る- 民具の復元・再現・体験-」の実践から-. 日本民俗学会第56回年会, 日本民俗学会, 園田学園女子大学 (兵庫県尼崎市).
- 中藤容子 (2004年11月14日) 博物館に収蔵する民具の利用価値を人々とともに発掘する- はしかけグループ「近江はたおり探検隊」の実践-. 日本民具学会第29回大会, 日本民具学会, 別府大学 (大分県別府市).
- 中藤容子 (2005年1月20日) 地域博物館の可能性を探る- 近江はたおり探検隊のこれから-. 第7回近江はたおり研究会, はしかけ「近江はたおり探検隊」, 琵琶湖博物館.
- 中藤容子 (2005年1月21日) 地域博物館を核とした地域文化の探究・継承ネットワークの形成- 琵琶湖博物館の民具資料をめぐる実践と可能性-. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館.

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「博物館における民具資料の存在意義と利用価値の再発見」, 研究代表者 (2004年度).

【大学の講義・実習、学生の指導など】

- 2005年2月19日, 京都造形芸術大学, 民俗資料の保存処理・整理法.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- フロアトーク・質問コーナー, 琵琶湖博物館, 11件.
- 2004年4月28日~6月9日, 地機織り体験講座, 琵琶湖博物館, 12回.
- 2004年5月17日~2005年2月12日, 地機探検隊・見学会, 県内外資料館、織物産地など, はしかけ「近江はたおり探検隊」活動, 28件.
- 2004年7月28日~2005年3月10日, 織姫の会, 琵琶湖博物館など, はしかけ「近江はたおり探検隊」活動, 20件.
- 2004年7月21日~2005年3月17日, 近江はたおり研究会 (第1回~第9回) 琵琶湖博物館、高島地域地場産業センター、守山市立中洲公民館など, はしかけ「近江はたおり探検隊」活動, 9件.
- 2004年4月24日, 機織り体験をしよう, 体験学習の日プログラム, 琵琶湖博物館, はしかけ「中世のおんなたち」活動.
- 2004年8月12日, 民俗資料の保存処理, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 講義.
- 2004年9月29日, 民俗資料の整備方法, JICA 博物館集中コース, 琵琶湖博物館.
- 2004年10月9・23日, 草木染めをしよう, 体験学習の日プログラム, 琵琶湖博物館, はしかけ「近江はたおり探検隊」活動, 2件.
- 2005年1月23日, 博物館の民具を活かす- 近江はたおり探検隊の活動-, 平成16年度連続講座「琵琶湖博物館の

自己紹介」, 琵琶湖博物館.

2005年3月6日, 近江はたおり探検隊の活動紹介, はしかけ活動発表会, 琵琶湖博物館, はしかけ「近江はたおり探検隊」活動.

他の博物館・機関等主催行事

2004年6月2日, 私が学芸員になるまで, 県立河瀬中学校, 県立河瀬中学校2年生, 琵琶湖博物館.

2004年7月27・28日, 滋賀県の食生活今昔などの講義, 石部高校, 体験学習, 琵琶湖博物館, .

2004年9月25・26日, 分科会「琵琶湖博物館のはしかけを体験しよう!!」, 第13回全国ボランティアフェスティバルびわこ実行委員会など, 第13回全国ボランティアフェスティバルびわこ, 琵琶湖博物館, はしかけ「近江はたおり探検隊」活動.

2004年10月19日, 草木ぞめをしよう, 若鮎保育園(守山市) はしかけ「近江はたおり探検隊」活動.

2004年11月9日, 収集資料の整理指導, 新堂中学校, 職業体験, 琵琶湖博物館.

2004年12月7日, 設立経緯と特徴、今後の課題, 愛知学院大学文学部史学科, 琵琶湖博物館.

2004年12月11日, 綿からの糸紡ぎ, 金田公民館(近江八幡市), はしかけ「近江はたおり探検隊」活動.

2005年2月6・19・24日, 綿からの糸紡ぎ, 中洲公民館(守山市), 綿からの糸紡ぎフェア, 中洲公民館(守山市) はしかけ「近江はたおり探検隊」活動, 3件.

2005年2月26日, 綿からの糸紡ぎ, 第5回パワフル交流市民21実行委員会, 草津市市民活動交流会「第5回パワフル交流市民21」, 市立まちづくりセンター(草津市) はしかけ「近江はたおり探検隊」活動.

視察対応

2004年5月9日, 「糸を紡いで布を織る」展示について, 新潟県立歴史博物館, 琵琶湖博物館.

2004年5月18日, 機織りの展示と活動について, 高島綿'sクラブ, 琵琶湖博物館.

2004年5月23日, 機織り道具について, 砺波郷土資料館, 琵琶湖博物館.

2004年10月8日, 昭和30年代の台所用具(資料の熟覧) 栗東歴史民俗資料館, 琵琶湖博物館環境収蔵庫.

2005年3月3日, 草津宿街道交流館, 琵琶湖博物館民俗収蔵庫.

メディアへの協力

2004年4月15日, サンライズ出版, 「特集 地機織り入門」Duet 86号, はしかけ活動発表会「中世のおんなたち」地機織り準備について, (2004年3月13・14日取材).

2004年4月24日, 京都新聞, 機織り文化を再現 草津の琵琶湖博物館, 博物館資料展「糸を紡いで布を織る- 民具の復元・再現・体験-」, (2004年4月23日取材).

2004年4月28日, 読売新聞, 古代の機織りを体験 弥生機 親子連れら30人楽しむ, 体験学習の日プログラム「機織り体験をしよう」, (2004年4月24日取材).

2004年4月28日, 滋賀ケーブルネットワーク, 地機織り体験講座, (2004年4月28日取材).

2004年4月28日, びわ湖放送, 6時と10時のニュース, 地機織り体験講座, (2004年4月28日取材)

2004年4月30日, KBS ラジオ, 知っとこ滋賀「いくよくるよのはりきりフライデー」, 博物館資料展「糸を紡いで布を織る- 民具の復元・再現・体験-」など, (2004年4月30日取材).

2004年5月7日, NHK, おうみ発610(おでかけおうみ), 博物館資料展「糸を紡いで布を織る」, 地機織り体験講座, (2004年5月6日取材).

2004年10月19日, 守山市有線放送, 若鮎保育園(守山市) 草木染めをしよう, (2004年10月19日取材).

2005年2月10日, 朝日新聞, 「機織りの伝統伝承 守山で28日まで「綿から糸を紡ぐフェア」」, 中洲公民館「綿から糸を紡ぐフェア」に協力, (2005年2月6日取材).

2005年2月27日, 守山市民新聞, 中洲公民館「綿から糸を紡ぐフェア」に協力, (2005年2月6日取材).

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館インターネットページ更新, 主担当.

Query 対応, 主担当.

民俗データベース (Web 公開版) の整備, 主担当.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

民俗収蔵庫維持管理業務, 主担当.

環境収蔵庫維持管理業務, 副担当.

民俗・環境資料の収集・受入, 主担当, 3 件 (105 点).

民俗・環境資料の整理・登録, 主担当.

民俗・環境資料の貸出, 主担当, 3 件 (35 点).

機織り用具の製作 (「近江はたおり探検隊」活動) 5 点.

橋本鉄男蔵書の受入, 主担当.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2004 年 4 月 23 日～6 月 10 日, 博物館資料展「糸を紡いで布を織る- 民具の復元・再現・体験-」企画・製作・運営, 主担当.

常設展示 B 展示室「湖に生きる人々」コーナー管理, 主担当.

屋外展示生活実験工房の畑に綿・苧麻を栽培, はしかけ「近江はたおり探検隊」活動.

モーニングレクチャー, 講演, 3 回.

【企画調整活動】

ショップ・レストラン会議担当, 2004 年度.

新任職員研修, B 展示室, 2004 年 4 月 15 日.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2004 年度, うみんど編集委員.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

青木伸子（2005年3月5日～6日）博物館に参加するということ（事例紹介）～琵琶湖博物館のはしかけ制度～。
特定非営利活動法人大阪自然史センター，特定非営利活動法人西日本自然史系博物館ネットワーク，友の会
交流プレサミット「いま、自然史博物館友の会を考える」，津名ハイツ（兵庫県津名郡津名町），[口頭発表]。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2004年4月～2005年3月，丸子船のペーパークラフトをつくろう等13講座，「体験学習の日」事業（毎月第2第4
土曜日開催）博物館実習室等，主担当，22件（浅井 浩氏、平山一造氏、立石文代氏、前田雅子氏、武田 繁
氏と共同）。

2004年4月～2005年3月，体験学習の日はしかけ，はしかけ活動，博物館および館外，はしかけグループ担当。

2004年4月～2005年3月，一般団体館内利用支援，琵琶湖博物館，主担当。

2004年4月～2005年3月，地域・一般団体館外利用支援，琵琶湖博物館，副担当。

2004年4月～2005年3月，「里山の山菜」他4講座，里山体験教室，蒲生郡日野町，副担当，4件。

2004年11月15日，琵琶湖の魚に親しもう，JICA博物館学研修集中コース，琵琶湖博物館，講師。

2005年2月13日，「はしかけ」って楽しい！，平成16年度連続講座「琵琶湖博物館の自己紹介」，琵琶湖博物館，
副担当，（発表者は「体験学習の日はしかけ」）。

他の博物館・機関等主催行事

2004年4月～2005年3月，学校団体向け体験学習，県内県外各小中高等学校障害児教育諸学校，学校団体向け体験
学習，琵琶湖博物館，講師，404件（135校：13601名）。

ボランティアメッセ2004，つながりあう未来のミュージアム，日本未来科学館，活動報告会，日本未来科学館（東
京都），担当補助。

2004年6月5日，昔の生き物，草津市馬場町子供会，一般団体体験学習，琵琶湖博物館，講師。

2004年6月13日，琵琶湖の魚に親しもう，栗東第8団カブスカウト隊，一般団体体験学習，琵琶湖博物館，講師。

2004年7月4日，よし笛をつくろう，奈良県都祁村教育委員会，一般団体体験学習，琵琶湖博物館，講師。

2004年7月11日，よし笛をつくろう，大阪府善久寺子供会，一般団体体験学習，琵琶湖博物館，講師。

2004年7月18日，よし笛をつくろう，能登川神郷町子供会，一般団体体験学習，琵琶湖博物館，講師，（環境学習
グループ「わのたね」と共同）。

2004年8月2日，よし笛をつくろう，大津市松原町子供会，一般団体体験学習，琵琶湖博物館，講師。

2004年8月15日，化石のレプリカをつくろう，胆道閉鎖症の子どもを守る会，一般団体体験学習，琵琶湖博物館，
講師。

2004年8月19日，博物館で知ろう琵琶湖の環境，滋賀県総合教育センター，環境科学講座，琵琶湖博物館，講師。

2004年8月21日，琵琶湖の魚に親しもう，泉南市立青少年センター，一般団体体験学習，琵琶湖博物館，講師。

2004年8月24日, 琵琶湖の魚に親しもう, 常盤小学校, 学校団体向け体験学習, 琵琶湖博物館, 講師.

2004年9月12日, よし笛をつくろう, ダスキン出口支店, 一般団体体験学習, 琵琶湖博物館, 講師.

2004年10月31日, よし笛・よし凧をつくろう, 矢倉公民館, 一般団体体験学習, 矢倉公民館(草津市), 講師, (協力: 体験学習の日はしかけ).

2004年11月9日～11日, 職場体験実習受け入れ, 草津市立新堂中学校, 職場体験実習, 琵琶湖博物館, 学芸員体験担当, 2件.

2005年12月12日, 琵琶湖の魚に親しもう, 近江八幡市環境課, 一般団体体験学習, 琵琶湖博物館, 講師.

2005年1月30日, とびだせミュージアム, 滋賀県立草津文化芸術会館, 館外利用者向け体験学習, 滋賀県立草津文化芸術会館(草津市), 講師, (体験学習の日はしかけと共同).

2005年2月20日, ようこそ琵琶湖博物館へ, 滋賀YMCA, 概要説明, 琵琶湖博物館, 説明者.

2005年2月26日, 琵琶湖博物館交流事業紹介, 草津市, 草津パワフル市民交流21, 草津まちづくりセンター(草津市), 副担当.

2005年2月27日, 偏光スコープをつくろう, 体験学習の日はしかけ, 館内利用者向け体験学習, 琵琶湖博物館, 講師.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2004年10月～2005年3月, 地域子ども教室推進実行委員会, 委員.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

磯野なつ子 (2004年12月18日) 心をひらくから学びへ。平成16年度琵琶湖博物館研究発表会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 2004年5月, こいのぼりを作ろう, カウンタープログラム, 琵琶湖博物館, 企画・実施.
- 2004年6月5日, 昔の生き物, 子ども会向け教育プログラム, 琵琶湖博物館, 企画・実施.
- 2004年7月, 短冊に願い事を書こう, カウンタープログラム, 琵琶湖博物館, 企画・実施.
- 2004年8月9日, 博物館実習, 展示コーナーの製作, 琵琶湖博物館, 指導.
- 2005年2月, 鬼のお面を作ろう, カウンタープログラム, 琵琶湖博物館, 企画・実施.
- 2005年3月, 雛人形を作ろう, カウンタープログラム, 琵琶湖博物館, 企画・実施.
- 2005年3月7日, 展示と利用者をつなぐ, 子ども体験教室, 琵琶湖博物館, ワークショップの企画・実施.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

- 2004年7月, 「ミクロの世界」展示替え- 博物館のまわりで見つけたもの, 企画・展示.
- 2004年7月, 「音のへや」展示更新- 雨の音を奏でてみよう, 企画・展示.
- 2004年7月21日, 「世界の子どもたち」展示替え- フィンランドの夏休み, 企画・展示.
- 2004年12月14日, 「世界の子どもたち」展示替え- フィンランドの冬休み, 企画・展示.
- 2005年3月, 「動物のすみか」展示更新, 企画・展示.
- モーニングレクチャー, ワークショップ「モノの見方」の実施, 1回.
- 展示交流員と話そう (ドングリであそぼう), 内容指導.
- 展示交流員と話そう (アカハライモリ), 内容指導.
- 展示交流員と話そう (フィンランドってどんなところ?), 内容指導.
- 展示交流員と話そう (はくぶつかん おもしろ はっけん ガイドツアー), 内容指導.
- 2005年3月, 子ども用リーフレット琵琶湖博物館, 企画・製作, (木村美枝氏と共同).

印刷物

【一般向けの著作】

大塚泰介・大川 聡 (2004) 特集ミクロの世界を探検しようー プランクトンの不思議ー プランクトンの親子のつながり. うみんど, 33, 琵琶湖博物館 : 2-3.

大塚泰介・大川 聡・楠岡 泰 (2004) 琵琶湖博物館ギャラリー展示「ミクロの世界を探検しようー プランクトンの不思議ー」. パンフレット, 琵琶湖博物館 : 8p.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2004年8月4日, 博物館実習, 樹脂封入標本作成実習, 琵琶湖博物館, 講師.

2004年8月10~12日, 微小生物の静止画撮影実習, 博物館実習, 講師, 3件.

2004年11月13日, 秋の里山探検, 観察会, 大津市仰木町, 協力.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

微小生物の静止画撮影及び整理, 1218件.

微小生物の動画撮影及び整理, 4件.

収蔵庫温湿度データ収集・管理.

収蔵庫温湿度データ利用・管理マニュアル作成.

収蔵庫温湿度データの報告書類変更.

無脊椎動物標本の整理基準作成.

無脊椎動物標本整理, 指導, 3920件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2004年度, C展示室生き物コレクション「プランクトン」, 展示更新, 2件.

2004年12月23日~2005年4月10日, ギャラリー展示「ミクロの世界を探検しようー プランクトンの不思議」, 企画・展示.

博物館事業に関する業績

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

特別収蔵庫・映像収蔵庫・一時保管庫・古文書整理室のpH測定, 実施, 12回.

特別収蔵庫・映像収蔵庫・一時保管庫・古文書整理室・B展示室内の温湿度記録計による測定監視, 実施, 12回.

特別収蔵庫・一時保管庫の地図・標識の作成, 実施.

館蔵歴史資料の仮整理, 実施, 146件.

館蔵・非館蔵歴史資料写真・フィルムの整理, 実施.

東寺文書の修理保存処理委託, 指導, 30点.

小牧家資料の整理, 指導・実施, 約900点.

低酸素濃度殺虫処理法, 検討・実施, 3件.

虫害対策としての生物環境調査(トラップ)実施, 3回.

紙資料保存方針案の作成.

歴史資料整備・保存の業務マニュアル作成.

資料保存・IPM関連論文の収集・整理, 実施.

購入資料調査, 実施, 3件.

提供資料受け入れ(小西家文書・村上家文書)実施, 2件.

東寺文書の熟覧対応, 2件.

資料写真プリント貸出, 実施.

饗庭文書写真・フィルム・紙焼き整理・貸出, 実施.

地学鉱物資料整理, 資料名翻刻.

体験学習「紙すきをしよう」への関連「近江雁皮紙ものしりメモ」の作成.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2004年5月10日～11月8日, B展示陳列替え, 実施, 3件.

2005年3月22日～4月17日, B展蔵ケーストピック展示(山王祭礼図屏風), 実施.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 2004年5月, こいのぼりを作ろう, カウンタープログラム, 琵琶湖博物館, 企画・実施.
- 2004年6月5日, 昔の生き物, 子ども会向け教育プログラム, 琵琶湖博物館, 実施.
- 2004年7月, 短冊に願い事を書こう, カウンタープログラム, 琵琶湖博物館, 企画・実施.
- 2004年8月9日, 博物館実習 展示コーナーの製作, 琵琶湖博物館, 指導.
- 2004年12月, お正月の準備をしよう, カウンタープログラム, 琵琶湖博物館, 企画・実施.
- 2005年2月, 鬼のお面を作ろう, カウンタープログラム, 琵琶湖博物館, 企画・実施.
- 2005年3月, 雛人形を作ろう, カウンタープログラム, 琵琶湖博物館, 企画・実施.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

- 2004年7月, 「生物棚」展示替え, ツバメの巣, 企画・展示.
- 2004年7月, 「音のへや」展示更新, 雨の音を奏でてみよう, 企画・展示.
- 2004年7月21日, 「世界の子どもたち」展示替え, フィンランドの夏休み, 企画・展示.
- 2004年12月14日, 「世界の子どもたち」展示替え, フィンランドの冬休み, 企画・展示.
- 2005年3月, 「動物のすみか」展示更新, 企画・展示.
- 2005年3月, 「音のへや」展示更新, アジアの楽器, 企画・展示.
- モーニングレクチャー, ワークショップ「モノの見方」の実施, 1回.
- 交流員と話そう (ドングリであそぼう), 内容指導.
- 交流員と話そう (アカハライモリ), 内容指導.
- 交流員と話そう (フィンランドってどんなところ?), 内容指導.
- 交流員と話そう (はくぶつかん おもしろ はっけん ガイドツアー), 内容指導.
- 2005年3月, 子ども用リーフレット琵琶湖博物館, 企画・製作 (木村美枝氏と共同).

印刷物

【学術論文】

- Ohara, K., Takahashi, D. and Takagi, M. (2004) Isolation of microsatellite loci in the freshwater goby, *Rhinogobius* sp. (Gobiidae). *Molecular Ecology Notes*, 4, Blackwell Publishing : 49-551.
- Takahashi, D. and Ohara, K. (2004) Genetic variations estimated from PCR-RFLP analysis on the freshwater goby *Rhinogobius* in Lake Biwa. *Ichthyological Research*, 51, Springer-Verlag : 99-105.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 高橋大輔・大原健一（2004年9月25日）マイクロサテライトDNAマーカー座と保護卵の発生段階から明らかにされたハゼか魚類トウヨシノボリの配偶システム. 2004年度日本魚類学会年会, 日本魚類学会, 琉球大学（沖縄県那覇市）, [ポスター発表].
- 大原健一・高木基裕・平嶋健太郎（2004年9月26日）沖縄本島に生息する絶滅危惧種アオバラヨシノボリの遺伝的多様性と遺伝的分化. 2004年度日本魚類学会年会, 日本魚類学会, 琉球大学（沖縄県那覇市）, [ポスター発表].
- 大原健一（2004年8月20日）DNA多型を用いたヨシノボリ類の遺伝学的研究. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館共同研究「ヘラブナの放流に伴う琵琶湖在来フナ集団への遺伝的影響」（研究代表者：大原健一），研究代表者（2003年4月～2004年3月）.
- 野生水生生物多様性保全対策事業（水産庁）「アオバラヨシノボリ・キバラヨシノボリ」（研究代表者：高木基裕），研究担当者（2003年4月～2005年3月）.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本水産学会, *Fisheries Science*, 論文査読, 1件.
- 日本魚類学会, *魚類学雑誌*, 論文査読, 1件.

博物館事業に関する業績

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

- モーニングレクチャー, 講演, 3回.

印刷物

【学術論文】

Takahashi, T. (2004) Morphological and genetic distinctness of rock and shell-bed dwelling *Telmatochromis* (Teleostei, Cichlidae) in the South of Lake Tanganyika suggest the existence of two species. *Journal of Fish Biology*, 65 (2) : 419-435.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

高橋鉄美・大塚泰介・矢部 衛・遠藤広光・篠原現人・瀬能 宏・林 洋平・松浦啓一 (2004年9月25日) 統計的手法を用いた計数形質および質的形質による魚類の種同定. 2004年度日本魚類学会年会, 日本魚類学会, 琉球大学 (沖縄県那覇市), [ポスター発表].

山岡耕作・柳沢康信・仲谷一宏・高橋鉄美 (2004年9月26日) 2004年度日本魚類学会年会シンポジウム「生物学のモデル満載! アフリカンシクリッドの分類・生態・進化」. 2004年度日本魚類学会年会, 日本魚類学会, 沖縄都ホテル (沖縄県那覇市), [企画・運営].

高橋鉄美 (2004年9月26日) タンガニカ湖産カワスズメ科魚類の分類と系統. 2004年度日本魚類学会年会シンポジウム「生物学のモデル満載! アフリカンシクリッドの分類・生態・進化」. 2004年度日本魚類学会年会, 日本魚類学会, 沖縄都ホテル (沖縄県那覇市), [口頭発表].

堀 道雄・幸田正典・寺井洋平・高橋鉄美 (2004年9月26日) 総合討論 2004年度日本魚類学会年会シンポジウム「生物学のモデル満載! アフリカンシクリッドの分類・生態・進化」. 2004年度日本魚類学会年会, 日本魚類学会, 沖縄都ホテル (沖縄県那覇市), [パネリスト].

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費補助金「アフリカ・タンガニカ湖産カワスズメ科魚類における適応放散メカニズムの解明」(研究代表者: 高橋鉄美), 研究代表者 (2003年1月~2005年12月).

琵琶湖博物館共同研究「「カワウ問題」解決に向けての生態学的アプローチ」(研究代表者: 亀田佳代子), 共同研究者 (2001年4月~2005年3月).

科学研究費補助金「魚類の数値データを用いた同定ツール作成の研究」(研究代表者: 松浦啓一), 研究分担者 (2004年4月~2007年3月).

琵琶湖博物館共同研究「珪藻電子図鑑の増補改良」(研究代表者: 大塚泰介), 共同研究者 (2004年4月~2009年3月).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

Ichthyological Research 誌, 3件.

Copeia 誌, 2件.

The Netherlands Foundation for the Advancement of Tropical Research (WOTRO), 1件.

【受賞など】

2004 年度日本魚類学会賞論文賞, 「Takahashi, T. (2003) Systematics of Tanganyikan cichlid fishes (Pisces: Perciformes) . Ichthyological Research, 50 (4) : 367-382).

博物館事業に関する業績

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

アブラヒガイ産卵の映像作成.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2004 年 8 月 16 日～2004 年 9 月 21 日, タンザニア・ムワンザ, 魚類採集.

2004 年 11 月 9 日～2004 年 11 月 19 日, ベルギー・ブリュッセル, イギリス・ロンドン, フランス・パリ, 魚類模式標本調査.

2004 年 12 月 8 日～2005 年 2 月 11 日, ザンビア・ムプルング, タンザニア・キゴマ, 魚類採集・魚類生態調査.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

野嶋宏二（2005年3月18日）日本列島中期更新統のコイ、フナ化石. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館,
[口頭発表].

印刷物

【専門分野の著作】

藤田裕子（2004）ラオス北部の水田に生息する藻類群集- 藻類量- . 研究プロジェクト 4-2 「アジア・熱帯モンスーン地域の地域生態史の統合的研究」2003 年度報告書, 総合地球環境学研究所 : 132-136.

【一般向けの著作】

藤田裕子（2004）牛にひかれてラオス. はしかけニュースレター, 琵琶湖博物館, 3 回.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

藤田裕子（2004 年 5 月）水田に生息する微細藻類の分布特性について. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

藤田裕子・大塚泰介（2004 年 9 月）北部ラオスの水田の生息する藻類群集. 日本陸水学会第 69 回大会, 新潟大学（新潟市）, [口頭発表].

藤田裕子（2004 年 10 月）2004 年ラオス調査成果報告. 総合地球環境学研究所研究プロジェクト 4-2 森林農業班会議, 京都大学東南アジア研究所（京都市）, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

総合地球環境学研究所研究プロジェクト 4-2 「アジア・熱帯モンスーン地域の地域生態史の統合的研究」（研究代表者：秋道智彌）, 共同研究者.

琵琶湖博物館共同研究「珪藻電子図鑑の増補改良」（研究代表者：大塚泰介）, 副代表（2004 年度）.

財団法人ユアサ国際教育学術交流財団・国際共同調査研究助成「農作地環境の違いによる地下水汚染実態分析- ラオスとウズベキスタン共和国を比較して-」（研究代表者：川端良子）, 研究協力者.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

京都産業大学工学部, 数理統計学 I・II.

2004 年度前期, 大阪工業大学工学部, 生物科学 a.

2004 年度後期, 華頂短期大学, 情報処理演習 II.

博物館事業に関する業績

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー, 講演, 3 回.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2004年8月23日～9月10日，タイ王国・ラオス人民民主共和国，水田耕作技術の聞き取り調査と土壌サンプリング。

【館外の活動】

2004年4月～11月，湯川国際セミナー「強相関電子系の物理」(YKIS04)，事務局顧問。

総合・共同研究と関連した成果一覧

- Timoshkin, O. A., Grygier, M. J. and Kawakatsu, M. (2004) New and rare taxa of Turbellaria Prorhynchida from Lake Baikal (Russia) and Lake Biwa (Japan), with short notes on their ecology. Timoshkin, O. A. (ed.), *Index of Animal Species Inhabiting Lake Baikal and its Catchment Area*. Vol. 1. Lake Baikal. Book 2. "Nauka", Novosibirsk, : 1279-1302 [ロシア語と英語].
- Amin, O. M.・Grygier, M. J.・長澤和也 (2004) 琵琶湖とその集水域における魚類に寄生する鈎頭虫相と Quadrigyridae 科の日本初記録 *Acanthosentis* 亜属の 2 新種について. タクサ - 日本動物分類学会誌-, (17) : 50.
- Martin, J. W. and Boyce, S. L. (2004) Crustacea: non-cladoceran Branchiopoda. Yule, C. M. and Yong, H. S. (eds), *Freshwater Invertebrates of the Malaysian Region*. Akademi Sains Malaysia and Monash University, Kuala Lumpur : 284-297.
- Olesen, J. and Grygier, M. J. (2004) Larval development of Japanese 'conchostracans' : part 2, larval development of *Caenestheriella gifuensis* (Crustacea, Branchiopoda, Spinicaudata, Cyzicidae), with notes on homologies and evolution of certain naupliar appendages within the Branchiopoda. *Arthropod Structure & Development*, 33: 453-469.
- Scholz, T., Bray, R. A., Kuchta, R. and Repová, R. (2004) Larvae of gryporhynchid cestodes (Cyclophyllidea) from fish: a review. *Folia Parasitologica*. 51: 131-152.
- Skeriková, A., Hyspa, V. and Scholz, T. (2004) A paraphyly of the genus *Bothriocephalus* Rudolphi, 1808 (Cestoda: Pseudophyllidea) inferred from internal transcribed spacer-2 and 18S ribosomal DNA sequences. *Journal of Parasitology*. 90: 612-617.
- 浦部美佐子 (2004) 河川環境と寄生虫. むしはむしでも はらのむし通信 (目黒寄生虫館) (184) : 3-13.
- Ohtsuka, T., Hanada, M. & Nakamura, Y. (2004) SEM observation and morphometry of *Encyonema leei* (Krammer) nov. comb. *Diatom*, 20: 145-151.
- 有田重彦・大塚泰介 (2004) 円弧構成モデルによる *Navicula* 殻外形の記述. *Diatom*, 20: 191-198.
- Takahashi, T. 2004. Morphological and genetic distinctness of rock and shell-bed dwelling *Telmatochromis* (Teleostei, Cichlidae) in the south of Lake Tanganyika suggest the existence of two species. *Journal of Fish Biology*, 65 (2): 419-435.
- 亀田佳代子. 2004. ウ類の採食生態における個体変異. 日本鳥学会誌 53 (1): 11-21.
- 前畑政善 (2004) 琵琶湖の水辺移行帯- 魚にとっての水田の役割-. 月刊「水」46号, 月刊「水」発行所, 東京: 26-3
- 前畑政善 (2004) 魚が田んぼに入るわけ-ナマズの子孫繁殖戦略-. 自然保護 (479) (財) 日本自然保護協会, 東京: 36-37.
- K. Takahashi, Y. Soeda, M. Izuho, K. Aoki, G. Yamada and M. Akamatsu (2004) A new specimen of *Palaeoloxodon naumanni* from Hokkaido and its significance. *the Quaternary Research*, 43, 169-180.
- 高橋啓一 (2004) 研究最前線「東アジアから古琵琶湖層群の動物化石を研究する」. うみんど, (31), 5-6.

*編集者注: 著者の順番は、様々な分野で書き方や順番など異なった仕様があるとは思われるが、分野等は考慮せず、アルファベット順に並べた。

2004 年度の研究活動をふりかかって

ここではおもに、研究を中心とした業績をふりかえって、研究の推進と発信に関わる現状と課題について述べる。

2004 年度の博物館における研究は、前年度に総合研究 2 件、共同研究 16 件、申請専門研究 3 件、専門研究 31 件の申請が総合研究・共同研究審査会に申請され、このうち共同研究で 4 件の不採用、申請専門研究で 1 件の辞退があり、最終的に総合研究 2 件、共同研究 12 件、申請専門研究 2 件、専門研究 31 件が行われた。このほか、科研費や民間の外部の助成による研究を 8 人の学芸職員が 14 件行った。また、1 人の学芸職員が科研費の出版助成を受けた。

開館以来の総合研究や共同研究などの件数をみると、近年研究件数が減少している傾向にある。これは、研究審査の申請件数そのものが減少していたり、総合研究や共同研究するような大きなテーマを行なう能力が 9 年間で十分に育ってこなかったことに問題があるように思われる。特に総合研究においては、博物館学研究系の総合研究が終了し、来年度は総合研究が 1 本になることもあり、生態学研究系や博物館学研究系の研究を課題とした総合研究を早急に立ち上げる必要がある。また、専門研究の位置づけはあくまでも「個別専門分野での高度な研究能力を維持していくために実施する研究（要覧より）」であるが、専門研究テーマが漠然としているものも見うけられ、具体的にはどのような研究を行っているのか外部から見えづらいものもある。今後は、各研究領域内で行われている研究を毎年総括し、どこまで何がわかってきたのかをまとめ、次年度以降の計画を見定める必要がある。同時に、個人で行う専門研究だけでは、個人の研究能力を向上させたり、琵琶湖関連の研究を推進したりすることには限界がある。すべての学芸職員が外部機関の研究者や異分野の研究者と総合研究や共同研究を積極的に行うことによって、これらの問題を解決していく必要がある。

成果の発信については、学術論文 30 件、専門分野の著作 53 件、一般向けの著作 136 件、学会・研究会での発表 162 件がこの業績集で報告された。しかし、研究成果をどのカテゴリーに入れるかは個人に任されているために、それぞれのカテゴリーに入れられている内容には異なったレベルのものが含まれている。たとえば、学術論文 30 件のうち、査読がある研究雑誌あるいはそれと同等と考えられる雑誌や本に掲載されたものの数は 27 件であり、さらに筆頭著者として書かれているものは 9 件である。博物館における研究成果の発信は論文を書くことだけではないが、まずは論文を作る過程でその分野の研究者からの評価（査読）を受け、公表することが基本であると考えられる。その上で一般向けの著作や展示としてわかりやすい形で発表していくことが理想である。

研究部の基本方針は、幅広いテーマで研究・調査に取り組み、その成果を展示や交流活動に活かしながら、たえず成長・発展する博物館をめざすことにある。そして、人びととともに歩む博物館として、研究・調査活動に地域の人たちが広くかかわれるような研究体制づくりをめざす。さらに、琵琶湖周辺に立地する他の研究機関や大学などと相互に研究協力体制を組むとともに、将来的には、世界各地の湖沼研究にかかわる研究機関とネットワークを組みながら、長期的かつ総合的視野で横断的な研究を企画・立案・実践できるような体制づくりをめざしていかなくてはならない。琵琶湖博物館の中長期基本計画第 1 段階を翌年に控え、個人の研究能力を向上させることの重要性が緊急の課題といえる。

琵琶湖博物館業績目録 第9号

2004年度

平成17年(2005年)12月発行

編集：滋賀県立琵琶湖博物館

発行：滋賀県立琵琶湖博物館

〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091

電話 077-568-4811(代)

Performance Records of the Lake Biwa Museum

No. **9** Fiscal **2004**



LAKE BIWA MUSEUM

滋賀県立
琵琶湖博物館

〒525-0001 草津市下物町1091
TEL.077-568-4811代 FAX.077-568-4850

LAKE BIWA MUSEUM
1091 Oroshimo,Kusatsu,
Shiga 525-0001,Japan